

**2024年度  
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目  
300番台  
講義概要（シラバス）**



**法政大学**

# 科目一覽

[発行日: 2024/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

〈他〉: 他学部公開科目	〈グ〉: グローバル・オープン科目
〈優〉: 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉: 実務経験のある教員による授業科目
〈S〉: サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉: サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉: サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉: サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉: サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【F1981】 教養ゼミⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	1
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【F1982】 教養ゼミⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【F9102】 Natural Science A [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	4
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6003】 第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	6
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6007】 第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	7
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6101】 漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	8
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6102】 漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	9
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】 教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	10
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】 教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	12
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6106】 文芸創作講座B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	13
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6107】 日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	14
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6108】 日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	15
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	16
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	18
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	20
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	21
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	22
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	24
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】 教養ゼミⅠ [高屋敷 直広] 春学期授業/Spring	26
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】 教養ゼミⅡ [高屋敷 直広] 秋学期授業/Fall	28
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	30
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	31
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6125】 古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	32
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6126】 古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	33
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	34
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	36
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	38
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	39
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズA [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	40

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6132】クィア・スタディーズB [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	42
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6133】キリスト教思想史A [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	44
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6134】キリスト教思想史B [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	46
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6137】異文化コミュニケーション論A [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	48
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	50
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】教養ゼミⅠ [矢澤 美佐紀] 春学期授業/Spring	52
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】教養ゼミⅡ [矢澤 美佐紀] 秋学期授業/Fall	53
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6143】イギリスと帝国A [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	54
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6144】イギリスと帝国B [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	55
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6145】教養ゼミⅠ [副島 健作] 春学期授業/Spring	56
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6146】教養ゼミⅡ [副島 健作] 秋学期授業/Fall	58
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6147】徳と倫理A [内山 真莉子] 春学期授業/Spring	60
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6148】徳と倫理B [内山 真莉子] 秋学期授業/Fall	61
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6201】法哲学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	62
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6202】法哲学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	64
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6203】教養ゼミⅠ [坂根 徹] 春学期授業/Spring	66
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】教養ゼミⅡ [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	67
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】人文地理学セミナーA [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	68
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】人文地理学セミナーB [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	69
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】文化人類学方法論A [菊池 真理] 春学期授業/Spring	70
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】文化人類学方法論B [菊池 真理] 秋学期授業/Fall	71
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】教養ゼミⅠ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	72
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】教養ゼミⅡ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	73
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】人間行動学A [久木田 敦志] 春学期授業/Spring	74
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】人間行動学B [久木田 敦志] 秋学期授業/Fall	75
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6217】教養ゼミⅠ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	76
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6218】教養ゼミⅡ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	77
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6219】沖縄を考えるA [明田川 融、大里 知子] 春学期授業/Spring	78
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6220】沖縄を考えるB [明田川 融、大里 知子] 秋学期授業/Fall	79
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6225】ヨーロッパ政治経済論A [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	80
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6226】ヨーロッパ政治経済論B [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	81
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6227】法の人間学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	83
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6228】法の人間学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	85
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6305】計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	87
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6306】コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	88
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6309】集合論A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	89
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6310】集合論B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	90
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6311】相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	91

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall .....	92
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring .....	93
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall .....	94
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring .....	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall .....	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミ I [島野 智之] 春学期授業/Spring .....	97
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミ II [島野 智之] オータムセッション/Autumn Session .....	99
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring .....	101
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall .....	102
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 I Tリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring .....	103
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall .....	104
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring .....	105
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall .....	107
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6337】 ボルボックス生物論A [植木 紀子] 春学期授業/Spring .....	109
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6338】 ボルボックス生物論B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall .....	110
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6341】 バイオイメージングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring .....	111
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6342】 バイオイメージングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall .....	112
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring .....	113
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall .....	114
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring .....	116
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall .....	117
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring .....	118
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall .....	119
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6425】 教養ゼミ I [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring .....	120
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6426】 教養ゼミ II [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall .....	122
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring .....	124
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall .....	125
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring .....	126
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall .....	128
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring .....	130
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall .....	131
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術A [林 志津江] 春学期授業/Spring .....	132

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術B [林 志津江] 秋学期授業/Fall .....	134
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6437】 ドイツ語圏の公共哲学A [上田 知夫] 春学期授業/Spring .....	136
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6438】 ドイツ語圏の公共哲学B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall .....	137
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring .....	138
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall .....	140
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring .....	142
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall .....	144
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学A [白井 隆長] 春学期授業/Spring .....	146
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall .....	148
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学A [武井 敦彦] 春学期授業/Spring .....	150
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学B [武井 敦彦] 秋学期授業/Fall .....	152
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring .....	154
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall .....	156
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring .....	158
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall .....	159
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業/Spring .....	160
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業/Fall .....	162
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業/Spring .....	164
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業/Fall .....	165
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミ I [藤岡 成美] 春学期授業/Spring .....	166
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミ II [藤岡 成美] 秋学期授業/Fall .....	168
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring .....	170
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall .....	172
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミ I [林 容市] 春学期授業/Spring .....	174
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミ II [林 容市] 秋学期授業/Fall .....	176
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語A [廣松 勲] 春学期授業/Spring .....	178
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall .....	180
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] サマーセッション/Summer Session .....	181
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] オータムセッション/Autumn Session .....	183
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミ I [ルルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring .....	185
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミ II [ルルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall .....	187
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級)A [ルルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring .....	188
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級)B [ルルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall .....	189
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6613】 フランス語講読A [酒井 健] 春学期授業/Spring .....	191
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6614】 フランス語講読B [酒井 健] 秋学期授業/Fall .....	192
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring .....	193

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall .....	194
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring .....	195
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall .....	196
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring .....	197
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall .....	198
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読A [木部 敬] 春学期授業/Spring .....	199
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読B [木部 敬] 秋学期授業/Fall .....	200
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語A [油本 真理] 春学期授業/Spring .....	201
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語B [油本 真理] 秋学期授業/Fall .....	202
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語A [岩田 和子] 春学期授業/Spring .....	203
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall .....	204
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級A [周 重雷] 春学期授業/Spring .....	205
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級B [周 重雷] 秋学期授業/Fall .....	206
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳A [王 安] 春学期授業/Spring .....	207
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳B [王 安] 秋学期授業/Fall .....	208
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読A [岩田 和子] 春学期授業/Spring .....	209
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall .....	210
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring .....	211
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall .....	213
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授業/Spring .....	215
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall .....	216
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring .....	217
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall .....	218
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring .....	219
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall .....	220
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業/Spring .....	221
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業/Fall .....	222
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring .....	223
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall .....	225
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring .....	227
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall .....	228
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring .....	229
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall .....	230



LANe300LA (英語 / English language education 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (15)

その他属性：〈グ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

## 【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion

7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

## 【テキスト (教科書)】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

## 【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

## 【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

## 【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP)Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

## 【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will have the opportunity to choose what individual topics interest them the most.



LANe300LA (英語 / English language education 300)

**教養ゼミⅡ**

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (15)

その他属性：〈グ〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will also have the opportunity to choose which topics they wish to study and discuss in class.

**【到達目標】**

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan (II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

**【テキスト (教科書)】**

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

**【参考書】**

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

**【成績評価の方法と基準】**

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 60%

Presentation: 10% (not graded)

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

**【学生の意見等からの気づき】**

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the numbers of students who enroll.

**【学生が準備すべき機器他】**

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

**【その他の重要事項】**

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit (聴講) the course may do so with the permission of the instructor.

**【Outline (in English)】**

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

BIO200LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 200)

Natural Science A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈グ〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.

Week 3	Water cycle and the use of water resource	As an essential matter for sustaining life and ecosystem, the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト (教科書)】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

**【成績評価の方法と基準】**

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

**【学生の意見等からの気づき】**

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

**【学生が準備すべき機器他】**

Students will need to have access to Hoppii. Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

**【その他の重要事項】**

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded. Details will be announced on Hoppii prior to the first class.

**【Outline (in English)】**

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

**第三外国語としての朝鮮語中級** 2017年度以降入学者**梁 禮先**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

**【到達目標】**

基本会話ができることを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか2	発音について
第四回	今、何時ですか1	会話の練習
第五回	今、何時ですか2	数詞について
第六回	ここはデパートですか1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか2	連体形について
第八回	私の家族です1	推量について
第九回	私の家族です2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

**【参考書】**

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

**【成績評価の方法と基準】**

総合評価の成績によります（100%）。60点以上が合格点です。（詳細は、平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。）また、三分の一以上の欠席時は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

**【学生の意見等からの気づき】**

発音をもっとやりたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

**【Outline (in English)】**

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

**< Learning Objectives >**

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

**< Learning activities outside of classroom >**

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

**< Grading Criteria /Policy >**

Term-end examination (100%)

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

**第三外国語としての朝鮮語中級** 2017年度以降入学者**梁 禮先**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

**【到達目標】**

基本会話ができることを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか2	発音について
第四回	今、何時ですか1	会話の練習
第五回	今、何時ですか2	数詞について
第六回	ここはデパートですか1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか2	連体形について
第八回	私の家族です1	推量について
第九回	私の家族です2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

**【参考書】**

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

**【成績評価の方法と基準】**

総合評価の成績によります（100%）。60点以上が合格点です。（詳細は、平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。）また、三分の一以上の欠席時は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

**【学生の意見等からの気づき】**

発音をもっとやりたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

**【Outline (in English)】**

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

## &lt; Learning Objectives &gt;

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

## &lt; Learning activities outside of classroom &gt;

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

## &lt; Grading Criteria /Policy &gt;

Term-end examination (100%)

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 漢字・漢文学A

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけでなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

## 【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価

第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・ 「詩経」と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩識」の説
第14回	まとめ	全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

## 【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

## 【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 漢字・漢文学B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

## 【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 「ゆめ」の多義性 ・ 中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・ 誕生の予言 ・ 優れた人材を教示 ・ 栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・ 死期を悟る ・ 病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・ 国家滅亡の暗示 ・ 不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・ 文学的才能の獲得と喪失 ・ 創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・ 夢と夢主 ・ 夢と現実の関連性 ・ 宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・ 死者の訴え ・ 前世の自分の訴え

第8回 復讐する死者

- ・ 生者に託した復讐
- ・ 死者による復讐
- ・ 復讐の為の転生

第9回 人外との交流

- ・ 助命嘆願
- ・ 報恩と復讐
- ・ 逆恨み

第10回 夢と恋愛文学

- ・ 夢での逢瀬
- ・ 恋愛成就の神
- ・ 夫婦の別離と再会

第11回 夢の世界の冒険

- ・ 怪異との接触
- ・ 儂い栄達
- ・ 動物への変身

第12回 他人と共有された夢

- ・ 「二人同夢」
- ・ 危機の通達
- ・ 夢での邂逅

第13回 日本における夢

- ・ 他人が見る夢

第14回 まとめ

- ・ 日本文学における夢全体の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

## 【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

## 【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

## 【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.



LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現 (クリエイティブ・ライティング) における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部 (デテール) 表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そのうち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えて臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めよう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。

第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品 (第二作目) の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

作品は授業時間外に制作してもらいます。創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなりません。

【テキスト (教科書)】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出50%、授業内討議への積極的な参加30%、期末に課す課題 (自分の作品のブラッシュアップ) 20%。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline  
Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

## 【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

## 【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

## 【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

## 【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35%、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35%、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文) 30%。

## 【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

## 【Outline (in English)】

## Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

## Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 文芸創作講座 B

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

## 【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決めます。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書きます。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第2回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第3回	時間と場所の移動	物語における時間と場所の設定について考える。
第4回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第5回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第6回	天気、名前	物語の詳細について考える。自分の小説についての構想を考える。
第7回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら作品のテーマを決める。
第8回	小説を書く(1)	小説を書きはじめる(2,000字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第9回	小説を書く(2)	小説を書き続ける(前回に加えて2,000字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第10回	小説を書く(3)	小説を書き続ける(それまで書いたものと合わせて6,000字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第11回	ブラッシュアップ	最終原稿(8,000程度)の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第12回	講評(1)	作品をみんなで読み、講評する。

第13回 講評(2)

作品をみんなで読み、講評する。

第14回 まとめ

授業全体のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

## 【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

## 【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室—伝える、揺さぶる基本メソッド』(河出書房新社、2018年)

スティーヴン・キング『書くことについて』(小学館、2013年)

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』(白水社、1997年)

Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題(20%)、グループワークと合評への参加度(30%)、学期末までに完成させた小説(50%)で総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続きグループディスカッションを中心にフィードバックし合う時間をとる必要があります。

## 【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

## 【その他の重要事項】

HoppiiとGoogle Classroomを使います。

## 【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their projects. They will also read other students' stories (one to three hours per session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## 日本芸能論 A

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

## 【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能 (時代・ジャンルは問いません) について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流鏑馬～」 「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表

第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

## 【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

## 【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

発表内容70% (①②③) またはレポート70% (①②④)、平常点および討論への参加状況30% (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらった課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

## 【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めますので、当科目受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## 日本芸能論 B

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月3/Mon.3

単位数: 2単位

定員制 (40)

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

## 【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能(時代・ジャンルは問いません)について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOIソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラームーン」

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。

第9回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第10回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第11回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第12回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第13回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

## 【テキスト(教科書)】

適宜、プリントを配布します。

## 【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

発表内容70% (①②③) またはレポート70% (①②④)、平常点および討論への参加状況30% (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらった課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

## 【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めます。当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)	4/24	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。
<b>美術論 A</b>			
2017年度以降入学者			
<b>稲垣 立男</b>			
開講時期：春学期授業/Spring   曜日・時限：水3/Wed.3	5/8	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
単位数：2単位	5/15	ワークショップ1	単元の復習・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	5/22	近代美術1 新古典主義、ロマン主義、写実主義	古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義について学びます。
<b>【授業の概要と目的（何を学ぶか）】</b>	5/29	近代美術2 印象派、新印象派、ポスト印象派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。
2024年度美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。	6/5	ワークショップ2	単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法
特に	6/12	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論	6/19	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティール、バウハウス、ロシア構成主義	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュルレアティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。この時代には現代
・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）について段階的に幅広い視点で学んでいきます。	6/26	ワークショップ3	アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）			単元の復習・近代美術3、近代美術4 ワークショップ・シュルレアリスムの実験
・古代美術、中世美術、近世美術			
・近代美術			
・現代美術			
また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。			
<b>【到達目標】</b>			
西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。			
<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】</b>			
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			
<b>【授業の進め方と方法】</b>			
基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。			
資料			
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。			
課題			
受講後Google Formsで課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。			
質問・相談			
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。			
<b>【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】</b>			
あり / Yes			
<b>【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】</b>			
あり / Yes			
<b>【授業計画】</b> 授業形態：対面/face to face			
回	テーマ	内容	
4/10	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方	
4/17	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。	

7/3	現代美術1 レトリズム、抽象表現主義、アンフォルメル、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテポベラなどヨーロッパの動向についても学びます。
7/10	現代美術2 ミニマルアート、コンセプチュアルアート、新表現主義、YBA、リレーションアル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワー・ジェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニウム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist / リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
7/17	ワークショップ4	単元の復習・現代美術1、現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google siteで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Google siteを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

#### 【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

#### 【その他の重要事項】

初回授業はオンラインで実施します。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンツ・アーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

#### 【Outline (in English)】

##### Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

\* Art history and art theory which is the basis for understanding art

\* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

##### Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

##### Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

##### Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.



<p>ART300LA (芸術学 / Art studies 300)</p> <p><b>美術論B</b></p> <p>稲垣 立男</p> <p>開講時期：秋学期授業/Fall   曜日・時限：水3/Wed.3 単位数：2単位</p> <p>その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉</p>	<p>2017年度以降入学者</p>	<p>9/27</p> <p>原始美術 縄文・弥生・古墳時代</p>	<p>先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。</p>						
<p><b>【授業の概要と目的（何を学ぶか）】</b> 2024年度美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。 ・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論 ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評 これらについて段階的に幅広く学んでいきます。 以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。） ・原始・古代美術 ・中世美術、近世美術 ・近代美術 ・現代美術 さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。</p>		<p>10/4</p> <p>古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代</p>	<p>仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。</p>						
<p><b>【到達目標】</b> 日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。 ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。</p>		<p>10/11</p> <p>ワークショップ (1) 単元の復習・原始美術、古代美術</p>	<p>プレゼンテーションとディスカッション</p>						
<p><b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】</b> 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1</p>		<p>10/18</p> <p>中世美術 鎌倉・室町時代</p>	<p>貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。</p>						
<p><b>【授業の進め方と方法】</b> 基本的に対面授業を予定していますが、状況によりオンラインで行う場合もあります。 対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。 資料 授業前に Google sites で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。 課題 受講後、Google Forms で課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。 質問・相談 一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。</p>		<p>10/25</p> <p>近世美術 桃山・江戸時代</p>	<p>支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が開花しました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。</p>						
<p><b>【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】</b> あり / Yes</p>									
<p><b>【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】</b> あり / Yes</p>									
<p><b>【授業計画】</b> 授業形態：対面/face to face</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9/20</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の概要 美術史の学び方</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	内容	9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方			
回	テーマ	内容							
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方							
		<p>11/8</p> <p>ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術</p>	<p>プレゼンテーションとディスカッション</p>						

11/15	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と 日本画、大正デモク ラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制 作により西洋画が盛んとなった 明治時代、その一方で新日本画 運動も起こり大きく揺れ動きま した。大正時代に入ると印象派 以降のアバンギャルドなどの新 傾向が紹介されました。第二 次世界大戦の最中にはプロパガ ンダのための戦争画が描かれま す。
11/22	戦後美術 アンデパンダン、ネ オダダ、ハイレッド センター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代に は実験工房、具体美術協会が結 成され、従来の美術の枠を超え た実験的なアプローチや表現が 試みられました。続いて1960年 代にはアンデパンダン、ネオダ ダ、ハイレッドセンターなど新 しい芸術運動が始まります。こ れらの芸術運動は、戦後の日本 の芸術に新たな風を吹き込み、 アーティストの多様な表現を促 進しました。
11/29	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美 術のはじまり、戦後 美術	プレゼンテーションとディス カッション
12/6	1960-1970年代 もの派ともの派以降、 新しい表現	1960年代から1970年代の美術 に大きな影響力を持ったもの派 ともの派以降の美術やアーティ ストについて学びます。1980年 代には若いアーティストたちは、 これらの前衛的な動きを引き継 ぎながら、新たな表現手法に挑 戦しました。特にビデオアート、 インスタレーション・パフォー マンスなどが注目されました。
12/13	1990-2020年代 1990年代、ミレニア ム以降、ゼロ年代、 2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ 年代から現在に至るまでの日本 の美術について学びます。
12/20	ワークショップ (4) 単元の復習・ 1960-1980年代、 1990-2020年代	プレゼンテーションとディス カッション
1/10	ディスカッション	授業全体を振り返り、日本美術 に関するディスカッションを行 います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

#### 【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

#### 【その他の重要事項】

初回授業はオンラインで実施します。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

#### 【Outline (in English)】

##### Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content

Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

##### Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

##### Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

##### Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## 芸術と人間 A

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域です。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、映画的表現の醍醐味を学びます。

## 【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を広げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通して感想を書いてもらいます。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。

初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要があります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	-授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-ニコラス・レイ -細田守
7	列車に乗る	-リュミエール兄弟 -アルフレッド・ヒッチコック
8	列車に乗る2	-黒沢明 -ホウ・シャオシェン
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ジャン＝リュック・ゴダール
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-成瀬巳喜男 -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

## 【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社  
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50% + レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価）。

平常点は、出席だけでなく、毎回のコメント内容をカウントします。

## 【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却します。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【その他の重要事項】

初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実施し、受講資格を得た学生が受講できます。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## 芸術と人間B

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きなスケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

## 【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を上げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通して感想を書いてもらいます毎回提出してもらう。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。初回に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャック・タチ -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-アルフレッド・ヒッチコック -ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	廃墟	-ロベルト・ロッセリーニ -黒沢清
7	水と船	-F・W・ムルナウ -溝口健二
8	川	-ジャン・ヴィゴ -ジャン・ルノワール
9	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
10	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー
11	風	-ジャン・エプスタン -ゲル・ダッド
12	動物	-ロバート・フラハティ -濱口竜介
13	外国人監督による東京	-ヴィム・ヴェンダース -ジャン＝ピエール・リモザン

14 まとめ

講義のまとめ  
課題レポート提出

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

## 【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社  
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫  
その他、随時提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%+レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価）。

## 【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却します。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【その他の重要事項】

「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

仏教思想論 A

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦(仏陀)自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察(西洋哲学思想との比較)を試みます。

(初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。)

【到達目標】

・釈迦(仏陀)自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察(西洋哲学思想との比較)を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4~5回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯(1)	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯(2)	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法(説法)	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想(1)	五蘊・十二処・十八界 三つの真理(三法印) 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想(2)	「一切皆苦」 4つの真理(四諦説) 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

第7回 仏教の基本思想(3) 仏陀のさとり得た真理とその特徴

『梵天勧請』  
『縁』経、他  
比較思想的考察

第8回 仏教の基本思想(4) 「諸法無我」  
人無我と法無我  
ミリンダ王経

第9回 仏教教団と教団運営  
律蔵文献  
戒・波羅提木叉

第10回 初期仏典講読(1) 『ダンマパダ』  
第11回 初期仏典講読(2) 『スッタニパータ』  
「慈しみ」他

第12回 初期仏典講読(3) 『スッタニパータ』  
「田を耕すパーラドヴァージャ」  
他

第13回 初期仏典講読(4) 『スッタニパータ』  
真理についての争い

第14回 授業内試験・まとめ  
筆記試験  
まとめ・解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは、多くの学生にとって、初めてのことと思います。先入見を持たずに、原典(和訳)資料を読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy. The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

仏教思想論 B

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷  
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。  
 (本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化してきたのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。  
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。  
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？
第2回	部派仏教(説一切有部)の思想(1)	諸部派成立から大乘仏教へ 有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系(1)： 五位七十五法
第3回	部派仏教(説一切有部)の思想(2)	ダルマの体系(2)： 有為ダルマの二性質
第4回	部派仏教(説一切有部)の思想(3)	物質論 原子(極微)論
第5回	部派仏教(説一切有部)の思想(4)	仏教がとらえる内的世界(心・心作用)
第6回	仏教の世界観	心作用の区分け(6心所) 『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第7回	大乘仏教(1)	大乘仏教の教理的特徴
第8回	大乘仏教(2)	大乘諸経典 『般若経』の空思想

第9回	大乘仏教(3)	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中
第10回	大乘仏教(4)	縁起の思想(1) 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苜経』
第11回	大乘仏教(5)	縁起の思想(2) 縁起二種観察法 『稲苜経』・『稲苜経註』
第12回	大乘仏教(6)	大乘仏教・後期中観思想の人生観1 到達目標・理想的境地・中道
第13回	大乘仏教(7)	大乘仏教・後期中観思想の人生観2 仏陀・経典の権威について
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読  
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、2013年  
 桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996年  
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。  
 学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。  
 試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

「興味深い授業内容だった」という感想をもらいました。インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには殆ど伝わっていない後期中観思想を初めて学び、その思想(人生観等)に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。  
 また、第1回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱いますので、履修を考えている方は、第1回授業から参加にしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvakayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism.  
 The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.  
 By the end of the course, students should be able to understand the followings:  
 1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.  
 2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.

3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).



PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

高屋敷 直広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (15)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、2018年度から始まった「教養ゼミ」の科目の一つです。また本授業は、半期科目ではあるものの、秋学期同一科目の「教養ゼミII」と関連した科目であり、内容的には通年で一つのテーマを扱います。本授業では、テーマに即したテキストの精読を通じて哲学者・思想家の思考を学び、そこから自らの哲学的思考を育てていきます。

春・秋学期に共通する本授業の目的は、現代思想の重要課題である「身体」について考察することによって、人間存在=生きている人間のあり方への理解を深めることです。主に春学期は、主観と客観にまたがる身体の特徴のあり方にアプローチします。その際に、日本の著名な思想家である市川浩氏の『精神としての身体』(1975年)を主要な手引きとしながら、心身合一における人間存在を皆さんと一緒に考えていきます。

【到達目標】

- (1) 本授業で扱う哲学者・思想家の身体論を理解し、説明することができる。
- (2) 現代社会の諸課題を踏まえて、身体を考察する重要性を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、演習 (ゼミ) 形式を基本としつつ、講義による解説や補足的な説明も行います。演習では、各回担当者を決め、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて参加者が議論するようにします。また適宜、授業内アンケートを実施します。

フィードバックは、基本的に翌週以降の授業時に行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	はじめに	・ 授業の概要説明 ・ 選抜試験 (受講希望者が30名以上の場合) ・ 「身体」を考察する上での諸注意について
身体論への導入	忘却されてきた身体	・ 西洋思想史における身体の伝統的な扱われ方 ・ 「精神」に対置される「身体」
身体論の要衝	現代思想における身体と人間存在	・ ニーチェ以降の主要な身体論 ・ 現象学における「身体」と「肉体」の区別
『精神としての身体』第1章	現象としての身体①	・ 身体と主体の関係 ・ デカルトの心身二元論
『精神としての身体』第1章	現象としての身体②	・ 身体と客体の関係 ・ メルロ＝ポンティの「手」

『精神としての身体』第1章

『精神としての身体』第1章

『精神としての身体』第2章

『精神としての身体』第2章

『精神としての身体』第2章

『精神としての身体』第2章

『精神としての身体』第2章

応用問題

総括と展望

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 担当者以外の受講者は、授業前に必ず該当箇所を読んで、いくつか質問を準備しておいて下さい。
- (2) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

市川浩『精神としての身体』(勁草書房、1975年/講談社学術文庫、1992年)

(本テキストは各自で用意することが望ましいですが、難しい場合には該当箇所をこちらで用意します。なおテキスト以外の資料については、適宜こちらで用意します。)

【参考書】

各回の授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (レジュメの作成と発表・数回のアンケート提出) (50%)
- (2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、まだアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

本授業は、定員 (30名) が決められています。受講希望者が多い場合には、初回の授業で選抜試験を実施し、その合格者が受講登録できます。この試験を未受験の学生は受講できなくなりますので、受講希望者は初回の授業に必ず参加して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is one of the courses of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. Although this class is a semester-long course, it is related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester, and the content covers a single theme throughout the year. In this class, students will learn about the thoughts of philosophers and thinkers through careful reading of texts on the theme, and thereby develop their own philosophical thinking.

【Goal】

- (1) To be able to understand and explain the body theories of philosophers and thinkers covered in this class.
- (2) To be able to explain the importance of considering the body based on the issues of modern society.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- (1) Students are expected to read the relevant passages and prepare some questions about them before the class.

(2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading criteria]**

- (1) Regular marks (Students are expected to prepare and present their resumes / Students are expected to submit several reaction papers) (50%)
- (2) Final report (50%)

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

**教養ゼミⅡ**

2017年度以降入学者

高屋敷 直広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (15)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業は、2018年度から始まった「教養ゼミ」の科目の一つです。また本授業は、半期科目ではあるものの、春学期同一科目の「教養ゼミⅠ」と関連した科目であり、内容的には通年で一つのテーマを扱います。それゆえ、春学期の授業にも参加していることが望ましいです。本授業では、テーマに即したテキストの精読を通じて哲学者・思想家の思考を学び、そこから自らの哲学的思考を育んでいきます。

春・秋学期に共通する本授業の目的は、現代思想の重要課題である「身体」について考察することによって、人間存在=生きている人間のあり方への理解を深めることです。主に秋学期は、春学期の成果を踏まえて、ファッションを中心に日常における身体現象を考察していきます。その際に、春学期の主要テキスト『精神としての身体』(1975年)を引き続き手引きとしながらも、さらに他の代表的な思想家のテキストからも学んでいきます。

**【到達目標】**

- (1) 本授業で扱う哲学者・思想家の身体論を理解し、説明することができる。
- (2) 現代社会の諸課題を踏まえて、身体を考察する重要性を説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、演習 (ゼミ) 形式を基本としつつ、講義による解説や補足的な説明も行います。演習では、各回担当者を決め、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジユメにして発表し、それに基づいて参加者が議論するようにします。また適宜、授業内アンケートを実施します。

フィードバックは、基本的に翌週以降の授業時に行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施) あり / Yes**

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施) なし / No**

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	はじめに	・ 授業の概要説明 ・ 選抜試験 (受講希望者が30名以上の場合) ・ 「身体」を考察する上での諸注意について
身体論への導入	身体という概念の射程	・ 春学期の要点の確認 ・ 生身である人間存在について
『精神としての身体』第3章	行動の構造①	・ 生活世界における生と身体の働き
『精神としての身体』第3章	行動の構造②	・ 身体と道具 ・ 身体からシンボルへ
『ファッションと哲学』概観	身体とファッション	・ 「服を着る」ことの意味 ・ たんなる肉体の延長ではない衣服

『ファッションと哲学』第6章	メルロ＝ポンティ ーファッションの身体的経験①	・ メルロ＝ポンティにおける受肉した実存
『ファッションと哲学』第6章	メルロ＝ポンティ ーファッションの身体的経験②	・ 受肉した実践としてのファッション
『ファッションと哲学』第16章	バトラー ーファッションとパフォーマティヴィティー①	・ ファッションとジェンダー
『ファッションと哲学』第16章	バトラー ーファッションとパフォーマティヴィティー②	・ 身体そのものの着衣性
身体と存在論 (1)	ハイデガーにおける身体問題 ー『存在と時間』を中心に	・ 存在論に身体は不必要なのか?
身体と存在論 (2)	ハイデガーにおける「身振り」 ー『ソリコーン・ゼミナール』を中心に	・ 「身体」と「肉体」の区別から「身振り」という概念へ
応用問題 (1)	ファッションに潜む暴力	・ ラガーフェルドのダイエット ・ 「私が服を選ぶ」のではなく「服が私を選ぶ」のか?
応用問題 (2)	何かを食べる身体	・ 身体と環境 ・ 食と排泄の意味
総括と展望	「なぜ今身体が重要なのか」を考える	・ 授業全体のまとめ ・ 「脱身体化」が進む人間存在への反省

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- (1) 担当者以外の受講者は、授業前に必ず該当箇所を読んで、いくつか質問を準備しておいて下さい。
- (2) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

市川浩『精神としての身体』(勁草書房、1975年/講談社学術文庫、1992年)  
(上記テキストは各自で用意することが望ましいですが、難しい場合には該当箇所をこちらで用意します)  
アニュス・ロコモラ/アネケ・スメリク編 (蘆田裕史監訳)『ファッションと哲学ー16人の思想家から学ぶファッション論入門』(フィルムアート社、2018年)  
(上記テキストおよびその他の資料は、こちらで用意します。)

**【参考書】**

各回の授業時に提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) 平常点 (レジユメの作成と発表・数回のアンケート提出) (50%)
- (2) 期末レポート (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につき、まだアンケートを実施していません。

**【その他の重要事項】**

本授業は、定員 (30名) が決められています。受講希望者が多い場合には、初回の授業で選抜試験を実施し、その合格者が受講登録できます。この試験を未受験の学生は受講できなくなりますので、受講希望者は初回の授業に必ず参加して下さい。また選抜に際しては、春学期同一科目「教養ゼミⅠ」の受講者を優先せざるをえない場合があります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This class is one of the courses of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. Although this class is a semester-long course, it is related to "Liberal Arts Seminar I," which is the same course in the spring semester, and the content covers a single theme throughout the year. Therefore, it is desirable that students also attend classes in the spring semester. In this class, students will learn about the thoughts of philosophers and thinkers through careful reading of texts on the theme, and thereby develop their own philosophical thinking.

**【Goal】**

- (1) To be able to understand and explain the body theories of philosophers and thinkers covered in this class.
- (2) To be able to explain the importance of considering the body based on the issues of modern society.

**【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】**

- (1) Students are expected to read the relevant passages and prepare some questions about them before the class.
- (2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

- (1) Regular marks (Students are expected to prepare and present their resumes / Students are expected to submit several reaction papers) (50%)
- (2) Final report (50%)

HIS300LA (史学/History 300)

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。  
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。  
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』(Z会、2008年)  
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』(三省堂、2000年)  
天野成之『漢文基本語辞典』(大修館書店、1999年)  
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』(ちくま新書、2008年)

【成績評価の方法と基準】

試験100%  
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA (史学/History 300)

**中国の民族と文化B**

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

漢民族の文化を理解するための準備と実践。  
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

**【到達目標】**

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

**【テキスト（教科書）】**

適宜、プリントを配布します。  
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

**【参考書】**

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）  
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）  
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）  
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

**【成績評価の方法と基準】**

試験100%  
試験は漢文の読解力のみで評価します。  
なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする  
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

**【Outline (in English)】**

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA (史学/History 300)

## 古代日本・中国の法と社会A

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

## 【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んできること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

## 【参考書】

岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）  
末木文美士編『新アジア仏教史 11日本1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）

佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）

仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）

藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）

礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be able to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination :50%, Short examination:50%.

HIS300LA (史学/History 300)

## 古代日本・中国の法と社会B

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金3/Fri.3

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

## 【到達目標】

円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	7・8世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	9世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布プリントの史料 (漢文) を読解もしくは現代語訳してくること。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。プリントを配布する。

## 【参考書】

佐伯有清『円珍』(吉川弘文館、1990年)  
 佐伯有清『智証大師伝の研究』(吉川弘文館、1989年)  
 小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下 (法蔵館、1982・83年)  
 園城寺編『園城寺文書 第一巻』(講談社、1998年)  
 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』(勉誠出版、2018年)  
 道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』(書苑、1985年)  
 鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教 (上)』(東京大学出版会、1984年)  
 鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教 (上)』(東京大学出版会、1994年)  
 山崎宏『隋唐仏教史の研究』(法蔵館、1967年)  
 藤善眞澄『中国仏教史研究』(法蔵館、2013年)  
 礪波護『唐代政治史研究』(同朋舎、19865年)

## 【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験 (50%)、②途中で実施する確認試験 (30%)、③予習事項の紙面での提出 (20%)。以上の3者を総合して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3)①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

## 【Outline (in English)】

## (Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials .

## (Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.

## (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## (Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.



HIS300LA (史学/History 300)

**アジア・太平洋島嶼国際関係史 A** 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わりや歴史、辺野古の新基地建設に反対する民意形勢の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。米国のアジア戦略や米中関係が変化する一方、米軍基地は日本政府の都合で沖縄に押し付けられ、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

**【到達目標】**

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争を挟んで現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教室でリアルタイムに受講する形式を基本としますが、市ヶ谷キャンパス以外の学生らの履修に配慮して「Zoom」も併用します。欠席者の履修や復習に利用してもらうため、授業内容の映像は可能な限り後日配信します。毎回の授業後に感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況や経済依存の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史(1)	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史(2)	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、新たに判明した問題
6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化、日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	グループディスカッション	日本の安全保障と外交関係
14	総括	全体のみとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

・『いま沖縄をどう語るか〜ジャーナリズムの現場から』 高文研、2024年

**【参考書】**

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年  
・『観光コースでない沖縄・第5版』高文研、2023年

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度(50%)  
期末レポート(50%)  
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。  
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

**【学生の意見等からの気づき】**

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」(年に2回)や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」(毎月開催)なども主宰しています。

**【その他の注意事項】**

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This class is focus on the current situation and history of Okinawa, which still has many U.S. military bases, Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, historical relationship with the Pacific islands, and the public sentiment against the construction of a new base in Henoko. Students can learn the process of Okinawa suffered the most severe damage in Japan during the Pacific War, killing one in four citizens of the prefecture, and remained under US administration until it returned to Japan in 1972. While the US strategy for Asia and U.S.-China relations are changing, the US military bases are being imposed on Okinawa at the convenience of the Japan government, and the deployment of the Self-Defense Forces is progressing in the name of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also help us understand the modern history of Japan and its international relations with Asian countries.

**【Learning Objectives】**

Students will:

- Learn about the current situation in Okinawa, where US military bases in Japan are concentrated, and history up to the present after the Pacific War.
- Understand the process of forming Okinawan people's will against the construction of a new base in Henoko.
- Understand the actual situation of the Battle of Okinawa, the role that Okinawa played in the postwar relationship between Japan and the United States, and the situation that was at the mercy of the political speculation of the Japanese government.
- Deepen understanding of international relations with China and the Korean Peninsula, and the Asian strategy of the United States and Japan through the history and current situation of Okinawa.

**【Learning activities outside of classroom】**

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

Submission of reaction paper, participation in active learning (50%)

Semester-end report (50%)

If the specified submission deadline and submission destination are not observed, it will be treated as unsubmitted unless there are unavoidable circumstances.

HIS300LA (史学/History 300)

**アジア・太平洋島嶼国際関係史 B** 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

アジア・太平洋地域には多くの島嶼および島嶼国家があります。この授業では、その中でも特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

**【到達目標】**

「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。

第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、アクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

**【参考書】**

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。  
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010年。  
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。  
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。  
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。  
屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

**【成績評価の方法と基準】**

コメントシート（40%）  
レポート中間発表（20%）  
リサーチレポート（40%）  
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて検討します。

**【学生が準備すべき機器他】**

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

**【その他の重要事項】**

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、Eメール：mizakiko@tsuda.ac.jp宛にご連絡ください。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 40%、Short presentation for the research report: 20%、comments to fill in every class: 40%

HIS300LA (史学/History 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

## 神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

## 【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	1)「見えないものを見ること」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
4	2)「多民族多文化のまち川崎」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
5	3)「ヘイトは何を壊してしまうか」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
6	4)「ヘイト現象を考えるための基礎知識」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	5)「在日外国人差別の歴史」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
8	6)「移民社会日本」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
9	7)「人種差別とジェノサイド」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
10	8)「私たちは差別と無関係か」	学生によるテキストの報告、映像、討論。

11	9)「『共に生きる』というけれど」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
12	10)「東アジア市民というありかた」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

風巻浩・金迅野『ヘイトをのりこえる教室 ともに生きるためのレッスン』大月書店 1700円+税。受講生は、全員、必ず購入すること。

## 【参考書】

加藤圭木監修・一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『日韓』もモヤモヤと大学生のわたし』大月書店  
加藤圭木監修・朝倉希実加・李相真・牛木未来・沖田まい・熊野功英編『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』大月書店  
緒方義広・古橋綾編『韓国学ハンマダン』岩波書店

## 【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全出席すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

## 【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミII「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

## 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

HIS300LA (史学/History 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火2/Tue.2

単位数: 2単位

定員制 (20)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える: 日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

## 【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1) ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	2) 「在日コリアン概説」	戦前戦後の在日コリアンの歴史
3	3) 「ひろがる「日韓」のモヤモヤ①」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
4	4) 「ひろがる日韓のモヤモヤ②」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
5	5) 「戦後の日韓関係・歴史否定論と第3次韓流ブーム」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
6	6) 「加害の歴史を学ぶということ」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	7) 「朝鮮学校と在日コリアン」	映像視聴、討論。
8	8) 「100年前の東京で起きたこと」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
9	9) 「多摩川、生野、ウトロを歩いて考える」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
10	10) 「沖縄と日本軍「慰安婦」問題」	学生によるテキストの報告、映像、討論。

11	11) 「終わらないモヤモヤとその先」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
12	12) 映像	学生によるテキストの報告、映像、討論。
13	13) 資料館見学	資料館見学
14	14) まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

加藤圭木監修・朝倉希実加・李相真・牛木未来・沖田まい・熊野功英編『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』大月書店 1800円+税。受講生は全員必ず購入すること。

## 【参考書】

加藤圭木監修・一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『「日韓」もモヤモヤと大学生のわたし』大月書店  
緒方義広・古橋綾編『韓国学ハンマダン』岩波書店  
風巻浩・金迅野『ヘイトをのりこえる教室 ともに生きるためのレッスン』大月書店

## 【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

## 【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

## 【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

## 【Outline (in English)】

&lt; Course outline &gt;

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

&lt; Learning Objectives &gt;

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

&lt; Learning activities outside of classroom &gt;

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

&lt; Grading Criteria/Policy &gt;

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズ A 2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ+運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

### 【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か?	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
#MeToo運動		
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。

第10回	インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティとトランスジェンダー問題について考える。
第11回	カミングアウトとアウティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウティングについて考える。
第12回	クィア・ベダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題 (リアクション・ペーパー、レポート) 対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

### 【参考書】

岩淵功一 (編) 『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』 (青弓社年、2021年)  
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子 (編) 『クィア・スタディーズをひらく 1』 (晃洋書房、2019年)  
 清水晶子 『フェミニズムってなんですか?』 (文春新書、2022年)  
 新ヶ江章友 『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ (クィア・スタディーズ) のために』 (花伝社、2022年)  
 森山至貴 『LGBTを読みとく—クィア・スタディーズ入門—』 (ちくま新書、2017年)  
 トッド・マシュー 『ヴィジュアル版 LGBTQ運動の歴史』 (原書房、2022年)

### 【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション：20%

中間試験：40%

学期末レポート：40% (2,000文字程度)

毎回出欠を取ります。4回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

### 【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

### 【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

### 【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Have basic knowledge of queer studies.

b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hoppii at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than four classes.

Midterm exam: 40%

Final essay (1000-1500 characters): 40%



GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズ B 2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

**【到達目標】**

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	性暴力と文学	カオルコ姫野『彼女は頭が悪いから』を取り上げる。
第5回	文学とミソジニー	松田青子『持続可能な魂の利用』を取り上げる。
第6回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの表象について講義する。
第7回	中間試験	第6回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第8回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第9回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第10回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ!』を取り上げる。
第11回	日本におけるレズビアン史	レズビアン史の可視性やその表象について講義する。

第12回	表象分析実践	『きのう何食べた?』(漫画と映画)と『作りたい女と食べたい女』(漫画とドラマ)についてグループでディスカッションを行う。
第13回	カミングアウトとアウティング	映像作品におけるカミングアウトとアウティングについて講義する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

文献を事前に読む、授業内で示される課題(リアクション・ペーパー、レポート)対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

必要に応じてプリントを配布します。

**【参考書】**

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』(晃洋書房、2021年)  
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』(晃洋書房、2016年)  
新々江草友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』(花伝社、2022年)  
森山至貴『LGBTを読みとく クィア・スタディーズ入門』(筑摩書房、2017年)  
マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ運動の歴史』(原書房、2022年)  
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%

中間試験：40%

期末レポート(2,000文字程度)：40%

毎回欠席を取ります。4回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

**【学生が準備すべき機器他】**

レポート作成を行うためのパソコンなど。

**【その他の重要事項】**

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

**【Outline (in English)】**

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

**Learning objectives:**

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.

b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

**Learning activities outside of the classroom:**

Students must read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).

**Grading criteria/Policy:**

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hoppii at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than four classes.

Midterm exam: 40%

Final essay (2000 characters): 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

## キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じる) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。春期授業 (キリスト教思想史 A) は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

## 【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティヌスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。

第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恵恩と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルドの霊性思想、ボナヴェントラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2時間)

## 【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム』筑摩選書、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

## 【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13：978-4163909455、2019年、1850円

## 【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

## 【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

## 【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

## 【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. The classes scheduled for the spring semester will cover the early church and the formation of the Bible, as well as mystical thought in the late medieval period.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

## キリスト教思想史B

2017年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じる) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業 (キリスト教思想史B) は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

### 【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的靈性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカルと信仰	パスカルの生涯、決定的回心 (メモリアル)、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2時間)  
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2時間)

### 【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

### 【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

### 【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

### 【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

### 【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

### 【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

**異文化コミュニケーション論 A** 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

**【到達目標】**

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識 (用語・概念・理論などの知識) を得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- ・第1～3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
- ・第4～13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。

連絡や課題/試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第2回	ステレオタイプ①定義・要因・具体例	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ②メディア・個人的/社会的影響	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第4回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつ色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第5回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第6回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準

第7回	日本語と外国語①文法・語彙	・動詞のカテゴリー ・形容詞とは ・新語 (ネオロジ)
第8回	日本語と外国語②語用論その他	・人称 ・指示詞 ・感情の表現
第9回	日本語と外国語③表記	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第10回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第11回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第12回	住居と自然	・自然との闘い/自然との共存
第13回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第14回	期末試験	・第1～14回のおまとめ試験と解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上 (資料集め、その他含む)、平常時は60分を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

適宜資料を配付する。

**【参考書】**

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書  
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書  
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書  
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書  
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書  
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』  
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社  
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
クイズ	10%
発表	20%
期末試験	40%

・4回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・期末試験時にはPCまたはタブレット端末
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：ep5vugv

**【その他の重要事項】**

★受講希望者数によっては、第1回目 (4月8日) の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

**【Outline (in English)】**

(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

Quiz 10%

\* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.



LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

**異文化コミュニケーション論B** 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈夕〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

**【到達目標】**

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識 (用語・概念・理論などの知識) を得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・高コンテキスト文化と低コンテキスト文化 (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第4回	コミュニケーション・スタイル② ターンテキングとバラ言語	・会話場面における「発話のターンの取り方の違い、文化差や特徴。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、周辺言語の基本的知識と文化的な特徴 文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」を例に、その根本にあるポライトネスポライトネス理論の基本的な概念を捉える。
第5回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	第5回に引き続き、ポライトネス理論の立場から「誘い方と断り方」という言語行為を観察し、そこに現れる文化的な特徴について考える。
第6回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	・「自己紹介」の仕方、そこで好まれる話題や態度など。 ・「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係に及ぼす影響と、文化的特徴。
第7回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現について。 ・視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトに見られる文化差。
第8回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャー ・危険なしぐさ、あるいはコミュニケーションを円滑にするジェスチャーなどの具体例。 ・タッチングの文化差や性別、年齢、人間関係による変化。
第9回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差。 ・対人距離がコミュニケーションに与える影響。
第10回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離	・時間感覚の地域、時代、個人による差異。 ・MタイムとPタイム
第11回	非言語コミュニケーション④ 時間感覚	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第12回	価値観	・ステレオタイプと偏見・差別 ・アイデンティティとコミュニケーション ・異文化コミュニケーションのためのテクニックやメソッド
第13回	コミュニケーション阻害要因と異文化コミュニケーション・スキル	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説
第14回	期末試験	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。(ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する)

**【テキスト (教科書)】**

適宜資料を配付する。

**【参考書】**

- R.E.ニズベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
- 池田理知子 E.M.クレマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
- 八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
- 吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
- E.ホール『沈黙のことば-文化・行動・思考』南雲堂
- その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

授業参加度 15 %  
 リアクションペーパー 15 %  
 クイズ 10 %  
 発表 20 %  
 期末試験 40 %

**【学生の意見等からの気づき】**

・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。  
 ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。  
 ・期末試験時にはPCまたはタブレット端末  
 ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：agl2taz

**【その他の重要事項】**

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。  
 ・最新情報をHoppiiで確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

**【Outline (in English)】**

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%  
 Presentation 20%  
 Reaction Paper Writing 15%  
 in class contribution 15%  
 Quiz 10%

\*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることであり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

受講人数によりありますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

## 【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景 (作家個人・社会全体) を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりありますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

\*校外学習の日程に関しては、学生の予定を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』	<男装>による居場所の追求 ・グループワークと意見交換
対面授業	手塚治虫『リボンの騎士』	<男装>の系譜を探る ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』	男女逆転劇の真相を考察する ・グループワークと意見交換

対面授業	萩尾望都『あそび玉』	管理社会における居場所さがし ① ・グループワークと意見交換
対面授業	小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし ② ・グループワークと意見交換
対面授業	桐野夏生『日没』	管理社会における居場所さがし ③ ・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	<病>における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表のための準備	・作品を選んでグループワーク ・レジュメの作成
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	一葉記念館か自由学園へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

## 【テキスト (教科書)】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいとします。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

## 【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、菁柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

## 【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった「家族」にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における「居場所さがし」の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

## 【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景 (作家個人・社会全体) を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかんにか時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外部を参照しながら追求し、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。

適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。

\*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	吉本ばなな『キッチン』	性の多様化における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	江國香織『きらきらひかる』	性の多様化における居場所さがし② ・グループワークと意見交換

対面授業 よしながふみ『きのう何食べた?』 性の多様化における居場所さがし③  
・グループワークと意見交換

対面授業 須藤佑実『夢の端々』 性の多様化における居場所さがし④  
・グループワークと意見交換

対面授業 津村記久子『ボストライムの舟』 職場における居場所さがし①  
・グループワークと意見交換

対面授業 小山田浩子『工場』 職場における居場所さがし②  
・グループワークと意見交換

対面授業 益田ミリ『すーちゃん』、『ツユクサナツコの一生』 職場における居場所さがし③  
・グループワークと意見交換

対面授業 村田沙耶香『無』(『絶縁』) コロナ禍における居場所さがし①  
・グループワークと意見交換

対面授業 川上未映子『春のこわいもの』 コロナ禍における居場所さがし②  
・グループワークと意見交換

対面授業 個人発表① 報告者による報告と討議

対面授業 個人発表② 報告者による報告と討議

対面授業 一葉記念館か自由学園を見学する 作品の背景を学習する

対面授業 授業のまとめ 質問への対応  
春秋学期を通じた振り返り  
期末レポートの準備

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習】 報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】 教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

## 【テキスト (教科書)】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいとします。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

## 【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在—貧困・労働・格差—(2016・4、菁柿堂)、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻 (矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版)、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』(2006・10、東京堂出版)、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』(2005・5、ミネルヴァ書房)、脇田晴子他編『女性文学史』(1987・8、吉川弘文館) その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

## 【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

## 【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA (史学/History 300)

## イギリスと帝国A

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

## 【到達目標】

- ・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
- ・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同年代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国とジェンダー	帝国支配をジェンダーの観点から学ぶ。

第13回 帝国主義の時代 帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学び、授業内容を総括する。

第14回 授業内試験 期末試験とまとめ及び解説。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

## 【テキスト (教科書)】

使用しない。授業でプリントを配付する。

## 【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年  
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』(全5巻)ミネルヴァ書房、2004～2009年  
秋田茂『イギリス帝国の歴史』(中公新書)中央公論新社、2012年

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (授業参加度、課題への取り組み) : 50%
- ・期末試験 : 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

## 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.
- 2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS300LA (史学/History 300)

## イギリスと帝国B

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では20世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

## 【到達目標】

- ・20世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	世紀転換期までのイギリス帝国	19～20世紀転換期までのイギリスと帝国についての概要を学ぶ。
第3回	南アフリカ戦争の時代①：イギリス国内への影響	南アフリカ戦争がイギリス国内に与えたインパクトを学ぶ。
第4回	南アフリカ戦争の時代②：帝国・国際関係の視点から	南アフリカ戦争をイギリス帝国と国際関係の視点から学ぶ。
第5回	第一次世界大戦とイギリス帝国	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第6回	植民地ナショナリズム	植民地支配に抵抗するナショナリズムの諸特徴を学ぶ。
第7回	中東のイギリス帝国	戦間期中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第8回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第9回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第10回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第11回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。

第12回 帝国のほころび 20世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。

第13回 帝国支配の過去と現在 帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学び、授業内容を総括する。

第14回 授業内試験 期末試験とまとめ及び解説。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

## 【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年

木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年

小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年

## 【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%

・期末試験：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

## 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.

2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

LANj300LA (日本語 / Japanese language education 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・自分自身が身につけている言語観、教育観、学習スタイルをふりかえり、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】

(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。

(2)日本語や日本社会を日本語教育の視点で、客観的に捉えることができる。

(3)日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。

課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第2回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第3回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第4回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第5回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第6回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について、国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第7回	初級の文型の導入とドリル	初修学習者に日本語を教える場合、どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第8回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに、コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第9回	教授法について	どんな教授法があるかや、歴史的変遷や理論、特色ある指導法などについて学ぶ。

第10回	教室活動と授業計画の立て方	現場でどのような教室活動が行われているか、また、1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。
第11回	各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア	東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第12回	各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米	オセアニア・南米の国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第13回	各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ	ヨーロッパ・アメリカの国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第14回	討論・議論（授業内の期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店

縫部義憲(1991)『日本語教育学入門』創拓社

石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店

高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育2・日本語教授法入門』アスク

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)

発表のパフォーマンス(25%)

受講態度(議論への積極的参加など)(20%)

課題提出(15%)

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.

【Learning Objectives】

After completing this course, students will be able to:

(1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.

(2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.

(3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.



LANj300LA (日本語 / Japanese language education 300)

**教養ゼミⅡ**

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

**【到達目標】**

(1)外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ、そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。

(2)学習者に合ったカリキュラム設定を行い、具体的な授業計画を立て、教材選定、教材作成ができる。

(3)日本語の授業で、文法の導入・説明を適切に行い、定着を図るタスクを効果的にできる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第2回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第3回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第4回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第5回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに、タスク中心の指導法について理解する。
第6回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第7回	作文指導	作文、ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第8回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第9回	会話やスピーチの指導 1	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。

第10回	会話やスピーチの指導 2	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第11回	視聴覚教材の使い方	視聴覚教材の効果的な使い方について考える。
第12回	教材作成の実践	教材の自作方法の基本を知り、受講生自ら教材を作成してみる。
第13回	作成教材を用いた模擬授業	受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教える。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

決まったテキストを使う予定はありません。

**【参考書】**

田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店  
 縫部義憲(1991)『日本語教育学入門』創拓社  
 石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店  
 高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育2・日本語教授法入門』アスク  
 川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（40%）  
 発表のパフォーマンス（25%）  
 受講態度（議論への積極的参加など）（20%）  
 課題提出（15%）  
 ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【その他の重要事項】**

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.

**【Learning Objectives】**

- (1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.
- (2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.
- (3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】**

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

**徳と倫理A**

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期は其中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

**【到達目標】**

- ・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	倫理学とは
第2回	ソクラテスとプラトン①	徳と知
第3回	ソクラテスとプラトン②	善とアイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	善と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	自然本性と懐疑
第8回	アウグスティヌス①	善く生きること
第9回	アウグスティヌス②	罪と自由 (1)
第10回	ボエティウス・アンセルムス	罪と自由 (2)
第11回	トマス・アクィナス①	知性と徳と神
第12回	トマス・アクィナス②	善と幸福
第13回	ウィリアム・オッカム	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

**【参考書】**

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。  
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。  
その他、授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."

**【Learning Objectives】**

This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

**徳と倫理B**

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期は其中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

**【到達目標】**

- ・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは（1） ①
第2回	導入②	徳倫理学とは（2）
第3回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第4回	ヒュームと徳①	人間本性と徳
第5回	ヒュームと徳②	道徳原理とは
第6回	義務倫理	カントの「自律」
第7回	功利主義	幸福と利益
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳①	倫理思想の歴史
第11回	マッキンタイアと徳②	共同体と倫理
第12回	徳倫理学と現代の諸問題①	生命倫理について
第13回	徳倫理学と現代の諸問題②	環境倫理について
第14回	倫理的考察の実践	授業内試験と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

**【参考書】**

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。  
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。  
その他、授業内で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.

**【Learning Objectives】**

This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

LAW300LA (法学 / law 300)

## 法哲学A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

## 【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第3回	格差問題のポイント	現代日本の格差の概況とその論点について
第4回	法哲学の基本的視点(1)	自由主義と平等主義の関係について
第5回	法哲学の基本的視点(2)	格差問題に関する法哲学的考察について
第6回	ドーピングは禁止すべきか？(1)	ドーピングをめぐる現状について
第7回	ドーピングは禁止すべきか？(2)	ドーピングを禁止する根拠の検討について
第8回	ドーピングは禁止すべきか？(3)	ドーピングと個人の自由について

第9回	ドーピングは禁止すべきか？(4)	卓越主義と中立性原理について
第10回	臓器売買は許されるべきか？(1)	臓器売買規制の現状について
第11回	臓器売買は許されるべきか？(2)	臓器売買反対論の検討について
第12回	臓器売買は許されるべきか？(3)	臓器売買容認論について
第13回	臓器売買は許されるべきか？(4)	自分の身体に対する所有権について
第14回	臓器売買は許されるべきか？(5)	自己所有権の限界について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

## 【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

## 【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

## 【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, studenats are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)  
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA (法学 / law 300)

## 法哲学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

## 【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	裁判員制度は廃止すべきか？（1）	裁判員制度の現状について
第3回	裁判員制度は廃止すべきか？（2）	裁判員制度への批判について
第4回	裁判員制度は廃止すべきか？（3）	裁判員制度の正当化根拠について
第5回	裁判員制度は廃止すべきか？（4）	国民と司法の関係について
第6回	児童手当は独身者差別か？（1）	子育て支援の現状について
第7回	児童手当は独身者差別か？（2）	児童手当の公平性について
第8回	児童手当は独身者差別か？（3）	法制度の中立性に関する理論について

第9回	児童手当は独身者差別か？（4）	子育て支援制度の根拠について
第10回	相続制度は廃止すべきか？（1）	相続制度の現状について
第11回	相続制度は廃止すべきか？（2）	相続制度の根拠について
第12回	相続制度は廃止すべきか？（3）	相続制度廃止論について
第13回	相続制度は廃止すべきか？（4）	個人の権利と相続の関係について
第14回	理論的整理	リベラリズムとリバタリアニズムについて

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

## 【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

## 【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

## 【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」をあわせて履修すること。（履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学A」を受講済みの学生を優先する。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

## 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, studenats are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).



POL300LA (政治学 / Politics 300)

**教養ゼミ I**

2017年度以降入学者

**坂根 徹**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本教養ゼミ I（囲碁で培う戦略的思考）では、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に付けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

**【到達目標】**

囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初学者用の基盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に付けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初学者用の基盤での対局の流れと基本的戦略（初歩的技術）等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。

以下の計画は、実際のゼミの進捗や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	囲碁の基本ルールと効果的な時間外学習方法の紹介	囲碁の基本ルールの解説と本ゼミの効果的な時間外学習の紹介
第3回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第4回	6路盤による学習の基本	6路盤による学習の基本についての解説の開始
第5回	6路盤と9路盤による学習の基本	6路盤による学習の基本についての解説の継続と9路盤による学習の基本についての解説の開始
第6回	6路盤による学習・実践等1	6路盤による学習・実践の開始
第7回	6路盤による学習・実践等2	6路盤による学習・実践の継続
第8回	9路盤による学習の基本	9路盤による学習の基本についての解説の継続
第9回	9路盤による学習・実践等1	9路盤による学習・実践の開始
第10回	9路盤による学習・実践等2	9路盤による学習・実践の継続

第11回	9路盤による学習・実践等3	9路盤による学習・実践の継続とまとめ
第12回	期末プレゼンテーション1	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション2	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション3	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

石倉昇, 梅沢由香里, 黒瀧正憲, 兵頭俊夫『東大教養囲碁講座—ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年.

**【参考書】**

日本棋院『実践囲碁総合演習—入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年.  
薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年.

**【成績評価の方法と基準】**

授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）.

**【学生の意見等からの気づき】**

該当なし

**【その他の重要事項】**

囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初学者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。

本科目の定員は20名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第2回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

**【Outline (in English)】**

Main theme of this course is to learn the rules and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

POL300LA (政治学 / Politics 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

## 坂根 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本教養ゼミⅡ（囲碁で培う戦略的思考）では、春学期の教養ゼミⅠに続き、19路盤で学習・実践していくこと等を通して、布石を含めて春学期よりも発展的な囲碁の基本的戦略等への理解を深めていく。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を更に身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

## 【到達目標】

理解した囲碁のルールを用いて先学期よりも発展した学習・実践を通して、戦略的な思考力を身に着けることや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後19路盤による対局の流れと基本的及び発展的戦略等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。

以下の計画は、実際のゼミの進捗や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	19路盤による学習の基本1	19路盤による学習の基本についての解説の開始
第3回	19路盤による学習の基本2	19路盤による学習の基本についての解説の継続
第4回	19路盤による基礎的学習・実践等1	19路盤による基礎的学習・実践の開始
第5回	19路盤による基礎的学習・実践等2	19路盤による基礎的学習・実践の継続
第6回	19路盤による基礎的学習・実践等3	19路盤による基礎的学習・実践の継続とまとめ
第7回	19路盤による学習の発展的解説	19路盤による学習の発展的解説
第8回	19路盤による発展的学習・実践等1	19路盤による発展的学習・実践の開始
第9回	19路盤による発展的学習・実践等2	19路盤による発展的学習・実践の継続
第10回	19路盤による発展的学習・実践等3	19路盤による発展的学習・実践の継続とまとめ
第11回	期末プレゼンテーションに向けた検討	19路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討

第12回	期末プレゼンテーション1	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション2	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション3	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

石倉昇, 梅沢由香里, 黒瀧正憲, 兵頭俊夫『東大教養囲碁講座—ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年。

## 【参考書】

日本棋院『実践囲碁総合演習—入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年。  
薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年。

## 【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

該当なし

## 【その他の重要事項】

原則として、春学期に実施された本科目のⅠを履修した学生による継続履修が想定されている。Ⅰを履修していない学生の場合、囲碁の基本的なルールを理解し、19路盤での学習ができる、囲碁の初学者に限り、定員の20名に余裕があれば、これを受け入れることはありうる。

## 【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn advanced basic strategies of Igo based on study during spring semester. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、それを踏まえて、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。春学期は、春～夏にかけての東京の街の人文地理学的な見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。大学での地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントも授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第2回	フィールドワーク①	靖国神社・皇居を巡検する (身近な東京)
第3回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第4回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第5回	フィールドワーク②	市ヶ谷を巡検する (身近な東京)
第6回	メディアにみる外濠	プラタモリ「江戸城外濠」を鑑賞する
第7回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区のコース
第8回	街歩きコースの提案②	東京都中央区のコース
第9回	街歩きコースの提案③	東京都新宿区・文京区のコース
第10回	街歩きコースの提案④	東京都港区・品川区のコース

第11回	街歩きコースの提案⑤	東京都江東区・墨田区のコース
第12回	街歩きコースの提案⑥	東京都台東区のコース
第13回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース
第14回	街歩きコースの提案⑧ まとめ	パワーポイントで発表する提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『東京の歴史』第1巻～第10巻、吉川弘文館  
BT12階の地理学科事務室に備えてあります。必要な箇所をコピーしてください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点50%、プレゼンテーションやレポート内容50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク (巡検) を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用の資料はGoogleクラスルームで共有します。学習に支障がないように、PCなど機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業開始前までに、学習支援システムで仮登録をして、授業に出席してください。履修希望人数を把握し、必要であれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and based on the proposed course, we will discuss human geographical views and perspectives on the region. In the spring semester, students will be asked to find human geographical highlights of the city of Tokyo from spring to summer.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%).

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

## 人文地理学セミナー B

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。秋学期は、秋～冬の東京の街の見どころを探していただきます。

## 【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントは授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第2回	フィールドワーク①	番町・四ツ谷を巡検する（身近な東京）
第3回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第4回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第5回	フィールドワーク②	神楽坂を巡検する（身近な東京）
第6回	メディアにみる東京	NHKスペシャル「東京」の特集を鑑賞する
第7回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区・中央区のコース
第8回	街歩きコースの提案②	東京都新宿区・中野区のコース
第9回	街歩きコースの提案③	東京都渋谷区のコース
第10回	街歩きコースの提案④	東京都世田谷区のコース

第11回 街歩きコースの提案 東京都目黒区のコース⑤

第12回 街歩きコースの提案 東京都杉並区のコース⑥

第13回 街歩きコースの提案 多摩地域のコース⑦

第14回 街歩きコースの提案 パワーポイントで発表する提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ⑧

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第1巻～第10巻 吉川弘文館  
B T 12階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

## 【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点50%、プレゼンテーションやレポート内容50%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

## 【学生が準備すべき機器他】

発表用資料などをGoogleクラスルームで共有をします。学習に支障がないようにPCなど機器類を必ず準備してください。

## 【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業までに、学習支援システムで仮登録をして出席してください。履修希望人数を把握し、必要あれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

## 【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and we will discuss how to view and think about the region from a human geographical perspective.

In the fall semester, students will be asked to find out the highlights of Tokyo in the fall and winter.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%) .

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

## 文化人類学方法論A

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、中生勝美2016『近代日本の人類学史』を主なテキストとして、近代日本の植民地支配と人類学の歴史を学ぶことを通じて、植民地支配と人類学の関係について考える。帝国日本の人類学者たちが、植民地を対象としてどのように調査研究を行い、いかなる知を生み出したのかについて学ぶ。また、戦後日本の開発援助の歴史を取り上げ、「日本型開発協力」のあり方が、いわゆる植民地主義の新たな形態やメンタリティとどのように結びついているのかについて学ぶ。

## 【到達目標】

- ・植民地を中心に人類学研究が行われたこと、植民地の拡張とともに人類学の形成発展があったことを理解する。
- ・日本の人類学が、大日本帝国の異民族統治の政策とどのように結びついていたか理解する。
- ・「日本型開発協力」のあり方を、かつて植民地支配を経験した人々の視点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる (主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる)。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第2回	植民地主義と人類学	(文献の発表・討論) 人類学批判
第3回	批判開発学と人類学	(文献の発表・討論) ・制度の民族誌 ・開発言説と開発実践の民族誌
第4回	近代日本の人類学史 I	(文献の発表・討論) 台湾
第5回	近代日本の人類学史 II	(文献の発表・討論) 朝鮮① 慣習調査
第6回	近代日本の人類学史 III	(文献の発表・討論) 朝鮮② 人々の植民地経験
第7回	近代日本の人類学史 IV	(文献の発表・討論) 南洋諸島
第8回	近代日本の人類学史 V	(文献の発表・討論) 満州①

第9回	近代日本の人類学史 VI	(文献の発表・討論) 満州②
第10回	近代日本の人類学史 VII	(文献の発表・討論) 戦時中の日本民族学
第11回	近代日本の人類学史 VIII	(文献の発表・討論) 京都学派の研究活動
第12回	植民地支配と開発の歴史	(文献の発表・討論) 日本の開発協力
第13回	植民地支配と内戦	(映画鑑賞) ドキュメンタリー映画
第14回	総括	春学期のまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う (発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読)。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

中生勝美2016『近代日本の人類学史—帝国と植民地の記憶』風響社。(その他、必要に応じて関連資料を配布する。)

## 【参考書】

- ・板垣竜太2008『朝鮮近代の歴史民族誌—慶北尚州の植民地経験』明石書店。
- ・エスコバル,アルトゥーロ2022『開発との遭遇—第三世界の発明と解体』北野取 (訳) 新評論。
- ・太田好信2003『人類学と脱植民地化』岩波書店。
- ・サイド, E.W.1993『オリエンタリズム上・下』今沢紀子 (訳) 平凡社。
- ・松島泰勝2018『琉球 奪われた骨—遺骨に刻まれた植民地主義』岩波書店。
- ・ミンツ, シドニー.W.1988『甘さと権力—砂糖が語る近代史』川北稔, 和田光弘 (訳) 平凡社。
- ・山路勝彦, 田中雅一 (編) 2002『植民地主義と人類学』関西学院大学出版会。

(以上のほか、授業時に適宜紹介する。)

## 【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点 (70%) を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容 (30%) も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

## 【その他の重要事項】

- ・第1回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第1回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課す。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course deals with Japanese colonial rule and the history of Japanese anthropology. The goal of this course is to learn the relationship between Japan's ruling policies toward her colonies and the historical development of Japanese anthropology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

## 文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火2/Tue.2

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

民族誌を書くこと、民族誌に感応すること、民族誌を再演することに関する議論や実践について学ぶとともに、授業内での体験(書く、感応、再演)を通して、人類学を問い直し、その可能性を探究する。民族誌の読み手として「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者理解の可能性を知る。また、民族誌の再演を通じて、フィールドワークの経験を再現し、人々の生き方について考えると同時に彼らの生が自らの生をどのように映し見せてくれるかを学ぶ。

## 【到達目標】

- ・民族誌を書くことをめぐる、人類学内外の議論について理解できる。
- ・オートエスノグラフィーという方法論について理解できる。
- ・民族誌の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを再演することを通じて、人々の生が自らの生にどのように引き合わされていくか、自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる(主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる)。発表者はレジュメに基づいて発表、又は演じ、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。

- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表・再演順の決定
第2回	民族誌を書くⅠ 「民族誌」批判	(文献の発表・討論) 『文化を書く』とその後
第3回	民族誌を書くⅡ 人類学者の日記	(文献の発表・討論) 『マリノフスキー日記』をめぐって
第4回	民族誌を書くⅢ オートエスノグラフィー	(文献の発表・討論) その方法論
第5回	民族誌を書くⅣ オートエスノグラフィー	(記述の発表・討論) その実践
第6回	民族誌に感応するⅠ 「わかる」	(文献の発表・討論) 他者を迎え入れる
第7回	民族誌に感応するⅡ 「知る」	(文献の発表・討論) 他者理解と自己変容

第8回	民族誌を演じるⅠ (概念と民族誌的記述の説明)	(講義・討論) V.ターナーの社会劇とパフォーマンス論
第9回	民族誌を演じるⅡ (再演する民族誌について)	(講義・討論) ギリシア悲劇「アンティゴネー」と、北米先住民作家の戯曲「アンティコニ」の解説
第10回	民族誌を演じるⅢ (再演の下準備)	(文献の発表・討論) 北米先住民についての民族誌
第11回	民族誌を演じるⅣ (実践①)	(再演・討論) 戯曲「アンティコニ」
第12回	民族誌を演じるⅤ (実践②)	(再演・討論) 戯曲「アンティコニ」
第13回	民族誌を演じるⅥ (実践③)	(再演・討論) 戯曲「アンティコニ」
第14回	総括	秋学期のまとめ

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う(発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読)。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

## 【参考書】

- ・石原真衣2020『〈沈黙〉の自伝的民族誌—サイレント・アイヌの痛みと救済の物語』北海道大学出版会。
- ・クリフォードJ.2003『文化の窮状—二十世紀の民族誌、文学、芸術』太田好信ほか(訳)人文書院。
- ・クリフォードJ./マーカスG.(編)1996『文化を書く』春日直樹ほか(訳)紀伊國屋書店。
- ・初見かおり2021『ハレルヤ村の漁師たち—スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社。
- ・パイアトート,B.2024『アンティコニー—北米先住民のソフォクレス』初見かおり(訳)春風社。

(以上の他、授業時に適宜紹介する。)

## 【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点(70%)を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容(30%)も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

## 【その他の重要事項】

- ・第1回目授業には必ず出席すること。事前の連絡や相談もなく第1回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めない。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課す。この点を承知のうえで履修すること。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn writing, feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand controversial discussion on "Writing Culture" and the methodology of autobiography, and to learn how one's life would be connected with other's one. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

POL300LA (政治学 / Politics 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典を、わかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）という、哲学や思想史で有名な古典です。

\*法学部政治学科の学生のみさんには、この授業は「政治思想 I」という名称で開講されますが、内容は同一です。

## 【到達目標】

- ・英文翻訳のスキルアップをめざす人
  - ・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
  - ・古典や哲学や思想史に興味のある人
  - ・機械翻訳（DeepL）の正確さ・精度をたしかめてみたい人
- など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（テキストの1～3段落ほどの分量をめぐり）検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や既存の日本語訳や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

原則として対面開講。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

## 【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

（哲学史や思想史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。）

2024年度は、その第1巻第1部第3部を扱います。『人間本性論』のなかでもっとも有名でもっとも重要とみなされている、因果をめぐる部分です。

英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

## 【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもれません。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。2023年度は、最終的に、12名が単位を修得しました。

## 【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

## 【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年）。あらたにヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』の翻訳をはじめ、2023年度からこの授業を始めました。『人間本性論』は、けっして易しいテキストではありませんが、しかし難しすぎるテキストでもありません。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが、目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。

## 【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA (政治学 / Politics 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典を、わかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。教養ゼミⅠの続きです。

扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』(David Hume, A Treatise of Human Nature) という、哲学や思想史で有名な古典です。

\*法学部政治学科の学生のみさんには、この授業は「政治思想Ⅱ」という名称で開講されますが、内容は同一です。

## 【到達目標】

- ・英訳のスキルアップをめざす人
- ・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・古典や哲学や思想史に興味のある人
- ・機械翻訳 (DeepL) の正確さ・精度をたしかめてみたい人など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（テキストの1～3段落ほどの分量をめぐり）検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や既存の日本語訳や機械翻訳 (DeepL) による日本語訳などと比べたりしながら、(1) 日本語としてわかりにくい箇所、(2) 英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

原則として対面開講。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、(1) 日本語としてわかりにくい箇所、(2) 英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。(大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習(2単位)では1回につき4時間以上が標準となります。)

## 【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

(哲学史や思想史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。)

2024年度は、その第1巻第1部第3部を扱います。『人間本性論』のなかでもっとも有名でもっとも重要とみなされている、因果をめぐる部分です。(教養ゼミⅠの続きから)

英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

## 【参考書】

可能であれば、ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点(理解度、ディスカッションへの貢献)100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。2023年度は、最終的に、11名が単位を修得しました。

## 【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

## 【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別な知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

## 【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました(直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年)。あらたにヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』の翻訳をはじめ、2023年度からこの授業を始めました。『人間本性論』は、決して易しいテキストではありませんが、しかし難しすぎるテキストでもありません。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが、目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。

## 【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.



PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

## 人間行動学 A

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

## 【到達目標】

人間行動学A (春学期) ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は対面を実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「幸福の再来」
第3回	発表・討論	第2章「意識の分析」
第4回	発表・討論	第3章「楽しさと生活の質」
第5回	発表・討論	第4章「フローの条件」
第6回	発表・討論	フローの計測
第7回	発表・討論	経験抽出法 (ESM)
第8回	発表・討論	第5章「身体のフロー」
第9回	発表・討論	第6章「思考のフロー」
第10回	発表・討論	第7章「フローとしての仕事」
第11回	発表・討論	第8章「孤独と人間関係の楽しさ」
第12回	発表・討論	第9章「カオスへの対応」
第13回	発表・討論	第10章「意味の構成」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』(世界思想社、1996年)

## 【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

報告・発表およびディスカッション (討論) での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳 (配分) は、考察・ディスカッション準備課題 (40%)、ディスカッション参加 (40%)、学期末レポート (20%) です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

## 【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

## 【Outline (in English)】

Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives: In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports contexts, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily lives for its applicability. Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

## 人間行動学 B

2017年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金3/Fri.3

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

## 【到達目標】

人間行動学B(秋学期)ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学研究を多角的に学びます。「幸せ」の多面的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「ポジティブ心理学とは何か?」
第3回	発表・討論	第2章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第4回	発表・討論	第3章「気持ちよさとポジティブな経験」
第5回	発表・討論	第4章「幸せ」
第6回	発表・討論	第5章「ポジティブ思考」
第7回	発表・討論	第6章「強みとしての徳性」
第8回	発表・討論	第7章「価値観」
第9回	発表・討論	第8章「興味、能力、達成」
第10回	発表・討論	第9章「ウェルネス」
第11回	発表・討論	第10章「ポジティブな対人関係」
第12回	発表・討論	第11章「よい制度」
第13回	発表・討論	第12章「ポジティブ心理学の未来」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』(春秋社、2012年)

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

報告・発表およびディスカッション(討論)での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳(配分)は、考察・ディスカッション準備課題(40%)、ディスカッション参加(40%)、学期末レポート(20%)です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives: In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and the behavior involved in the process.

Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学(カウンセリング)に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】

臨床心理学(カウンセリング)の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミII「心理的ウェルビーイングを考えるB」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式(学生発表と討論)で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う(定員30名)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第1回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『カウンセリングを考える・上』第1章	・担当者の発表と議論。 ・過渡期の日本社会：欧米文化「現代社会とカウンセリング」を読む。
第4回	『カウンセリングを考える・上』第2章	・担当者の発表と議論。 ・以心伝心からコミュニケーションの時代へ。 「カウンセリングにおける家族の問題」を読む。
第5回	『カウンセリングを考える・上』第3章	・担当者の発表と議論。 ・自分を生きることの難しい日「不登校カウンセリング」を読む。
第6回	『カウンセリングを考える・上』第4章	・担当者の発表と議論。 ・母性社会日本の持つ圧力。「いじめとカウンセリング」を読む。

第7回	『カウンセリングを考える・上』第5章	・担当者の発表と議論。 ・事例研究が人間に対する知識「事例研究の大切さ」を深化させる。 を読む。
第8回	『カウンセリングを考える・上』第6章	・担当者の発表と議論。 ・カウンセラーに資格はいるのか、カウンセラーにどこまで責任があるのか。
第9回	『カウンセリングを考える・下』第1章	・担当者の発表と議論。 ・欧米化の中で日本の家族はどのように変わってきたか、変わっていくべきか。
第10回	『カウンセリングを考える・下』第2章	・担当者の発表と議論。 ・禅体験はユング心理学によってどう説明できるか。 「禅体験」を読む。
第11回	『カウンセリングを考える・下』第3章	・担当者の発表と議論。 ・男性の女性性、女性の男性性「カウンセリングにおける男性と女性」を読む。
第12回	『カウンセリングを考える・下』第4章	・担当者の発表と議論。 ・児童文学を通して生き生きとした人間の姿、あり方を考える。「児童文学」を読む。
第13回	『カウンセリングを考える・下』第5章	・担当者の発表と議論。 ・人間が生きるとはどういうことなのか。 「『生きる』ということ」を読む。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

河合隼雄著『カウンセリングを考える・上・下』(創元社、1996年)。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。テキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。  
授業への取り組み(50%) + 期末レポート(50%)  
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】

Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bullying (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水2/Wed.2

単位数: 2単位

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

## 【到達目標】

文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学ぶ。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張—形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことについても考える。

本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミI「心理的ウェルビーイングを考えるA」からの連続履修を期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式(学生発表と討論)で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う(定員30名)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第1回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『日本人のしつけと教育』第1章「意欲の構造」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人の意欲構造の違いについて。
第4回	『日本人のしつけと教育』第2章「役割社会と受容的勤勉性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人に見られる受容的勤勉性はどのようにして培われたのか。
第5回	『日本人のしつけと教育』第3章「内在モデルとしてのいい子」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人のいい子像とは。
第6回	『日本人のしつけと教育』第4章「『気持ち』への関心」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・なぜ日本人は人の気持ちに敏感なのか。

第7回	『日本人のしつけと教育』第5章「滲み込み型とアメリカ型のしつけと教育」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本型の滲み込み教育とアメリカ型の教え込み教育。
第8回	『日本人のしつけと教育』第6章「道徳意識と道徳判断」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人の道徳意識と道徳判断に影響を与えるものは: 他者の目と神の目。
第9回	『日本文化のゆくえ』第1章「『私』さがし」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「私」さがし: 自分の外に向かうのか自分の内に向かうのか。
第10回	『日本文化のゆくえ』第7章「異文化体験の軌跡」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・内なる異文化に気づくこと。
第11回	『ひきこもり文化論』第4章「『甘え文化』と『ひきこもり』—比較文化的考察」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「ひきこもり」をつくりだす日本の社会、文化。
第12回	ポジティブ感情の機能に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・ポジティブな感情には人を成長させる機能がある。
第13回	フロー理論に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・充実感、没入感覚を伴う楽しい経験としてのフローとそれを通しての人間の成長。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

①東洋著『日本人のしつけと教育: 発達の日米比較にもとづいて』(東京大学出版会、1994年)、②河合隼雄著『日本文化のゆくえ』(岩波現代文庫、2013年)、③斎藤環著『ひきこもり文化論』(ちくま学芸文庫、2016年)。また、ポジティブ心理学に関する文献および授業で使用するテキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

授業では、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

## 【参考書】

必要に応じて指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。  
授業への取り組み(50%) + 期末レポート(50%)  
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

## 【Outline (in English)】

This is a continuation of the seminar from the spring semester. Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this autumn seminar, students will read books and articles about cultural and positive psychologies and discuss how we can attain psychological well-being from different psychological perspectives from those we discuss in the spring term. Through these learning experiences, this course hopes students to obtain abilities to capture human beings from different perspectives and angles.

ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

## 沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

明田川 融、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島(宮古・八重山)までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

### 【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点から授業内容が変更になる場合もあるが、各講師と内容が確定した時点で沖縄文化研究所HPで公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と現在の問題に関する概説
4	日米地位協定問題を考える視座	米兵犯罪や軍用機事故、さらには基地由来の環境汚染などが起こるたびに浮上する地位協定問題について概説
5	琉球沖縄の歴史(先史時代)	考古学からみた琉球沖縄について
6	琉球沖縄の歴史(古琉球)	「古琉球」時代について
7	琉球沖縄の歴史(近世琉球)	「近世琉球」時代について
8	琉球沖縄の歴史(近代沖縄)	「近代沖縄」について
9	琉球沖縄の歴史(沖縄戦)	「沖縄戦」について
10	琉球沖縄の歴史(戦後沖縄)	「戦後沖縄」について
11	琉球沖縄の文学	沖縄の文学について
12	琉球沖縄の言語	沖縄の「しまくとぅば」について

13 琉球沖縄の芸能 シマウタ、民謡、舞踊などについて

14 春学期のまとめ 春学期の振り返りと学期末の課題(レポート)について

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

### 【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(70%)と、毎回のミニレポート(15%)、対面出席票(15%)とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

### 【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70%), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

**沖縄を考える B**

2017年度以降入学者

明田川 融、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

**【到達目標】**

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点から授業内容が変更になる場合もあるが、各講師と内容が確定した時点で沖縄文化研究所HPで公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施]**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施]**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の歴史	沖縄の戦後史について
3	沖縄の文化①	沖縄の民俗・祭祀について
4	沖縄の政治①	沖縄に関する政治問題について
5	沖縄の社会	沖縄の社会問題について
6	沖縄の自然・環境	沖縄の自然・環境問題などについて
7	沖縄の経済	沖縄の経済について
8	琉球沖縄の歴史	幕末期の琉球について
9	沖縄の芸術①	沖縄の音楽について
10	沖縄の芸術②	沖縄の工芸について
11	沖縄の政治②	日本の中の沖縄について
12	沖縄と平和	沖縄戦と平和について
13	沖縄の文化②	沖縄の食文化について
14	秋学期のまとめ	秋学期の振り返りと学期末の課題 (レポート) について

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

**【参考書】**

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末レポート (70%) と毎回のミニレポート (15%)、対面出席票 (15%) とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

この秋学期の授業は、春学期の「沖縄を考えるA」での基礎的な知識の習得を前提としており、できるだけ通年で履修することが望ましい。

**【Outline (in English)】**

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

ヨーロッパ政治経済論 A

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヨーロッパ政治経済論Aでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合 (EU統合) の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題 (ウクライナ戦争など) に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを身に付けられる。
- ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
- ・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。  
必要に応じて英語での解説も加えます。  
後半にグループディスカッションが入ります。  
最終回 (第14回) に試験を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	政治と経済 国際体制の変容の理論 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学 (アダム・スミス、リカード、J.Bセイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開

8	欧州統合の展開 2	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EUソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバル化の台頭とEUの分断危機	世界格差の進行と反グローバル化の台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバル化の波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバル化の世界的台頭 と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80%

課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった、ヨーロッパの現状について理解が深まったなど、感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.
- Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20% on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

## ヨーロッパ政治経済論 B

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火3/Tue.3

単位数: 2単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヨーロッパ政治経済論Bでは、ヨーロッパ政治経済論Aで学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生じた問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EUの分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EUが地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題(ウクライナ戦争など)に対するEUの新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

## 【到達目標】

- 政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
- 国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。

必要に応じて英語での解説を加えます。

授業後半にグループディスカッションを行います。

最終回(第14回)に試験を実施します。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論Aのレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制(市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ)
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体(EC)の形成	戦間期からECSC、EC形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり

5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大とEC機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭とEU内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国のEU脱退(BREXIT)	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合(英国)vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係 情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
11	市場と国家の力学構造の変質	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDGsにおける主導的役割 EUの立ち位置と日本への示唆
12	グローバル化の進行と地域統合、EUの果たす役割と日本への示唆	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

特にありません。

## 【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80%

課題およびディスカッションへの参加 = 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対するEUの立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会におけるEUの役割を理解できた、との感想をいただきました。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

## 【Prerequisite】

None.



**【Outline (in English)】**

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA (法学 / law 300)

## 法の人間学 A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと(本シラバス「その他の重要事項」参照)。

## 【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法制度と人間本性(1)	もしも法がなかったらどうなるか?
第3回	法制度と人間本性(2)	ホップズの自然状態について
第4回	法制度と人間本性(3)	ロックの自然状態について
第5回	法制度と人間本性(4)	ルソーの自然状態について
第6回	死刑制度の是非(1)	死刑制度の歴史と現状について
第7回	死刑制度の是非(2)	袴田事件について
第8回	死刑制度の是非(3)	死刑制度をめぐる立場の対立について

第9回	裁判員制度と死刑(1)	国民が刑罰を決める意義と問題点について
第10回	裁判員制度と死刑(2)	法制度と個人の生命の関係について
第11回	人工妊娠中絶(1)	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第12回	人工妊娠中絶(2)	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第13回	人工妊娠中絶(3)	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第14回	人工妊娠中絶(4)	出生前診断に関連する論点と問題点について

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

## 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。(レジュメや配布資料に即して授業を進める。)

## 【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年  
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年  
 ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ!』ちくま新書、2022年  
 萱野稔人『死刑 その哲学的考察』ちくま新書、2017年  
 塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022年  
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文(レポート)の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

## 【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。)人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修すること。(春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】  
(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

## (Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA (法学 / law 300)

## 法の人間学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

## 【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法と道徳と復興増税(1)	法と道徳の関係について
第3回	法と道徳と復興増税(2)	「危害のない不道德行為」の規制について
第4回	法と道徳と復興増税(3)	支援の法的義務について
第5回	法と道徳と復興増税(4)	個人の自由と法的強制の関係について
第6回	一夫一婦制と婚姻の自由(1)	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第7回	一夫一婦制と婚姻の自由(2)	一夫一婦制の根拠について

第8回	一夫一婦制と婚姻の自由(3)	契約婚の考え方について
第9回	一夫一婦制と婚姻の自由(4)	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第10回	代理出産と親子関係(1)	親子に関する法的取り扱いについて
第11回	代理出産と親子関係(2)	代理出産の歴史と現状について
第12回	代理出産と親子関係(3)	代理出産をめぐる最近の事例について
第13回	代理出産規制の是非(1)	代理出産規制をめぐる法的論点について
第14回	代理出産規制の是非(2)	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

## 【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年  
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年  
 蔵研也『リバタリアン宣言』朝日新書、2007年  
 森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001年  
 ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下)講談社、1995年  
 デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい：ヒトの性行動の進化』草思社、2000年  
 ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか：結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993年  
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

## 【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講生には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】  
(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

## 計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景の下で、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようにになっているか?」「そうした機械仕掛けの上で、言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか?」などの疑問に対して解説・実験する。

## 【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みを理解すること」を目標としている。(例えば、電卓とPCの違いを尋ねられた時、皆さんは説明できるでしょうか?) また、「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。(例えば、コンピュータに大量の文章データを機械学習させると、各単語を数値データとして捉えるようになり「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか? 実験してみれば簡単に確認できます。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する。学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する。
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する。
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する。
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する。
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日本文書の編集に活用する例を学ぶ。
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ。
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する。
第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。

第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する。
第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する。
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ。
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

## 【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

## 【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整(例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど)に反映している。

## 【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。(予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、Webが普通に使えれば十分(このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫)です。課題などは、自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。)

## 【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。(平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。)一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている。

**【到達目標】**

講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し(場合によっては自分好みに調整して)活用の勘を養うこと」を目標としている。(各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。)

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する。学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第02回	コンピュータで数学(1)	Web上でプログラムを実行する方法について説明する。
第03回	コンピュータで数学(2)	大政奉還があった日は何曜日か計算してみる。
第04回	コンピュータで数学(3)	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる。
第05回	平方根の計算(1)	開平方と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる。
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる。
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として、行列の掛算について学ぶ。
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する。
第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する。

第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する。
第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する。
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる。
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は特に指定しない。

**【参考書】**

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

**【成績評価の方法と基準】**

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

**【その他の重要事項】**

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。(予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、Webが普通に使えれば十分(このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫)です。課題などは、自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。)

**【Outline (in English)】**

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography. To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

**集合論 A**

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】****無限とは何か ～～ 無限の個数**

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。  
～～～

普通のサッカーは1チーム11人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手のいる2つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号1、2、3、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号2、4、6、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤2が白1、赤4が白2という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

**【到達目標】**

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
- ・無限にも大小はあるか。1個、2個、…の先は？

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	無限の不思議	概要説明
第2回	集合の表記	外延と内包
第3回	部分の全体	冪集合
第4回	対応関係	写像の定義
第5回	特別な対応	全射と単射
第6回	「3」とは	全単射
第7回	無限の大きさ	濃度の定義
第8回	最小の無限	可算集合
第9回	真に大きい？	有理数全体
第10回	色々な単語	可算な文字列
第11回	真に大きい！	対角線論法
第12回	小数表記	実数全体
第13回	無限に大きく	冪集合再考

第14回 半期のまとめ 総復習の問題

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

**【テキスト (教科書)】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

- ・志賀浩二『集合への30講』(朝倉書店) 1988年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』(遊星社) 2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店) 1968年、新装版2018年

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

**【その他の重要事項】**

- (1) 秋期科目「集合論B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3 (集合論) A」。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should understand the difference between countable sets and uncountable sets,

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria/Policies】**

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).



MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

**集合論 B**

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】****無限とは何か ～～ 無限の順序**

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。  
～～～

長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一行に並べるとき、並べ方は全部で6通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、6通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数  $n$  に対して  $n$  男の  $n$  郎がいるような無限の兄弟で行うとどういことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいか。

**【到達目標】**

次のような疑問に対して答えることができる。  
・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？  
・無限の物を並べられるか。1番、2番、…の先は？

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二種類の数	基数と序数
第2回	派閥分け	同値関係
第3回	順序とは	順序集合
第4回	順序の練習	有限順序集合
第5回	順序の形	同型写像
第6回	比較可能性	線形順序
第7回	無限に降下？	整列順序
第8回	順序の順序	順序数
第9回	直線上の表現	実数の部分順序
第10回	順序をつなぐ	順序数の和
第11回	順序上の順序	順序数の積
第12回	順序と写像	順序数の冪
第13回	日常の順序	順序数の実例

第14回 半期のまとめ 総復習の問題

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

**【テキスト (教科書)】**

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

**【参考書】**

・志賀浩二『集合への30講』(朝倉書店) 1988年  
・上江洲忠弘『集合論・入門』(遊星社) 2004年、増訂版2013年  
・松坂和夫『集合・位相入門』(岩波書店) 1968年、新装版2018年

**【成績評価の方法と基準】**

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

**【その他の重要事項】**

(1) 春期科目「集合論A」で扱う内容を既知として授業を進める。  
(2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3 (集合論) B」。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to generate "longer" orders on the set of natural numbers.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria/Policies】**

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

## 相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界(宇宙)を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

## 【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題(小テスト)を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ(距離)の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象(事象とも呼ぶ)を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。

[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さはどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

なし(毎回学習支援システムにより資料を配布する)

## 【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：  
 ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著  
 (ブルーバックス; B-2087)、(講談社、2019.2)  
 ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論  
 (ニュートン別冊)、(ニュートンプレス、2019.2)  
 (その他、必要に応じて授業中に紹介する。)

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

## 【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

## 相対性理論と宇宙B

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界(宇宙)を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

## 【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題(小テスト)を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。

- [12] ブラックホール (1) ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール (2) 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

なし(毎回授業支援システムにより資料を配布する)

## 【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：  
 ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著  
 (ブルーバックス ; B-2087)、(講談社、2019.2)  
 ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論  
 (ニュートン別冊)、(ニュートンプレス、2019.2)  
 (その他、必要に応じて授業中に紹介する。)

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

## 【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

## 現代の錬金術 A

2017年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

## 【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第1-3回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するか? (1) — 化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するか? (2) — 気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するか? (3) — 気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか? (1) — 元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか? (2) — 電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する

第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造 (1) — 電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造 (2) — 量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ (1) — 関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ (2) — 試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

現代の錬金術 B

2017年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力(核力)とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第8回	標準模型	第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成(1) —ビッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり(ビッグバン)と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成(2) —恒星内の元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成(3) —恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートと期末試験の成績(計80%)と平常点(20%)で評価する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

## 原子核と素粒子A

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号113番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

## 【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらおう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体は3次元的に規則正しい立体構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第7回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。

第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

## 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

## 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

## 原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

## 【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

## 【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

## 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にはありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月4/Mon.4

単位数: 2単位

定員制 (20)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション (秋学期として: 9月13日~9月19日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

## 【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション (秋学期として: 9月13日~9月19日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて; 調査の進め方; 自然発生説; ダウインの自然選択説; DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か; 43億年前に海が形成された証拠; 熱水噴出孔での化学進化、など。
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生; 高熱性アーキアと高熱性細菌; 超高温性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み
第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成; 好気性生物の出現; シアノバクテリアの光合成、など。

第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現; 真核生物がアーキアに由来する証拠; 真核生物の起源となった原核生物、など。
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物; 多細胞生物の出現; 有性生殖のはじまり、など。
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖; 有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した; 遺伝子ファミリーの形成、など。
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた; 脊椎動物の出現; エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源; コケ植物が先か; 前維管束植物が先か、など。
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出; 哺乳類の出現; 鳥類の出現、など。
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる; ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ; タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第12回	エポデポー体制の進化一	ダーウインフィンチの嘴の進化; 節足動物の付属肢の進化; 鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第13回	エポデポー特異体制の進化一	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構; フグの特異な形態をつくるしくみ、など。
第14回	まとめ、重要用語の振り返り、博物学について、生物の名前の付け方、	まとめと振り返り、ホモサピエンスの7万年前の大発明; 博物学について; 生物の名前の付け方、など。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

## 【テキスト (教科書)】

超圧縮 地球生物全史 ヘンリー・ジー (著), 竹内 薫 (翻訳), ダイヤモンド社, 2022年出版, 定価: 2200円 (本体2000円+税10%)

## 【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (30%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

## 【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

## 【その他の重要事項】

1) 現地調査 (フィールドワーク) のための、交通費 (宿泊はしません) が必要です (5,000~9,000円程度: 入館料, ガイド料, 交通費など、金額は前後することがあります)。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員 (最大20名程度) を超えた場合にも、再度、選抜を行います。



- 3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。  
※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。
- 6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

**【Outline (in English)】**

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA (その他の総合生物・生物学/Biology 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：  
集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制 (20)

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教養ゼミⅡでは、オータムセッション(秋学期として：9月13日～9月19日)では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス(生命史)と生物の進化を学ぶ(自然史)。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

## 【到達目標】

生命(生きていること)を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

オータムセッション(秋学期として：9月13日～9月19日)では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ (1)	博物館学と博物学。博物館フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(1)

第4回	フィールドワークⅡ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(2)
第5回	フィールドワークⅡ (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(3)
第6回	フィールドワークⅡ (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する(4)
第7回	フィールドワークⅢ (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史(地質)と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(1)
第8回	フィールドワークⅢ (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史(地質)と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(2)
第9回	フィールドワークⅢ (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史(地質)と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(3)
第10回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(1)
第11回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する(2)
第12回	フィールドワークⅤ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する(1)
第13回	フィールドワークⅤ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する(2)
第14回	フィールドワークⅥ 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。フィールドワークのまとめ。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます(その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

## 【テキスト(教科書)】

進化生物学ーゲノミクスが解き明かす進化ー、赤坂甲治(著)、裳華房、2021年出版、定価3520円(本体3200円+税10%)

## 【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート(60%)および、授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(30%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

## 【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

**【その他の重要事項】**

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要で（5,000~9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオースタムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オースタムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

**【Outline (in English)】**

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

## イオンの科学A

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月2/Mon.2

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

## 【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要についての説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。

第13回 金属イオンの定性分析 未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。

第14回 まとめ これまでの内容のまとめ。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

## 【参考書】

使用しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、授業時間内に提出する簡易なレポートです。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

## 【その他の重要事項】

この授業はボアソナー ドタワー 10階のサイエンスルームで行われます。

受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。

過去3年間、抽選は実施していません。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

## イオンの科学B

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

## 【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされた金属を溶かして目的の模様を作る実験。
第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。

第13回 イオン液体 イオンのみからなる液体とその応用について。

第14回 まとめ これまでの内容のまとめ。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

## 【参考書】

使用しません。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気を付けています。

## 【その他の重要事項】

この授業はポアソナータワー10階のサイエンスルームで行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去3年間、抽選は実施していません。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

## ITリテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金1/Fri.1

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報通信技術 (Information Communication Technology) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

## 【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎 (ソフトウェア・ハードウェア) からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数 (1)	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数 (2)	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数 (3)	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム (1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム (2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ (1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第10回	情報セキュリティ (2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

基本的にパワーポイントの資料 (PDF) をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

## 【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

## 【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

## 【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information. [Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

## コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学 (Computer Science) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

## 【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析 (ソフトウェア工学)、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク (1)	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク (2)	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク (3)	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム (1)	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム (2)	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学 (1)	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学 (2)	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能 (1)	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能 (2)	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ (1)	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。

第13回 コンパイラ (2) 基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第14回 まとめ 本講義のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

## 【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

## 【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験が40%、平常点が60%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

## 【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【Outline (in English)】

## 【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

## 【Learning Objectives】

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

## 【Learning Activities Outside of Classroom】

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【Grading Criteria /Policy】

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

## 人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月3/Mon.3

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

## 【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習 (グループワーク) も行う予定です。また、各講義へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に注目し、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か?	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回	演習1: 持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。

第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	開発は持続可能か?	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	演習2: 多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教科書はなし。配布される資料を使用。

## 【参考書】

適宜提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標1、2) を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開 (到達目標3) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

## 【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種Hoppiiの機能をより効果的に活用したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。

## 【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

## 【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species faces with a holistic understanding of the human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.



[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学/Biology 300)

## Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

## 【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.

Week 3	Water cycle and the use of water resource	As an essential matter for sustaining life and ecosystem, the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

## 【テキスト (教科書)】

None. Reading materials will be distributed as needed.

## 【参考書】

To be announced as needed.

**【成績評価の方法と基準】**

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

**【学生の意見等からの気づき】**

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

**【学生が準備すべき機器他】**

Students will need to have access to Hoppii. Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

**【その他の重要事項】**

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded. Details will be announced on Hoppii prior to the first class.

**【Outline (in English)】**

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学/Biology 300)

## ボルボックス生物論A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り返す広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

## 【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題をHoppiiの「テスト/アンケート」に用意します。期限内に提出してください。
- ・授業ノートは学期終了時にHoppiiの「課題」から提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくはHoppiiを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウェンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。

第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのように再生しているかを観察します。
第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛/繊毛」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

## 【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70% (提出状況・理解度等を評価します)
- ・期末試験は行いません。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

## 【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学/Biology 300)

**ボルボックス生物論B**

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り返り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

**【到達目標】**

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

- ・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
- ・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題をHoppiiの「テスト/アンケート」に用意します。期限内に提出してください。
- ・授業ノートは学期終了時にHoppiiの「課題」から提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくはHoppiiを通じて適宜フィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖(接合)の過程を観察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌(変形菌)の探餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。

第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	「ゾンビ・ボルボックス実験」を行い、鞭毛・繊毛がATPのエネルギーを使って動くしくみを学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

**【参考書】**

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点 30%
- ・授業後の練習問題および授業ノート 70% (提出状況・理解度等を評価します)
- ・期末試験は行いません。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきたいです。

**【その他の重要事項】**

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

**【Outline (in English)】**

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界 A 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水2/Wed.2

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老朽します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

**【到達目標】**

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

**【授業の進め方と方法】**

先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。

受講生は、毎回の授業で行ったことをノートにまとめ、最終授業でノート提出して頂きます。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	デジカメ撮影の基礎・発芽の観察	デジカメを使って粘菌の移動・成長の過程を撮影します。
③	インターバル撮影法・発芽の動画製作	1週間の撮影データのデータ処理を学びます。
④	種々の長時間記録法・プラナリアの再生	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。

- |   |                   |  |
|---|-------------------|--|
| ⑧ | スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動 | 撮影環境の設定法について学びます。                      |
| ⑨ | ストロボ撮影手法・種子の回転運動  | ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。             |
| ⑩ | ハイスピード撮影手法・カイコの飛翔 | 高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。             |
| ⑪ | ハイスピード撮影技・アリの歩行   | アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。           |
| ⑫ | データ整理法・芽生えの記録1    | 様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。 |
| ⑬ | 動画編集手法・芽生えの記録2    | 様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。      |
| ⑭ | 春学期データ整理          | 春学期のデータについて、ノート上で整理します。                |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週4時間以上の学習を行って頂きます。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは有りません。

**【参考書】**

必要に応じて、授業中に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業で行ったことを記録した「実験ノート」を提出して頂きます。

この「実験ノート」の評価を全体の80%、授業中の活動評価を20%として、成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室内のパソコンを多用します。

**【その他の重要事項】**

必ず提出用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフは不可とします。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

**【Learning Objectives】**

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria /Policy】**

Grading will be decided based on the experimental notebook (80%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (20%).

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・ブラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

## 【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ ブラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「ブラナリアの再生」等でした。(BT0900教室の前に掲示中です)

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。

- ⑨ 秋学期プロジェクト 班別作業  
第4回
- ⑩ 秋学期プロジェクト 班別作業  
第5回
- ⑪ 秋学期プロジェクト 班別作業  
第6回
- ⑫ 秋学期プロジェクト・データ整理、表・グラフ作成など  
ポスター作成作業1 ポスターのコンテンツを作ります
- ⑬ 秋学期プロジェクト・プロジェクトの活動報告ポスター作成作業2 ターを作成します。
- ⑭ ポスターコンテスト 班毎に10分程度(質疑応答を含む)のポスターの発表を行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。d

## 【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

## 【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

班ごとのプレゼン3回（プロジェクト計画、中間発表、最終発表）を70%、授業中の活動を30%として成績評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

## 【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

## 【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

## 【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the 3 times required presentations (70%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (30%).

LANe300LA (英語 / English language education 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (15)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

## 【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion

7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

## 【テキスト (教科書)】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

## 【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

## 【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

## 【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

## 【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP)Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

## 【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will have the opportunity to choose what individual topics interest them the most.



LANe300LA (英語 / English language education 300)

**教養ゼミ II**

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (15)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will also have the opportunity to choose which topics they wish to study and discuss in class.

**【到達目標】**

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan (II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

**【テキスト (教科書)】**

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

**【参考書】**

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

**【成績評価の方法と基準】**

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 60%

Presentation: 10% (not graded)

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

**【学生の意見等からの気づき】**

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the numbers of students who enroll.

**【学生が準備すべき機器他】**

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

**【その他の重要事項】**

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit (聴講) the course may do so with the permission of the instructor.

**【Outline (in English)】**

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

**第三外国語としてのドイツ語 A** 2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2  
 単位数：2単位  
 定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。  
 ドイツ語文法の基礎を学びます。  
 日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を理解するために学びます。

**【到達目標】**

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。  
 日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します (講義形式)。  
 担当を決めて練習問題を行います (演習形式)。  
 ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します。  
 適宜、確認小テストを行います。  
 課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 発音とアクセント	発音の仕方 綴りの基本 ドイツ語の主語について <b>du, ihr, Sie</b> について
第2回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第3回	<b>Lektion2</b> ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第4回	<b>Lektion2</b> ドイツ語の複数形について <b>Lektion3</b> ドイツ語の冠詞について	複数形と冠詞の使い方 所有冠詞
第5回	<b>Lektion3</b> ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第6回	人称代名詞の用い方について	第5回までの学習理解・文法知識をチェックしつつ、人称代名詞の用法について学ぶ
第7回	<b>Lektion4</b> ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配
第8回	<b>Lektion4</b> ドイツ語のesについて	非人称のesを用いた表現

第9回	<b>Lektion5</b> 過去形について	動詞の3基本形
第10回	<b>Lektion5</b> ドイツ語の過去人称変化について <b>Lektion6</b> ドイツ語の現在完了形について	人称による過去形の動詞の形 現在完了形と接続詞
第11回	<b>Lektion 6</b> ドイツ語のzu不定詞について	不定詞の用法
第12回	春学期ドイツ語学習の振り返り	<b>Plus</b> 文法にふれつつ、文法の確認
第13回	理解の難しい文法項目を例文とともに、総復習を行う	第1-2回までの学習理解・文法知識をチェックしつつ、全体的な質問を受ける
第14回	春学期期末試験、解説とまとめ	春学期期末試験、解説とまとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき、合わせて4時間以上を標準とします。  
 授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。  
 次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳をみます。  
 宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

**【テキスト (教科書)】**

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』著者：木下直也等 朝日出版社

**【参考書】**

独和辞書は必要です。(電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない) 参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価手法について  
 成績配分は期末試験50%、平常点(確認テストの点数の累計、課題、授業への積極的取り組みを含む)50%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解に合わせて進めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業となった場合の必要な機器としてZoomで接続可能なデバイスを準備してください。

**【その他の重要事項】**

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

**【Outline (in English)】**

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.  
 This course provides elementary German grammar for beginners.  
 Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:  
 - confirm German elementary grammar.  
 - learn expressions of daily German conversation.  
 Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.  
 Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.  
 Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

**第三外国語としてのドイツ語 B** 2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を理解できるように学びます。

**【到達目標】**

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します (講義形式)。

担当を決めて練習問題を行います (演習形式)。

ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化とドイツ語の話法の助動詞について
第2回	Lektion 7	未来形の用法と文ドイツ語の未来形について
第3回	Lektion 8	分離・非分離動詞ドイツ語の分離動詞について
第4回	Lektion 8	受動文の用法と形式ドイツ語の受動文について
第5回	Lektion 9	命令形とその用法ドイツ語の命令形について
第6回	ドイツ語の不規則動詞の用法	第5回までの知識の定着を確認しつつ、不規則動詞の特徴について学ぶ
第7回	Lektion10	接続法第2式の用法と形式ドイツ語の接続法について
第8回	Lektion10	婉曲話法と接続法第2式の用法ドイツ語の婉曲話法について

第9回 Lektion11 再帰代名詞の人称変化

ドイツ語の再帰代名詞について

第10回 Lektion11 比較級・最上級の用法と形態

ドイツ語の比較級・最上級について

第11回 Lektion12 定関係代名詞

ドイツ語の関係代名詞について

第12回 Lektion12 関係副詞と不定関係代名詞

ドイツ語の関係副詞について

第13回 Plus 文法と振り返り Plus 文法に触れつつ、これまでの学習についての確認と総合的な質問応答

第14回 期末試験、まとめと解説 期末試験、文法事項を中心としたまとめと解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき合わせて4時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行く章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳をみます。

自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

**【テキスト (教科書)】**

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』著者：木下直也等 朝日出版社

**【参考書】**

独和辞書は必要です。(電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない) 参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末に試験を行います。

期末試験 50%

平常点 (訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加) 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

履修者の理解度に合わせて、弾力的に進めて、理解をより確実なものにします。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業になった場合の必要な機器としてZoomで接続可能なデバイスを準備してください。

**【その他の重要事項】**

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

**【Outline (in English)】**

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.

- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

**ドイツ語コミュニケーション中級 A** 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3  
 単位数：2単位  
 定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

**【到達目標】**

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen vorstellen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

**【テキスト (教科書)】**

プリント配付。

**【参考書】**

自分にあつた辞書。電子辞書でも可。

**【成績評価の方法と基準】**

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

**【Outline (in English)】**

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

**ドイツ語コミュニケーション中級 B** 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

**【到達目標】**

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

**【テキスト (教科書)】**

プリント配付。

**【参考書】**

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

**【成績評価の方法と基準】**

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

**【Outline (in English)】**

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学や歴史の史実は映画化されたり、映像として記録に残されたり、漫画やゲームになる。こうしたメディア化をアダプテーション (翻案) と呼ぶことがあるが、この授業では、多くの映画や映像の鑑賞をし、それを通して、原作作品との違い、映画化された時代や脚本家、監督の考え・意図などを探りながら、思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、翻案化され、受容され、扱われてきたかを、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、カズオ・イシグロ『私を離さないで』、村田紗耶香、桐野夏生の作品、およびそれらに関する論文を参考にしながら、考える。とりわけ、〈現在〉という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術・史実を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

【到達目標】

文学や歴史の史実の映画化・映像記録を鑑賞し、こうしたメディア化やアダプテーション (翻案) の機能や意味を理解することが目標である。

この授業で取り上げられた映画や小説や作品を視聴し、読み、論じるので、それらを自分の視点から批判的に分析できるようになることも目標である。

また、そうした議論やプレゼンの際に、自分の意見を相手に理解できるように明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業計画で挙げられる映画、文学、芸術、歴史などの諸分野において原作がどのように扱われ、表現されているかを見てゆく。その際に、全体で3つの原作・歴史、また絵画というテーマを設定しているので、映画を視聴した後、あるいはそれらのテーマの区切りに、独自の観点でいいので、プレゼンし、議論・検討をしていきたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	翻案 (映画化など) についての説明。 授業の進め方等についての説明。
第2回	『フランケンシュタイン』 (1818/1831)	『フランケンシュタイン』の扱われ方の可能性 人工と人造の生命
第3回	シェリー夫妻について 19世紀の科学技術とヒューマニティ また漫画化について	文学史的、歴史的背景 科学技術はどのように『フランケンシュタイン』に取り込まれていったか

第4回	『フランケンシュタイン』の2つの映画 (オリジナル版)	『フランケンシュタイン』の怪物性と映画での扱われ方について (検討)
第5回	『フランケンシュタイン』の2つの映画 (現代版)	『フランケンシュタイン』の怪物性とその現代性 (2つ目の映画での扱われ方) さまざまな議論
第6回	『私を離さないで』について	カズオ・イシグロと『私を離さないで』に見られる時代的背景
第7回	映画『私を離さないで』	映画『私を離さないで』と原作との差異について
第8回	映画『私を離さないで』読解と日本の近未来小説について (村田紗耶香、桐野夏生など)	未来文学とはなにか? ヒューマニティと未来
第9回	映画『アイランド』読解	20世紀社会-科学と人間
第10回	物語の絵画化、美術について	絵画の見方、物語や史実を誰がどう絵画化してきたか
第11回	絵画と美術館のフィールドワーク	フィールドワークの発表
第12回	20世紀におこった歴史-ドイツの暗い側面 映画『謀議』	ホロコーストと現実 ヴァンゼー会議について
第13回	映画『スペシャリスト』等を通してホロコーストと人間の心理	アイヒマン裁判とミルグラム実験心理学について学ぶ
第14回	アダプテーション (翻案) をめぐる問題に関する考察-まとめ	レポート発表・総評とまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。全体を通して基本文献であるClaeysのテキストの精読をおこなって

くこと。また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト (教科書)】

文献については、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』やカズオ・イシグロの『私を離さないで』などの文献については、図書館を利用するのもいいし、文庫本などで手に入る。論文等の資料はコピーにて配布する。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものをあらかじめ読んでおくと理解がしやすい。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (レジュメ・プレゼン・議論) 70%  
レポート課題 (最終回での各人の独自の発表) 30%

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を作る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学  
<研究テーマ>  
①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学  
<主要研究業績>①『英語文化研究』(2021年 春風社、共著) ②「監視というオブセッション」(2021年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』) ③「文学・科学・知の相互浸透-イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」(2020年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第17号) ④「知の獲得と語りのあて先-Kazuo IshiguroのNever Let Me Goにおけるその手続き」(2019年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第39号) ⑤翻訳 W.イーザー『虚構と想像力』2007年、法政大学出版局

**[Outline (in English)]**

**[Course outline]** The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of the adaptation and to review the acceptance by reading "Frankenstein", "Never Let Me Go" and so on.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat various kind of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

**[Learning Objectives]** : By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of the adaptation
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

**[Learning activities outside of class]** : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

**[Grading criteria]** : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%



LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

、文学や歴史の史実は映画化されたり、映像として記録に残されたり、漫画やゲームになる。こうしたメディア化をアダプテーション（翻案）と呼ぶことがあるが、秋学期のこの授業では、映画や映像を通して、原作作品との違い、映画化された時代や脚本家、監督の考え・意図などを探りながら、思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、翻案化され、受容され、扱われてきたかを、東野圭吾の『容疑者Xの献身』、『白夜行』、シェイクスピア『マクベス』、黒澤明『蜘蛛巣城』、蜷川幸雄『蜷川マクベス』、世紀転換期および近代の芸術と建築、デザイン、都市、およびそれらに関する論文を参考にしながら、考える。

とりわけ、〈現在〉という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

## 【到達目標】

文学や歴史の史実の映画化・映像記録を鑑賞し、こうしたメディア化やアダプテーション（翻案）の機能や意味を理解することが目標である。

この授業で取り上げられた映画や小説や芸術作品、建築物、デザイン等を視聴し、読み、論じるので、それらを自分の視点から批判的に分析できるようにすることも目標である。

また、そうした議論やプレゼンの際に、自分の意見を相手に理解できるように明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業計画で挙げられる映画、文学、芸術、歴史などの諸分野において原作がどのように扱われ、表現されているかを見てゆく。その際に、全体で3つの大きなテーマを設定しているため、映画を視聴した後、あるいはそれらのテーマの区切りに、独自の観点でいいので、プレゼンし、議論・検討をしていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等についての説明。
第2回	東野圭吾『容疑者Xの献身』	原作についての資料を読み、理解を深める
第3回	東野圭吾『容疑者Xの献身』の映画	原作の映画化とその差異について
第4回	東野圭吾『白夜行』について	原作と考察
第5回	日本と韓国の2つの『白夜行』の映画	国とその文化によって異なる受容。およびその差異について考察する
第6回	シェイクスピア『マクベス』について	原作とその資料を読んで、共通の知識や理解を得る

第7回	黒澤明『蜘蛛巣城』	『蜘蛛巣城』および『乱』について討議する
第8回	蜷川幸雄『マクベス』	蜷川幸雄とその演出について
第9回	英国BBC制作『マクベス』	1つの原作と3つのアダプテーションについて
第10回	世紀転換期のデザインと建築	19世紀末の英国・フランス・ドイツ社会とその芸術運動
第11回	世紀転換期芸術と建築について	建築やパウハウスの理論と歴史の概論
第12回	フィールドワーク	日本における建築と起源と影響、受容について実際に確認する
第13回	世界の都市構想と近現代社会	ユートピア的な都市、労働者の住居をどのように考えたか、また田園都市構想とは何か
第14回	近現代の世界の芸術とその流れ（まとめ）	レポート発表・総評とまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。全体を通して基本文献であるモレッティのテキストの精読をおこなってこよう。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

## 【テキスト（教科書）】

東野圭吾の『容疑者Xの献身』、『白夜行』、シェイクスピア『マクベス』などの文献については、図書館を利用するのもいいし、文庫本などで手に入る。論文等の資料はコピーにて配布する。

## 【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものをあらかじめ読んでおくとうれしい。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・議論）70%

最終回での各人のレポート発表 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

議論の時間を十分に確保し、活発な議論を促す。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021年 春風社、共著）②

「監視というオブセッション」（2021年 名城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウダナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020年 法政大学

言語・文化センター編『言語と文化』第17号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo IshiguroのNever Let Me Goにおけるその

手続き—」（2019年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第39号）⑤翻訳 W.イーザー『虚構と想像力』2007年、法政大学出版局

## 【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of the adaptation and to review the acceptance by reading "Frankenstein", "Never Let Me Go" and so on.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat various kind of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

【Learning Objectives】: By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of the adaptation
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

**【Learning activities outside of class】** : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

**【Grading criteria】** : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20世紀前半のドイツ語圏では、観念論(理想主義)への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」(あるいは「フランクフルト学派」といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
- (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
- (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムHoppiiを確認するようお願いいたします。

授業の定員は30名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは?	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学(1)	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学(2)	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況(1)	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況(2)	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開(1)	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学

第8回	実存哲学の生成と展開(2)	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開(3)	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第10回	批判理論の生成と展開(1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第11回	批判理論の生成と展開(2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い
第12回	批判理論の生成と展開(3)	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社  
・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社  
・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎(訳)、平凡社[平凡社ライブラリー]  
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。  
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介いたします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

## ドイツの思想 B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火2/Tue.2

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的問題と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関する文脈を踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

## 【到達目標】

- (A) 20世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。  
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。  
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は30名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニュルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	ヤスパースの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」(3)	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い

第8回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (3)	アーレント『エルサレムのアイヒマン』
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (1)	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い (2)	ハーバーマスと憲法パトリオティズム
第11回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	東西ドイツの再統一と「ポスト伝統的アイデンティティ」
第12回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	ヨーロッパ統合と、ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

## 【参考書】

- ・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
  - ・ヤスパース『われわれの戦争責任について』橋本文夫 (訳)、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
  - ・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一 (訳)、岩波書店〔岩波現代文庫〕
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

## 【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

## 【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

**カルチュラル・スタディーズで見  
るドイツ語圏A** 2017年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (30)

2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】****【グリム/ディズニーから読み解くドイツ文化とその越境】**

ディズニーがこれまでに製作してきた60本以上の長篇アニメ映画のうち、グリム童話などドイツにルーツをもつ物語を原作もしくは原案とする作品は少なくありません。これらの作品を観たことのあるみなさんは、ディズニー映画というフィルターを通して、間接的にドイツ文化と触れ合ってきたといってもよいでしょう。

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作とする映画と比較・対照します。テキストと映像を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ (とアメリカ) の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

**【到達目標】**

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストとその文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏 (英米・日本など) との相互関係に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

まず、論及の対象となる文学作品を紹介し、映画作品の抜粋を視聴しながら、教員がその作品が置かれた文化的文脈についてお話しします (講義形式)。

次に、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。(演習形式)。

文学作品ないし映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます (フィードバック)。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要について紹介 (「ドイツ語圏」とは? 「カルチュラル・スタディーズ」とは? など)
第2回	『グリム童話集』の歴史	成立過程/ドイツ・アメリカ・日本における受容史/グループ分け (1)
第3回	プリンセスの変容と社会の変化	ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する/グループ分け (2)

第4回	ふたりの『白雪姫』 (1)	テキスト読解/成立過程とその文化的・社会的文脈
第5回	ふたりの『白雪姫』 (2)	【グループ発表1】テキストと映画の比較
第6回	『灰まみれ』と『シンデレラ』 (1)	テキスト読解/成立過程とその文化的・社会的文脈
第7回	『灰まみれ』と『シンデレラ』 (2)	【グループ発表2】テキストと映画の比較
第8回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』 (1)	テキスト読解/成立過程とその文化的・社会的文脈
第9回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』 (2)	【グループ発表3】テキストと映画の比較
第10回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』 (1)	テキスト読解/成立過程とその文化的・社会的文脈
第11回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』 (2)	【グループ発表4】テキストと映画の比較
第12回	『ラプンツェル』と『塔の上のラプンツェル』 (1)	テキスト読解/成立過程とその文化的・社会的文脈
第13回	『ラプンツェル』と『塔の上のラプンツェル』 (2)	【グループ発表5】テキストと映画の比較
第14回	ディズニーとドイツ (まとめにかえて)	メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通しておいてください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります (詳細については授業で説明します)。授業ノートを読み返しながらか自分の意見をまとめてください。

**【テキスト (教科書)】**

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

**【参考書】**

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど) : 60%  
学期末レポート : 40% (提出しない場合は単位の認定ができません) — なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります (ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください)。

**【学生の意見等からの気づき】**

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみさんの授業への能動的な参加を促します。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

**【その他の重要事項】**

ドイツ語の知識は必要ありません。春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

**【Outline (in English)】**

German Culture and its Crossing Borders as Read from Grimm/Disney  
In this class, we will compare/contrast children's literature from German-speaking countries with the films based on them. While reading/watching the texts and films, we will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and the U.S.) that contributed to the differences between the two.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

**カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者  
るドイツ語圏 B**

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制 (30)

2021年度までに「ドイツ語圏の文学B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

**【アニメ・映画における〈人造人間〉の変容】**

映画やアニメなどのポップカルチャーのなかにはしばしば〈人造人間〉が登場しますが、その際、これらのモチーフには直接的・間接的にドイツ文化において過去に生み出されたイメージが大きく影を落としています。

この授業では、〈人造人間〉を四つのタイプに分類し、そのドイツ語圏文化における出現を跡づけたのち、それぞれのモチーフが現代の文化のなかにもどどのようなかたちで〈転生〉を遂げているのかを考えていきます。〈転生〉後のイメージを変容させる要因になったドイツ (と日本やアメリカなど) の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

**【到達目標】**

ドイツ語圏の文学作品や映画の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

文学と映像のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏 (英米・日本など) との相互関係に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

第9回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品を紹介し、映像作品の抜粋を視聴しながら、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします (講義形式)。

第10回以降は、それぞれのモチーフをあつかったほかの作品 (映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む) を受講生のみなさんに自由に選んでもらい、これについてグループ発表を行なってもらいます。その後、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。(演習形式)。

文学作品や映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます (フィードバック)。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要について紹介 / 〈人〉：〈人造人間〉とは何か
第2回	〈ホムンクルス〉と『鋼の錬金術師』：生命の創造という禁忌	ゲーテ『ファウスト』：プロメテウスの神話、ソクーロフと手塚治虫

第3回	〈ホムンクルス〉と『鋼の錬金術師』：生命の創造という禁忌 (2)	〈魔術〉と〈科学〉のあいだで：〈クローン技術〉の表象分析
第4回	〈オリンピア〉と〈人形愛〉：恋愛対象はアンドロイド (1)	ホフマン『砂男』、ピュグマリオンの神話、映画『メトロポリス』
第5回	〈オリンピア〉と〈人形愛〉：恋愛対象はアンドロイド (2)	映画『空気人形』『アイム・ユア・マン』：フィクトセクシュアルと〈推し〉
第6回	〈ゴレム〉と『新世紀エヴァンゲリオン』：〈人造人間〉の両義性 (1)	マイリンク『ゴレム』、ゴレム伝説と映画『巨人ゴレム』
第7回	〈ゴレム〉と『新世紀エヴァンゲリオン』：〈人造人間〉の両義性 (2)	フランケンシュタイン、『大魔神』と〈巨大ロボットアニメ〉の系譜
第8回	〈プロテゼ〉と『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』：補綴からサイボーグへ? (1)	ゲーテ『ゲッツ』 / 第一次大戦と映画『芸術と手術』『M』
第9回	〈プロテゼ〉と『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』：補綴からサイボーグへ? (2)	身体改変とその果て——美容整形 (『ヘルタースケルター』) / 義体化 (『攻殻機動隊』)
第10回	〈ホムンクルス〉の転生	<b>【グループ発表1】</b> 現代の〈ホムンクルス〉：差異とその社会的・文化的要因
第11回	〈オリンピア〉の転生	<b>【グループ発表2】</b> 現代の〈オリンピア〉：差異とその社会的・文化的要因
第12回	〈ゴレム〉の転生	<b>【グループ発表3】</b> 現代の〈ゴレム〉：差異とその社会的・文化的要因
第13回	〈プロテゼ〉の転生	<b>【グループ発表4】</b> 現代の〈プロテゼ〉：差異とその社会的・文化的要因
第14回	〈人造人間〉の系譜 (まとめにかえて)	文化・メディアを超えた〈転生〉を〈読む〉こと

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通してください。なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります (詳細については授業で説明します)。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

**【テキスト (教科書)】**

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

**【参考書】**

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど) : 60%

学期末レポート : 40% (提出しない場合は単位の認定ができません)

——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります (ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください)。

**【学生の意見等からの気づき】**

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

**【その他の重要事項】**

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

**【Outline (in English)】**

**The Transformation of 'Artificial Humans' in Animation and Film**

'Artificial humans' often appear in pop culture, such as movies and animated films, and these motifs have been directly or indirectly influenced by the images created in German culture in the past.

In this class, we will classify the four types of 'artificial humans,' trace their appearance in German-speaking cultures, and then consider how each motif has been 'reincarnated' in contemporary culture. We will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and Japan, the U.S., etc.) that have contributed to the transformation of the post-incarnation image.



ARSk300LA (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 300)

## 比較文化A

2017年度以降入学者

### D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

#### 【到達目標】

- 自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
- 固定化されたイメージ (ステレオタイプ) を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力 (メディア・リテラシー) を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

#### 【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	絵と絵ことば	絵と絵ことば (ピクトグラム) による East meets Westの比較文化入門
③	Webの料理チャンネルの比較 (1)	Youtubeの料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
④	Webの料理チャンネルの比較 (2)	Youtubeの料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	Webの料理チャンネルの比較 (3)	Youtubeの料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑥	テレビの料理番組の比較 (1)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑦	テレビの料理番組の比較 (2)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑧	テレビの料理番組の比較 (3)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	テレビの料理番組の比較 (4)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。

- ⑩ 映画の比較 (1) (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
- ⑪ 映画の比較 (2) (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
- ⑫ 映画の比較 (3) (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
- ⑬ 映画の比較 (4) (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
- ⑭ まとめ、課題もしく 春学期に学んだ内容を確認する。  
は試験

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

#### 【参考書】

教室で指定する。

#### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：50%

学期末試験 (課題)：50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Hoppii学習支援システムを利用するので、情報機器 (パソコン、プリンター) などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、wifiを利用して下さい。

#### 【その他の重要事項】

定員は30人名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。

#### 【Outline (in English)】

##### Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.

- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

#### Preparation and review.

*The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.*

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ARSk300LA (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 300)

**比較文化B**

2017年度以降入学者

**D. ハイデンライヒ**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

**【到達目標】**

- 人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ (ステレオタイプ) を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力 (メディア・リテラシー) を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	狐 (1)	童話におけるキツネの性格を比較する。
③	狐 (2)	課題、ディスカッション
④	ロバと馬 (1)	映画の中のロバと馬を比較する。
⑤	ロバと馬 (2)	課題、ディスカッション
⑥	白鳥 (1)	オペラとバレエを比較する。
⑦	白鳥 (2)	課題、ディスカッション
⑧	禿鷹 (1)	カフカの寓話『禿鷹』を読む。
⑨	禿鷹 (2)	課題、ディスカッション
⑩	蛙 (1)	現代ドイツ文学における蛙について
⑪	蛙 (2)	課題、ディスカッション
⑫	人魚 (1)	日本人と西洋人の「人魚」像の比較
⑬	人魚 (2)	課題、ディスカッション
⑭	まとめ、課題もしくは試験	秋学期に学んだ内容を確認する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

**【参考書】**

教室で指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：50%

学期末試験 (課題)：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

Hoppii学習支援システムを利用するので、情報機器 (パソコン、プリンター)などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、wifiを利用して下さい。

**【Outline (in English)】**

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

- Deepening cross-cultural understanding of human-animal relationships.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media

Preparation and review.

*The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.*

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%  
Final exam: 40%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何か思い浮かびますか？「ドイツ語圏」の芸術？「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

18世紀から19世紀にかけて、中部ヨーロッパ（現在のドイツ、オーストリアとその周辺）には「ドイツっぽい (deutsch)」や「ドイツ人 (Deutsche)」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現れました。この授業では「ドイツ語圏の芸術B」（秋学期開講）とあわせ、近代ドイツ語圏の音楽や造形芸術（建築、デザイン）を概観しながら、「ドイツ語圏の芸術」のさまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

### 【到達目標】

第一の目標は、近代ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイスとその周辺）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難、ジェンダー規範の歴史的経緯について思考することです。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

・造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は18世紀末～20世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。

（個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。）

・各回、基本的に担当者による解説やテキストの講義を中心とする講義形式で行いますが、適宜グループワークでの議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士で互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各回の議論でなされたコメントには即時相互のフィードバックが得られます。

・各回授業後に、LMS上にコメント（小レポート）を書き提出します。  
・Hoppiiのほか、Google ClassroomをLMSのツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第2回	ルネサンスから北方ルネサンスへアールプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502年）、『メランコリアI』（1514年）ほか
第3回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第一番ト長調K.80（73f）「ローディ」』（1770-1773年）ほか
第4回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787年）『魔笛』（1791年）
第5回	ナポレオン後の世界（1）ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品67「運命」』（1808年）
第6回	ナポレオン後の世界（2）ー1824年の衝撃ー	ベートーヴェン『交響曲第九番ニ短調作品125「合唱付」』（1824年）
第7回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814年）とゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808年）
第8回	反動と啓蒙の時代ー合唱と「ドイツ」を讃える歌	文化都市ライプツィヒと「フィルハーモニー」、「ジグ・アカデミー」とゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829年）
第9回	「国歌」のはじまり？ー「私」の誇り・「ドイツ人」としての誇り	ハイドン『弦楽四重奏曲第77番ハ長調「皇帝」／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841年）
第10回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947年）『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）『鉄匠延機工場』（1872-1875年）
第11回	戦うオーストリアーウィーンのワルツ・ビジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス2世『青き美しきドナウ』（1867年）『ウィーン気質』（1873年）ほか
第12回	終わりの始まり（1）ー権威への思慕と反動のせめぎ合い	ウィーン工房とウィーン分離派（O. ヴァーグナー、J. ホフマン、K. モーザーなど）
第13回	終わりの始まり（2）光と影	G. クリムト『アデーレ・ブロッターウィーン世紀末のホ＝パウアーの肖像I』（1907年）など
第14回	まとめ	今学期のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
- ・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。コロナ禍以降、オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。

### 【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

### 【参考書】

宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）

石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014年）

神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995年）

その他、適宜授業内に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

**【その他の重要事項】**

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

**【Outline (in English)】**

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

**【Learning Objectives】**

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

**【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】**

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

**【Grading criteria】**

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

## ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて何か思い浮かびますか？「ドイツ語圏」の芸術？ それとも「ドイツ語圏」ってどこでしたっけ？

20世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術をめぐる、「ドイツ語圏」の人々がいかに歴史に翻弄され、抗おうとしたのか？ この授業では「ドイツ語圏の芸術A」(春学期)とあわせ、近現代のドイツ語圏の造形芸術、建築やデザイン、音楽などの現象を通じて、「ドイツ語圏の芸術」の内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

## 【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする)の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術・文化一般に対する知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけでなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっほい」というナショナルな表象(とそれに対する抵抗)を概観することで、アイデンティティの実体や困難、ジェンダー規範の歴史的経緯について思考することです。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・20世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、映画、音楽などの諸芸術ジャンルを、おおよそ時系列に沿って扱います。

(個別の作品分析とともに、時代背景や作品受容のあり方、社会への影響などについて確認します)

・各回、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜グループワークでの議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各回の議論でなされたコメントには即時相互のフィードバックが得られます。

・各回授業後に、LMS上にコメント(小レポート)を書き提出します。

・Hoppiiのほか、Google ClassroomをLMSのツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について(オリエンテーション)、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第2回	若者の時代、ヨーロッパの夜明け— 大都市への憧れ	「青騎士」と「ブリュッケ」、O. ミュラー『水浴する風景』(1906年)、キルヒナー『ノルンドルフ広場』(1912年)『ポツダム広場』(1914年)など
第3回	言葉と音の大胆な融合— 国際都市チューリヒの「反芸術」	H.バル『ダダ宣言』(1916年)、T.ツァラのチューリヒ・ダダと「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第4回	モダニズムのパラダイム— 混乱と「コラージュ」と「モンタージュ」	ベルリン・ダダ(R.ハウスマン、H.ヘーヒほか)、K.シュヴィッターズ『メルツ絵画』(1919年〜)ほか
第5回	身体にリズムを取り戻す(1)— 「カッコイイ」兵士の身体?	国民国家の理想と兵士の育成、トゥルネン運動とヴァンダーフォーゲルの理想
第6回	身体にリズムを取り戻す(2)— モダンダンスの革命・女性の理想的な身体?	R.ラバンとモンテ・ヴェルデ、M.ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第7回	「全ては建築に収束する」— バウハウスの誕生	W.グロピウス『バウハウス宣言』(1919年)、表現主義と機能主義の混合、O.シュレンマーの舞台工房と『トリアディック・パレエ』(1922年)ほか
第8回	審美的な芸術から機能主義へ— マイアーとM・v・d・ローエのバウハウス	バウハウス・デッサウ(1925年)、「皆が平等に豊かな」生活、商業活動のための芸術
第9回	ハイパーインフレと虚無の後— 機械の時代の芸術、大都市の光と影	O.グロス『大都会』(1927/28年)、C.シャート『ソーニャ』(1929年)など
第10回	ナチスの権力掌握と芸術(1)— 「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書(1933年)、「退廃芸術展」への道
第11回	ナチスの権力掌握と芸術(2)— ラジオと映画の機能	「ゲッベルスの口」と「国民ラジオ」、レニ・リーフェンシュタール『意志の勝利』(1934年)『オリンピック』(1938年)
第12回	ナチスの権力掌握と芸術(3)— 「音楽を取り締まる」・ベルリン・フィルの運命	「ドイツ的な音楽・ドイツらしくない音楽」?、フルトヴェングラーのオーケストラあるいはダンスホールの運命
第13回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」— 「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す(第1回ドクメンタ)、芸術の意味の多様化、60年代の改革運動と第5回ドクメンタ
第14回	まとめ	今学期のまとめ

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

・授業資料に再度目を通すこと。

・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。

・コンサート・ライブや観劇、展覧会訪問などの体験は素晴らしいことです。コロナ禍以降、オンラインの催しは劇的に増え、無料配信のものも数多くあります。

## 【テキスト(教科書)】

各回資料を配布します。

## 【参考書】

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015年)

・W.ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）  
 その他、適宜授業内に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

#### 【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts(including architecture and handcrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

#### 【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

#### 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

#### 【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学A

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語圏の哲学者たち (例えば、カントやアーレントやハーバマス) により展開された公共哲学の議論の展開を検討する。その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取りながら検討する。哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方をを用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになるようになることを目的とする。

【到達目標】

公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。

ドイツ語圏の政治に関わる話題について基礎的な理解を得る。哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入と一緒に検討します。

学期末にレポートを書いていただきます。

この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	なぜ公共哲学は重要なのかについてのイントロダクション
第2回	公共性と「公的なモノ」	公共概念がどのような場所で用いられるのかを、ドイツ語圏の事例を使いながら考える。
第3回	公共性と「公的なモノ」(続き)	前回の続き
第4回	私秘性と公共性	プライバシーと公共性の関係を考える。
第5回	私秘性と公共性 (続き)	前回の続き
第6回	メディアと公共性	ドイツ語圏の公共放送のあり方を概観し、公共的意見形成について考える
第7回	メディアと公共性 (続き)	前回の続き
第8回	熟議民主主義と公共性	公共的意見形成が民主主義に果たす役割について考える。
第9回	熟議民主主義と公共性 (続き)	前回の続き
第10回	立憲主義と公共性	ドイツの憲法裁判所についての基礎的な事実を確認し、公共的意見形成との関係を考える。

第11回 立憲主義と公共性 前回の続き

(続き)

第12回 社会福祉国家と公共性 主にドイツの社会保障システムの基礎的な事実を確認し、社会福祉国家について公共哲学の観点から考える。

第13回 社会福祉国家と公共性 (続き) 前回の続き

第14回 春学期のまとめ 春学期に扱ったテーマの確認。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次の授業に臨んでください。学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】

毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】

毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます(70%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。

学期末にレポートを執筆していただきます(30%)。こちらは、資料内で提示した資料の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を分割して履修することもできますが、連続履修をお勧めします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.

【Learning Objectives】

In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.

【Grading Criteria /Policy】

Participation and homework (50%) + term paper (50%)

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

## ドイツ語圏の公共哲学B

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (60)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語圏の哲学者たち (例えば、カントやアーレントやハーバマス) により展開された公共哲学の議論の展開を検討する。その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例を取りながら検討する。哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方をを用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。

ドイツ語圏の政治に関わる話題について基礎的な理解を得る。哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回アクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入と一緒に検討します。

学期末にレポートを書いていただきます。

この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の簡単な振り返りと、秋学期のテーマのイントロダクション。
第2回	多元主義と公共性	多元主義社会としてのドイツ語圏について簡単に概観し、多元主義社会での公共的意見形成について考える。
第3回	多元主義と公共性 (続き)	前回の続き
第4回	世俗化と公共性	主にドイツで公共的意見形成に、宗教が果たす役割を検討する。
第5回	世俗化と公共性 (続き)	前回の続き
第6回	公共性とグローバルな正義	ドイツ語圏の国々が関与した (あるいは関与しなかった) 紛争と、その決断にいたる意見形成のプロセスを分析する。
第7回	公共性とグローバルな正義 (続き)	前回の続き
第8回	公共性とヨーロッパ意識	EUの政策についてのドイツ語圏諸国の世論形成について検討する。
第9回	公共性とヨーロッパ意識 (続き)	前回の続き

第10回	公共性と専門家	コロナ期のドイツ語圏の世論形成についていくつかの論文を参考しながら概観する。
第11回	公共性と専門家 (続き)	前回の続き
第12回	SNSと公共の意見形成	フェイクニュースなどについての分析を、ハーバマスの最近の論文によりながら考える。
第13回	SNSと公共の意見形成 (続き)	前回の続き
第14回	まとめ	1年間の講義を振り返ってまとめる。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次の授業に臨んでください。学期末にレポートを書いていただきます。

## 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

## 【参考書】

毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回アクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (70%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。

学期末にレポートを執筆していただきます (30%)。こちらは、資料内で提示した資料の一部を読んで、要約することを含みます。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

## 【学生が準備すべき機器他】

毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

## 【その他の重要事項】

春学期と秋学期を分割して履修することもできますが、連続履修をお勧めします。

なお、春学期を履修していなくてもついて来れるようには工夫いたします。

## 【Outline (in English)】

## 【Course outline】

This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.

## 【Learning Objectives】

In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.

## 【Learning activities outside of classroom】

Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.

## 【Grading Criteria /Policy】

Participation and homework (50%) + term paper (50%)



HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A 2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

**【到達目標】**

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う(講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える(講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う(講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う(講義と実習)。

8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う(講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コアディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたくて授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

**【参考書】**

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

**【その他の重要事項】**

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B**

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位  
20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割についての理解を深める。  
生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

**【到達目標】**

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目 授 業	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目 授 業	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3 回目 授 業	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスボール ・大縄跳び
4 回目 授 業	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5 回目 授 業	ネット種目(ニューススポーツ) ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践

6 回目 授 業	ネットラケット種目	・バドミントン・シングルス/ダブルス理論と実践
7 回目 授 業	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8 回目 授 業	有酸素運動 ・ウォーキング	・有酸素運動の理論と実践
9 回目 授 業	ニューススポーツ(室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10 回目 授 業	ネット種目 ・バレーボール(変則ルール)	・バレーボール理論と実践
11 回目 授 業	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
12 回目 授 業	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13 回目 授 業	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14 回目 授 業	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

**【参考書】**

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。

なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン、オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

**【その他の重要事項】**

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.

(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】  
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツと健康の科学

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツを通して最新のスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する最新の健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる(グループワークおよび実習)
3	スポーツ科学・健康科学とは	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ(講義)
4	運動の心理的効果	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。実技種目はバレーボールを用いる(講義及び実習)

5	運動の身体的効果	運動の身体的効果、特に有酸素・無酸素トレーニングを題材に学ぶ実技種目はウォーキングを用いる(講義及び実習)
6	運動の功と罪	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ(講義および実習)
7	運動学習の方略：注意の焦点	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる(講義および実習)
8	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。(講義)
9	運動スキルの転移と学習	新たなスポーツ動作を学習する際には過去のスポーツ経験が影響することがある。運動スキルの転移学習を学ぶ。実技種目はバドミントンを用いる(講義および実習)
10	効果的な運動学習法の探索	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する(講義及びグループワーク)
11	効果的な運動学習法の実践	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する(講義および実習)
12	スポーツ栄養(基礎)	5大栄養素の復習とスポーツ場面での栄養摂取の方法、タイミングについて学ぶ(講義)
13	スポーツ栄養(応用)	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ(講義)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

- 5.原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
- 6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
- 7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
- 2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

#### 【その他の重要事項】

- 1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
- 2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
- 3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
- 4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

#### 【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
- (2) Report on the lecture: 60%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B**

2017年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツと健康の科学

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツを通して最新のスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する最新の健康科学について理解を深め、実践する。

**【到達目標】**

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる(グループワークおよび実習)
3	スポーツ科学・健康科学とは	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ(講義)

4	プレッシャーとスポーツ：実践	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する。(講義及び実習)
5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ(講義及び実習)
6	あがりへの対処と実力発揮	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる(講義および実習)
7	運動学習の方略：注意の焦点	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる(講義および実習)
8	Tea(お茶)とスポーツ	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ(講義)
9	スポーツの価値	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質の価値を学ぶ(講義および実習)
10	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める(講義)
11	新しいスポーツを作ろう	これまでの体育・スポーツの授業では誰かが作った「スポーツ」から様々な恩恵を受けてきた。既存のスポーツの本質を概観しながら、ニュースポーツについて学ぶ(講義およびグループワーク)
12	新しいスポーツを作る手順	これまでの体育・スポーツの授業では誰かが作った「スポーツ」から様々な恩恵を受けてきた。既存のスポーツの本質を概観しながら、新たなスポーツを作るための手順を学ぶ(講義およびグループワーク)
13	新しいスポーツを発表・体験しよう	新しく製作したスポーツ発表し、体験する(講義およびグループワーク)
14	総括・試験	総括およびレポート

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【参考書】**

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

**【学生が準備すべき機器他】**

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

**【Outline (in English)】**

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
- (2) Report on the lecture: 60%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.



HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学A** 2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技&講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操(フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
3	実技&講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操(フィットネス)・ レクリエーション、バスケット ボールの応用的技術と戦術理解
4	実技&講義 ：バレーボール①	ストレッチ・体操(フィットネス)・ レクリエーション、バレーボール の基本的技術とルール

5	スポーツ科学とは？ (講義)	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝 (講義)	代謝とそのメカニズム 運動が健康に与える影響
7	実技&講義 ：卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技&講義 ：卓球②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技&講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール、 試合形式のゲーム
10	実技&講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンのダブルスの基本的 技術とルール、試合形式のゲーム
11	実技&講義 ：バレーボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの応用的技術とルール
12	実技 & 講義 ：その他の種目	ストレッチ・体操(フィットネス) ドッジボール、フリスビー、ユニ ホック、ホッケーの基本技術と ルール
13	サクセスフルエイジ ングの達成 (講義)	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
14	授業の総括、簡易テ スト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。  
本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

**【参考書】**

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で論理的かつ適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。そのため、競技に不安のある方でも楽しく参加できるよう配慮しております。

**【学生が準備すべき機器他】**

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

**【その他の重要事項】**

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

**【Learning activities outside of classroom】** Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】** Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B**

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、「運動・栄養・休養」の3つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題（少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など）や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目標とする。

**【到達目標】**

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技と講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技&講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
3	実技&講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
4	実技&講義 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの基本的技術とルール
5	健康とは?（講義）	WHOの健康の概念（Health Tips） JAMA 身体の健康を維持するしくみ

6	生活習慣病とスポーツ医学（講義）	生活習慣病とは（発症とそのメカニズム） スポーツ医学とその応用 運動が疾病を抑制するメカニズム
7	実技&講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技&講義 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
9	実技&講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技&講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術 3vs3 実践的 W-up
11	実技&講義 ：フットサル②	ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの基本的技術とルール
12	実技&講義 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング（講義）	骨格筋の量・質的变化 トレーニング適応 コンディショニング 遺伝とスポーツパフォーマンス
14	授業の総括・簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

**【参考書】**

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。スポーツ科学A同様に、競技スポーツの習熟を狙いとしていない授業のため、スポーツ科学に親しんでみたい生徒の受講を歓迎します。

**【学生が準備すべき機器他】**

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

**【その他の重要事項】**

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

**【Learning activities outside of classroom】** Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria/Policy】** Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学A** 2017年度以降入学者

サブタイトル：パフォーマンス・エンハンスメント

**武井 敦彦**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位  
20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション (1回目) の実施 (講義及び実習)
2	体力測定	体力測定の意義を知る (講義及び実習)
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボール理論と実践 (講義及び実習)
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボール理論と実践 (講義及び実習)
5	体力測定	体力測定のフィードバック及びレポート作成 (講義)
6	トレーニング理論と実践	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
7	ウォームアップ	効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
8	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う (講義)
9	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントン理論と実践 (講義及び実習)

10	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントン理論と実践 (講義及び実習)
11	集団スポーツを学ぶ 3	フットサル理論と実践 (講義及び実習)
12	集団スポーツを学ぶ 4	フットサル理論と実践 (講義及び実習)
13	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 プレゼンテーション (2回目) の実施 (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

**【参考書】**

広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇考. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

**【成績評価の方法と基準】**

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60%、2) 課題レポート40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
  - ※原則として欠席3回までを評価対象とします。
  - ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
  - ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
  - ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当の為、特にありません。

**【学生が準備すべき機器他】**

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

**【その他の重要事項】**

1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。

**【Outline (in English)】**

**【授業概要 (Course outline)】**

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.

- 2.Acquire the ability to use sports activities to establish a prosperous and healthy student and social life.
- 3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- 4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
- 5.Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

This class's standard preparatory study and review time is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1.Participation status for activities during class / Presentation/ Reaction paper 60%,
- 2.Assignments / Reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B** 2017年度以降入学者

サブタイトル：パフォーマンス・エンハンスメント

**武井 敦彦**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション (1回目) の実施 (講義及び実習)
2	体力測定	体力測定の意義を知る (講義及び実習)
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボール理論と実践 (講義及び実習)
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボール理論と実践 (講義及び実習)
5	体力測定	体力測定のフィードバック及びレポート作成 (講義)
6	トレーニング理論と実践	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
7	ウォームアップ	効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
8	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う (講義)
9	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントン理論と実践 (講義及び実習)

10	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントン理論と実践 (講義及び実習)
11	集団スポーツを学ぶ 3	フットサル理論と実践 (講義及び実習)
12	集団スポーツを学ぶ 4	フットサル理論と実践 (講義及び実習)
13	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 プレゼンテーション (2回目) の実施 (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

**【参考書】**

広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇考、ケガをしないカラダづくり、東洋館出版社、2023

**【成績評価の方法と基準】**

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60%、2) 課題レポート40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
  - ※原則として欠席3回までを評価対象とします。
  - ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
  - ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
  - ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当の為、特にありません。

**【学生が準備すべき機器他】**

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

**【その他の重要事項】**

1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。

**【Outline (in English)】**

**【授業概要 (Course outline)】**

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.

2.Acquire the ability to use sports activities to establish a prosperous and healthy student and social life.

3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.

4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.

5.Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

This class's standard preparatory study and review time is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1.Participation status for activities during class / Presentation/ Reaction paper 60%,

2.Assignments / Reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.



HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学A**

2017年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容(スポーツ心理、栄養、トレーニング等)も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ(グループワークおよび実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ(講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ(講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、プッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ(講義及び実習)

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ(講義および実習)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ(講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する(講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ(講義)
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ(講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ(講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ(講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ(講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う(講義および実習)

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

**【テキスト(教科書)】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【参考書】**

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

**【学生が準備すべき機器他】**

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
- (2) Report on the lecture: 60%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B**

2017年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

**【到達目標】**

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容(スポーツ心理、栄養、トレーニング等)も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ(グループワークおよび実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ(講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ(講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、プッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ(講義及び実習)

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ(講義および実習)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ(講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する(講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ(講義)
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ(講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ(講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ(講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ(講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う(講義および実習)

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

**【テキスト(教科書)】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【参考書】**

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート・試験40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

**【学生が準備すべき機器他】**

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
- (2) Report on the lecture: 60%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位  
20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向(歴史)やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃(レシーブ・トス・スパイク)を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃(レシーブ・トス・スパイク)を用いた試合を展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて(講義)	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得(実習&講義)	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得(実習&講義)	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得(実習&講義)	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方(実習&講義)	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて(実習&講義)	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。

第8回	集団的技術・各ポジションの役割(実習&講義)	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術(三段攻撃使用)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(三段攻撃を用いる)を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術(レシーブのフォーメーション重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(レシーブのフォーメーション)を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術(サーブ戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(サーブ)を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術(チームコミュニケーション重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(チームコミュニケーション)を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術(総合)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(総合的に)を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況(60%)を主な基準として、筆記試験(40%)を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目(バレーボール)の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生(法・文・営・国)ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

【Learning Objectives】

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位  
20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ(アウトドア)バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

## 【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃(レシーブ・トス・スパイク)を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業(スポーツ科学B)は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて(講義)	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる(実習&講義)	スポーツ科学Bからの受講者のため各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習(実習&講義)	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習(実習&講義)	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団技術を復習する。
第5回	各技術の応用(実習&講義)	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎(実習&講義)	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術(サーブ戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(サーブ)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第8回	集団的技術(レセプション戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(レセプション)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術(トスアップ戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(トスアップ)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術(ディグ戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(ディグ)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術(スパイク戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(スパイク)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術(ブロック戦略重視)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(ブロック)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術(総合的)・ゲーム(実習&講義)	チームごとに戦略(総合的に)を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況(70%)を主な基準として、レポート(30%)を加味し評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目(バレーボール)の特性を理解してもらえよう努める。

## 【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生(法・文・営・国)ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

## 【Outline (in English)】

## [Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

## [Learning Objectives]

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

## [Learning activities outside of classroom]

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

## [Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A 2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深める。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法 (講義及び実習)
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定 (講義及び実習)
4	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク (講義)
5	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る (講義)
6	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法 (講義)
7	サプリメント	サプリメントとその摂取方法 (講義及び実習)

8	栄養素	栄養不足が招く悪影響 (講義及び実習)
9	栄養指導	スポーツ現場での栄養指導 (講義及び実習)
10	栄養摂取	栄養摂取のポイント (講義及び実習)
11	アミノ酸	アミノ酸の役割 (講義及び実習)
12	脂質	脂質の役割 (講義及び実習)
13	糖質	糖質の役割 (講義及び実習)
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80%  
・レポート課題：20%

1. 原則として出席回数が授業実施回数の2/3 (10回出席)以上に満たない場合はE評価となります。
2. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4. 急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者 (30名程度) を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。このためスポーツ科学Bの履修希望者も、春学期の初回授業から参加されることをおすすめします。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

**【Learning Objectives】**

- 1.to learn the basic theory and methods of training.
- 2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
- 3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
- 4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

**【Learning activities outside of classroom】**

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

- 1.to practice systematic training.
- 2.to record your meals and sleeping hours.
- 3.to read material on training, nutrition and sleep.

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.



HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B** 2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践Ⅱ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

スポーツ科学Aでの学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

**【到達目標】**

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学Aにおいて考案したトレーニングプログラムを発展させる。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法 (講義及び実習)
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定 (講義及び実習)
4	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進 (講義)
5	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係 (講義)
6	ソーシャルサポート	スポーツ場面におけるソーシャルサポート (講義)
7	睡眠Ⅰ	睡眠の質 (講義及び実習)

8	睡眠Ⅱ	睡眠時間と就寝法 (講義及び実習)
9	リカバリー	リカバリーとトレーニング (講義及び実習)
10	生体リズム	生体リズムと体内時計 (講義及び実習)
11	栄養	最終目標から逆算した栄養戦略 (講義及び実習)
12	減量	減量のポイント (講義及び実習)
13	増量	増量のポイント (講義及び実習)
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ (講義及び実習)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【参考書】**

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80%  
・レポート課題：20%

1. 原則として出席回数が授業実施回数の2/3 (10回出席) 以上にならない場合はE評価となります。
2. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4. 急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

**【学生の意見等からの気づき】**

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. トレーニングの継続が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修をおすすめします。

**【学生が準備すべき機器他】**

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

**【その他の重要事項】**

1. 初回授業時に受講者 (30名程度) を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修をおすすめします。このためスポーツ科学Bの履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

**【Learning Objectives】**

- 1.to acquire practical training theory and methods
- 2.to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
- 3.to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
- 4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.

**【Learning activities outside of classroom】**

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

- 1.to practice systematic training.
- 2.to record your meals and sleeping hours.
- 3.to read material on training, nutrition and sleep.

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
- 2.Report assignments : 20%.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントンと卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

## 【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	(教室) 授業概要、目的、安全上の注意事項
2	バドミントン①	道具に慣れる、ラケット操作
3	バドミントン②	基礎動作、フットワーク
4	バドミントン③	ダブルスのルール
5	卓球①	ラケット操作、ダブルスのルール (バドミントンとの違い)
6	卓球②	フォアハンド、バックハンド
7	バドミントン④	フォアハンド、バックハンド (卓球との違い)
8	バドミントン⑤	コースを見つける、コースを狙う
9	近代スポーツとは何か	(教室) 定義、なぜ人はスポーツをするのか、スポーツを科学するとは
10	近代スポーツとルール	(教室) なぜルールは存在するのか、ルールの変遷と発展、期末課題の内容
11	バドミントン⑥	サーブと戦略
12	バドミントン⑦	ダブルスゲーム
13	卓球③	ダブルスの動き方、ダブルスゲーム (バドミントンとの違い)
14	まとめ	(教室) レクリエーションとは何か、その意義と課題

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介いたしますので、復習時間に精読してください。

## 【テキスト (教科書)】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

## 【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度 (50%)、講義授業後に提出する課題 (10%)、期末課題 (40%) の総合評価とします。
2. 出席回数が授業実施回数の2/3 (10回出席) に満たない場合は単位を取得できません。
3. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
  - ・課題の内容を理解したものであるか
  - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
  - ・レポートの体裁をなしたものであるか
  - ・適切な引用がなされているか (盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

## 【その他の重要事項】

教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.

Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(50%), these assigned tasks(10%) and a term-end report(40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

## スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントンと卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

## 【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	(教室) 授業概要、目的、安全上の注意事項
2	バドミントン①	道具に慣れる、ラケット操作
3	バドミントン②	基礎動作、フットワーク
4	バドミントン③	ダブルスのルール・ダブルスゲーム
5	卓球①	ラケット操作 (バドミントンとの違い)
6	卓球②	ダブルスのルール (バドミントンとの違い)
7	卓球③	フォアハンド
8	卓球④	バックハンド
9	近代スポーツとは何か	(教室) 定義、なぜ人はスポーツをするのか
10	近代スポーツとルール	(教室) なぜルールは存在するのか、ルールの変遷と発展
11	スポーツとレクリエーション	(教室) レクリエーションとは何か、その意義と課題、期末課題の内容
12	卓球⑤	ダブルスの動き方
13	卓球⑥	ダブルスゲーム (バドミントンとの違い)
14	まとめ	(教室) スポーツを科学するとは、スポーツをめぐる視座

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

## 【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

## 【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度 (45%)、講義授業後に提出する課題 (15%)、期末課題 (40%) の総合評価とします。
2. 出席回数が授業実施回数の2/3 (10回出席) に満たない場合は単位を取得できません。
3. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
  - ・課題の内容を理解したものであるか
  - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
  - ・レポートの体裁をなしたものであるか
  - ・適切な引用がなされているか (盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

## 【その他の重要事項】

教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

## 【Outline (in English)】

This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.

Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(45%), these assigned tasks(15%) and a term-end report(40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**教養ゼミ I**

2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、現在、わが国で立案・実行されているスポーツ政策およびその背景にある法・計画、組織、財源を学びます。こうしたスポーツ政策全体に対する理解を深めた上で、学生自身が課題を設定できる能力の獲得を目指します。

また、秋学期の教養ゼミⅡ（統計解析等を通じたスポーツ政策提言）では、教養ゼミⅠでの学修を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行う予定です。政策提言を見据えて必要な知識・能力（例、社会調査法の理解・実践など）を身につけていきます。

**【到達目標】**

- (1) 現在わが国で進められているスポーツ政策全体を理解している
- (2) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画、組織、財源を理解している
- (3) 上記理解のもと、スポーツ政策やわが国のスポーツに関わる問題意識・課題を学生自身が設定できる
- (4) 政策提言に必要な社会調査法の基礎を理解し、実践できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

原則、対面で授業を実施します。感染症罹患等による欠席に関しては、証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます。それ以外の欠席事由に関しては、配慮対象として認めません。また、仮登録期間に授業が行われる場合でも、その出席と課題提出状況は成績に加味しますので、初回から出席することを推奨します。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※授業回によって入れ替わることがあります。

(1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループによる成果物の発表など

(2) 講義

(3) 個人またはグループでのワーク

各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて共有し、次のワークに向けた解説・アドバイスを行います。

各回に設定されているワークの時間は、教員が具体的な作業を指示する場合がありますが、授業回が進むにつれて学生自身で自由に設定して使えるようにします。ワークの時間を、①予習を通じて調べた内容の報告やディスカッションに使うのか、②情報検索等の「作業」の時間に充てるのかは個人またはグループの自由とします。ただし、ワークの時間では②（個々人で行える作業の時間）をなるべく少なくして、①のような建設的な時間に充てた方が無駄がないと思われれます。よって、学生は原則として予習をしっかり行った上で授業に臨むようにしてください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびスポーツ政策に関わる法・計画	①ガイダンス ②講義（スポーツに関わる法・計画） ③ワーク（扱うテーマに関するアンケート）
第2回	スポーツ政策に関わる財源	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツに関わる財源） ③ワーク（扱うテーマの決定）
第3回	スポーツ政策に関わる組織	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツ政策に関わる組織） ③ワーク（扱うテーマに関連したスポーツ政策の歴史、組織、財源等のまとめ）
第4回	子どものスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（子どものスポーツ政策） ③ワーク（自由ワーク）
第5回	成人のスポーツ政策・健康政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（成人のスポーツ政策・健康政策） ③ワーク（自由ワーク）
第6回	エリートスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（エリートスポーツ政策） ③ワーク（自由ワーク）
第7回	スポーツを通じた地域・経済活性化	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツを通じた地域・経済活性化） ③ワーク（これまでのワークのまとめ、発表資料の作成）
第8回	定量調査を体験しよう(1)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（社会調査の概要、定量・定性調査のプロセス、定量データの準備） ③ワーク（データ入力とクリーニング、加工）
第9回	定量調査を体験しよう(2)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（推定と検定、仮説検定の流れ、統計解析の種類） ③ワーク（基礎的な統計解析を体験する）
第10回	定量調査を体験しよう(3)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（解析結果の解釈と記述方法） ③ワーク（仮説に基づく統計解析、結果の書き方）
第11回	定性調査を体験しよう(1)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（定性調査・インタビューの種類、インタビューのコツ） ③ワーク（質問項目の検討、インタビューの実践、文字起こし）
第12回	定性調査を体験しよう(2)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（分析プロセス、コーディング方法） ③ワーク（コーディング）
第13回	定性調査を体験しよう(3)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（概念の作成とストーリー化） ③ワーク（概念の作成、ストーリー化）
第14回	発表	①過去のワークをまとめた「スポーツ政策に関する現状と課題」の発表・質疑 ②フィードバックと総評

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の予習・復習に必要な時間はおよそ合計4時間です。

**【予習】**

(1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく

- (2) 個人またはグループワークを通じて設定された作業（次回授業に向けた情報収集）を進めておく  
 (3) 他の学生やグループのワーク内容を確認し、疑問点等を挙げておく

#### 【復習】

- (1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておく（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、そのニュースに対する疑問・自身の考えを持つように意識してください。

#### 【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

#### 【参考書】

菊幸一, 齋藤健司, 真山達志, & 横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3850 円(税込). ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団(編). (2023). スポーツ白書 2023～次世代のスポーツ政策～. 日経印刷, 4180 円(税込). ISBN : 978-4915944857

真山達志, 成瀬和弥(著・編集), 日本体育・スポーツ政策学会(監修). (2021). 公共政策の中のスポーツ. 晃洋書房. 2200 円(税込). ISBN : 978-4771035010

#### 【成績評価の方法と基準】

- (1) 各回のワーク…70%

各回のワーク（個人・グループ）を通じた成果物について、毎回100点満点で採点します。

- (2) 各回のワークを取りまとめた成果発表…30%

第14回にて行われる発表について、100点満点で採点します。

(1)の合計点を70%、(2)を30%の比率に直し、その合計点で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業全体の進め方として、進行のスピード、課題の量や難易度はちょうど良かったとの意見を頂きました。

また、授業内容に関しては、前半のスポーツ政策に関する講義は関心のある学生にとって興味深い内容であり、他方で後半の社会調査法やアカデミックライティングに関する内容は、大学での学びや就職後にも役に立つとの評価を頂きました。

ただし、昨年度は受講者数の関係から、他者とのディスカッションや意見を聞く機会が少なく残念だったとの意見もありました。

以上より、原則として授業の進め方や内容を継続しつつ、今年度は可能な限り学生同士の意見交換の場を設けたいと考えています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）。

また、社会調査の一部プロセスを体験するため、二次分析や模擬インタビューを行います。二次分析の際はマウスがあると操作しやすのですが、必須ではありません。模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC等の利用可）。準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

#### 【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策に関して学ぶこと」「学生同士で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

#### 【Outline (in English)】

##### ■ Course outline

This course introduces the sports policies that are currently made and implemented in Japan, as well as the laws, plans, organizations, and finances behind these policies. The aim of this course is to deepen students' understanding of sports policy as a whole and to help them acquire the ability to set issue themselves. The course also enhances the development of students' knowledge and abilities required for policy proposal (e.g., understanding and practice of social research methods, etc.).

##### ■ Learning Objectives

(1) At the end of the course, students are expected to understand the overall sports policies currently being implemented in Japan.

(2) Students are also expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.

(3) Based on the above understanding, students are expected to set problems and issues by themselves related to sport and the policies in Japan.

##### ■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sports.

##### ■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Mid-term presentation: 30%

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、原則として教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）の単位取得者のみが履修することができます。

教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）を通じて理解したわが国のスポーツ政策の全体像、および学生自身の興味関心に応じたテーマに関する現状と課題を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行います。政策提言を通じ、社会的に重要かつエビデンスに基づく政策立案・実行の重要性を理解するとともに、論理的思考力の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) わが国のスポーツ政策の全体像および特定テーマのスポーツ政策に関する現状と課題を理解した上で、社会的重要度の高い問題意識・課題を設定することができる
- (2) 上記の課題解決に向けた仮説を設定し、仮説検証に向けた社会調査とその解析を学生自身でデザインできる
- (3) 上記のプロセスを通じて明らかとなった結果・考察を踏まえ、スポーツ政策やスポーツに関連する課題の解決に向けて提言できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を実施します。感染症罹患等による欠席に関しては、証拠書類を提出の上で配慮対象として認めます。それ以外の欠席事由に関しては、配慮対象として認めません。また、仮登録期間に授業が行われる場合でも、その出席と課題提出状況は成績に加味しますので、初回から出席することを推奨します。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※授業回によって入れ替わることがあります。

(1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループによる成果物の発表など

(2) 講義

(3) 個人またはグループでのワーク

各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて共有し、次のワークに向けた解説・アドバイスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識・課題・仮説の設定(1)	①ガイダンス ②講義（政策提言とは、問題と課題の違い、先行研究の調べ方とまとめ方） ③ワーク（課題挙げと先行研究調べ）

第2回	問題意識・課題・仮説の設定(2)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（課題選定のポイント、リサーチエスチョンとは） ③ワーク（課題の選定、リサーチエスチョン挙げ）
第3回	問題意識・課題・仮説の設定(3)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説とは、仮説の立て方やコツ） ③ワーク（リサーチエスチョンに基づく仮説挙げ）
第4回	調査(1)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（フィールド探しや二次データ検索の方法） ③ワーク（調査方法・対象の決定、調査フィールド・二次データの検索） ※以降の調査・分析(1)-(4)の内容は、個々の進捗により前後する可能性あり
第5回	調査(2)	①前回の講義・ワークの解説（調査実施に向けた事前チェックとフィードバック） ②講義（調査依頼、本番に向けた準備） ③ワーク（調査実施に向けた準備）
第6回	調査(3)	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査実施やデータ整理など）
第7回	調査(4)	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査実施やデータ整理など）
第8回	結果の作成(1)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果と考察の違い、結果の書き方） ③ワーク（データの分析）
第9回	結果の作成(2)	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（図表作成による分析結果の確定）
第10回	考察・提言(1)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（考察の書き方） ③ワーク（考察の執筆）
第11回	考察・提言(2)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（提言作成のポイント） ③ワーク（結果と考察を踏まえた提言の作成）
第12回	考察・提言(3)	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（政策提言の評価基準、わかりやすい資料作成のコツ） ③ワーク（これまでのワークのまとめ、発表資料作成）
第13回	発表	①ルール説明 ②政策提言の発表・質疑・評価
第14回	総評・まとめ	①政策提言の発表・質疑・評価（続き） ②フィードバックと総評 ③学生間における政策提言を通じた学びの共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ合計4時間です。

【予習】

- (1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく
- (2) 個人またはグループワークを通じて設定された作業（次回授業に向けた情報収集）を進めておく
- (3) 他の学生やグループのワーク内容を確認し、疑問点等を挙げておく

【復習】

- (1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておく（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、そのニュースに対する疑問・自身の考えを持つように意識してください。

#### 【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

#### 【参考書】

菊幸一、齋藤健司、真山達志、横山勝彦。(2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3850円(税込). ISBN：978-4792380670

笹川スポーツ財団(編).(2023). スポーツ白書 2023～次世代のスポーツ政策～. 日経印刷, 4180円(税込). ISBN：978-4915944857

真山達志、成瀬和弥(著・編集), 日本体育・スポーツ政策学会(監修).(2021). 公共政策の中のスポーツ. 晃洋書房. 2200円(税込). ISBN：978-4771035010

#### 【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した3項目について、以下の基準をもとに評価します。

##### (1) 各回のワーク…70%

各回のワーク（個人・グループ）を通じた成果物について、毎回100点満点で採点します。

##### (2) 各回のワークを取りまとめた成果発表…30%

第13回にて行われる発表について、100点満点で採点します。

(1)の合計点を70%、(2)を30%の比率に直し、その合計点で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業全体の進め方として、進行スピードはちょうど良く、各授業回や最終回の課題の量は少なく、難易度も低いとの意見を頂きました。授業内容に関しては、全体的には興味深い内容であったとの評価を頂きましたが、学生自身の興味関心に近いトピックや、政策を作られる現場の実際についてもっと話を聞きたいとの意見がありました。以上より、今年度は授業の進行スピードを維持しつつ、課題の量や難易度は学生の様子を逐一確認しながら調整する予定です。また、学生の興味に応じたトピックを、講義内容に積極的に取り込んでいきたいと考えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）。

政策提言に向けた調査・分析の過程で、準備が必要な物が出てきた場合は授業前にアナウンスします。

#### 【Outline (in English)】

##### ■ Course outline

Based on the overall sport policies in Japan, the current situation and issues related to themes of your interest, students will engage in sport policy proposals. Through policy proposals, the course helps students understand the importance of socially needed and evidence-based policy making and implementation, as well as acquire the ability of logical thinking.

##### ■ Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To be able to set up socially important problems and issues based on an understanding of the overall sport policy in Japan and the current status and issues related to sport policy on specific themes.

(2) To be able to formulate hypotheses for solving the above issues, and to design social research and their analyses by yourself in order to test the hypotheses.

(3) Based on the results and discussions revealed through the above process, be able to make proposals for the solution of sport policy and related issues.

##### ■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc.

In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sport.

#### ■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Term-end presentation: 30%



HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学A** 2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

**【到達目標】**

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う(講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える(講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う(講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う(講義と実習)。

8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う(講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コアディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたくて授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

**【参考書】**

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

**【その他の重要事項】**

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】** Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**スポーツ科学B**

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位  
20～30

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割についての理解を深める。  
生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

**【到達目標】**

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目 授 業	ガイダンス	授業概要についての説明
2 回目 授 業	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3 回目 授 業	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスボール ・大縄跳び
4 回目 授 業	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5 回目 授 業	ネット種目(ニューススポーツ) ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践

6 回目 授 業	ネットラケット種目	・バドミントン・シングルス/ダブルス理論と実践
7 回目 授 業	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8 回目 授 業	有酸素運動 ・ウォーキング	・有酸素運動の理論と実践
9 回目 授 業	ニューススポーツ(室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10 回目 授 業	ネット種目 ・バレーボール(変則ルール)	・バレーボール理論と実践
11 回目 授 業	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
12 回目 授 業	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13 回目 授 業	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14 回目 授 業	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

**【参考書】**

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。

なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン、オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること

**【その他の重要事項】**

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.

(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】  
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

**教養ゼミ I**

2017年度以降入学者

**林 容市**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では「生理学的変化 (特に体脂肪・体組成を対象) に貢献する諸要因の理解」, 「健康関連指標 (特に体脂肪・体組成) の測定と評価」, 「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

**【到達目標】**

- ・身体活動による生理的および心理的效果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成 (体脂肪量・骨格筋) について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する (演習)
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因 (食事) について学ぶ

第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する (プレゼンテーション)
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する (演習)
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する (演習)
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ (演習)
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実践および自覚的運動強度について学ぶ (演習)
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成 (骨格筋の増減など) に向けた身体活動案を提案する (プレゼンテーション)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

**【参考書】**

健康運動の支援と実践 (田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006)

**【成績評価の方法と基準】**

1) 授業参画の状況と理解度 (授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価) : 80%, 2) 各回のプレゼンテーションの内容 : 20%, の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

**【学生の意見等からの気づき】**

2023年度も履修者が少なく、当初計画していた種々の演習の実施が困難な状況でした。測定等は時間をかけて実施できた一方、履修学生の皆さんには、予定していた学習の機会を十分に提供できませんでした。次年度の授業も、履修者次第とはなりますが、自らの身体に関する様々な指標を厳密に測定・評価し、自らの身体や健康に関連する情報を適切に取捨選択できる能力を身につけてもらえるよう授業を展開できるよう、改めて進め方を検討したいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

**【その他の重要事項】**

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等であっても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

**【Learning activities outside of the classroom】** Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

**【Grading Criteria/Policy】** Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康やQoLの本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また、文章の執筆、図表の作成、量的・質的分析について発展的な手法を学び、最終的に授業内で調べた内容についてレポートとしてまとめます。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスをレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な取りまとめと考察等から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	様々な対象における健康の考え方1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第3回	様々な対象における健康の考え方2	瘦身志向の要因と過度な瘦身による生理的状态を学ぶ
第4回	様々な対象における健康の考え方3	健康行動 (運動実践・食事改善) を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する (演習)
第5回	健康づくりに関する探求テーマの検討	探求するテーマを検討し、個人またはグループ単位でその詳細を検討する (演習)
第6回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法1	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第7回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法2	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「測定」する手法を学ぶ

第8回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法3	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を量的に「分析・評価」する手法を学ぶ
第9回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法4	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法を学ぶ
第10回	探求テーマに対する情報の集約と論議1	探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する (演習)
第11回	探求テーマに対する情報の集約と論議2	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する (演習)
第12回	探求テーマに対する情報の集約と論議3	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、一定の結論を導くために論議する (演習)
第13回	探求テーマに関する情報の集約1	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、レポートを作成する。
第14回	探求テーマに関する情報の集約2	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、結果を報告する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第11～13回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので、これらの回では求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践 (田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006)

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。  
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高得点」(課題数×100)】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2023年度は履修者が非常に少なく、予定していた演習の活動、履修者間でのディスカッションの実施が困難な状況でした。そのため、シラバスとは内容を変更して授業を行いました。受講生の皆さんが最終的にしっかりと論文を完成させてくれたことは素晴らしいと思いました。次年度は今年度からまた内容を少し変更する予定ですが、受講生の皆さんの様々な能力の発達に寄与できるような授業をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員が同じ教養ゼミⅡの単位を取得していることを履修の条件とします。ただし、第1回目の授業において、履修希望者が定員 (20名) を下回っている場合には、担当教員との面談により教養ゼミⅡの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to:

1. Construct the content of physical activity appropriately according to the purpose.
2. Provide advice on physical activity practices tailored to the target population.
3. Report evidence on physical activity using appropriate analytical methods and expressions.

**【Learning activities outside of the classroom】** Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

**【Grading Criteria/Policy】** The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100



LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

第三外国語としてのフランス語A 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3  
 単位数：2単位  
 定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験 (仏検) 4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも (フランス共和国を含めた) 現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字11～20

7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進捗の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ! (改訂二版)』、駿河台出版社、2023年。

(\*自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (ミニ課題など) : 30%

②期末テスト : 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会 (特に発音と筆記) を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:  
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

**第三外国語としてのフランス語B** 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3  
 単位数：2単位  
 定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

**【到達目標】**

実用フランス語技能検定試験(仏検)4級~5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも(フランス共和国を含めた)現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心に、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6つづき Leçon 7	たずねる(いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR動詞(つづき) ・形容詞
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字 21~69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現(つづき)

7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う(1) ・数字 70~100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う(1) ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う(2)、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う(2)、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞 y と le ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！(改訂二版)』、駿河台出版社、2023年。

(\*自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

**【参考書】**

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持って欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点(ミニ課題など)：30%

②期末テスト：70%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生がフランス語で表現する機会(特に発音・筆記)を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses  
 単位数：2単位  
 定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

## 【履修登録にかかわる特記事項】

●この科目「教養ゼミ I 夏季1週間講座 (8月上旬)：人物と映像からみる『ポピュリズム』」(Q6605)の履修を希望する場合は、2024年4月11日(木)21:00:00までに学習支援システム-Hoppiiにて仮登録を行ってください。

●選抜結果は、4月12日(金)午前10:00:00に学習支援システム-Hoppii>「お知らせ」欄で発表し、同時に法政Gメールでも通知します。あなたが所属する学部の履修登録期間にあなた自身が履修登録を行ってください。

この教養ゼミ I 「夏季1週間講座 (8月上旬)：人物と映像からみる『ポピュリズム』」は2024年8月2日(金)・8月3日(土)・8月5日(月)・8月6日(火)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしているポピュリズムがテーマですが、こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。また集中講座であるため、短い日数で効率よく学べるのも利点です。映像や動画に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけにもなるでしょう。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください  
<https://youtube.com/shorts/w5SZrNtcmek?feature=shared>

## 【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 21世紀の私たちの社会にどのような政治文化がふさわしいかという考え(シティズンシップ)を身につけるための第一歩を踏み出している。
- ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なりますが、こうした異なる意味合いに関して基本的な洞察を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- (ア) この教養ゼミ I の授業形態は、基本的に「対面」です。  
 (イ) 2024年8月2日(金)・8月3日(土)・8月5日(月)・8月6日(火)の4日間に開催されます。  
 (ウ) 希望者はZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。  
 (エ) 日程上、補講や、追加の課題を出すといった、欠席者への配慮のための時間を、8月6日以降にとることができません。  
 (オ) そのため、課題の早期提出を認める予定です。  
 (カ) 成績評価については下記【成績評価の方法と基準】を見てください。  
 (キ) 課題の内容や、早期提出できる時期など詳細については、学習支援システム-Hoppii等をつうじて、ご連絡します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月2日(金)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月2日(金)3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【8月2日(金)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月2日(金)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月2日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
5	他の人の意見を知る【8月3日(土)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票/人びとはどのようにして立ち上がるのか(政治的動員)
6	対立の構図を理解する【8月3日(土)3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【8月3日(土)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
8	他の人の意見を知る【8月5日(月)2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票/女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す
9	ポピュリズムと女性【8月5日(月)3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【8月5日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【8月5日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
12	他の人の意見を知る【8月6日(火)2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票/ポピュリズムに私(たち)はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【8月6日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【8月6日(火)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミ I に参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

## 【テキスト(教科書)】

8月のサマー・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、4月から資料を事前に配布します。

## 【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。  
 カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 「まとめコメント」の量と質 = 70%

内訳は、8月2日（金）分=20点、8月3日（土）分=15点、8月5日（月）分=20点、8月6日（火）分=15点。これら4回分の「まとめコメント」は学習支援システム-Hoppiiから早期提出できる対象となります。

2. 授業内活動への参加 = 30%

内訳は、クエスチョンを探そう（各10点）×3回分。授業当日に教室にいる人のみが参加できます（早期提出不可）。

3. その他

上記1. と2. の合計100%の枠外で、授業への各種貢献に対し5～20%の加点をします。教員側の各種機器の設定ミスや誤字脱字の指摘などを最初にくれた学生1名に加点しています。

### 【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。  
・この教養ゼミIは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

### 【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。  
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。  
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/1JglNRIZdjh-3xQcbVx4AMLscgVEAVxyZunOUoVIUFcQ/edit?usp=sharing>

### 【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

### 【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

### 【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

### 【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：  
集中・その他/intensive・other courses  
単位数：2単位  
定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

## 【履修登録にかかわる特記事項】

●この科目「教養ゼミⅡ 夏季1週間講座 (9月中旬)：人物と映像からみる『移民社会』(Q6606)の履修を希望する場合は、2024年4月11日(木)21:00:00までに学習支援システム-Hoppiiにて仮登録を行ってください。

●選抜結果は、4月12日(金)午前10:00:00に学習支援システム-Hoppii>「お知らせ」欄で発表し、同時に法政Gメールでも通知します。なお、この科目「教養ゼミⅡ 夏季1週間講座 (9月中旬)：人物と映像からみる『移民社会』」の履修登録は大学側で行います。あなたが所属する学部履修登録期間に履修登録が完了しているか、確認を行ってください。

この教養ゼミⅡ「夏季1週間講座 (9月中旬)：人物と映像からみる『移民社会』」は2024年9月13日(金)・9月14日(土)・9月16日(月)・9月17日(火)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている移民や難民の動きがテーマですが、こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。また集中講座であるため、短い日数で効率よく学べるのも利点です。映像や動画に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけにもなるでしょう。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください  
<https://youtube.com/shorts/-N7dPRfaRRE?feature=shared>

## 【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 1) 人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方(政教分離)や、就労を促進するための雇用の流動化(福祉国家の変容)といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

- (ア) この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。  
(イ) 2024年9月13日(金)・9月14日(土)・9月16日(月)・9月17日(火)の4日間に開催されます。  
(ウ) 希望者はZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。  
(エ) 日程上、補講や、追加の課題を出すといった、欠席者への配慮のための時間を、9月19日までの間にとることができません。  
(オ) そのため、課題の早期提出を認める予定です。  
(カ) 成績評価については下記【成績評価の方法と基準】をご覧ください。  
(キ) 課題の内容や、早期提出できる時期など詳細については、学習支援システム-Hoppii等をつうじて、ご連絡します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月13日(金)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月13日(金)3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【9月13日(金)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月13日(金)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月13日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
5	他の人の意見を知る【9月14日(土)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	／グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【9月14日(土)3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【9月14日(土)4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【9月14日(土)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
9	他の人の意見を知る【9月16日(月)2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票/映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【9月16日(月)3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【9月16日(月)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月16日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
12	他の人の意見を知る【9月17日(火)2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票/《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【9月17日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
14	考える・まとめる【9月17日(月)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月17日分の「まとめコメント」を作成・提出する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

### 【テキスト（教科書）】

9月のオータム・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、4月から資料を事前に配布します。

### 【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

### 【成績評価の方法と基準】

1. 「まとめコメント」の量と質 = 70%

内訳は、9月13日（金）分=20点、9月14日（土）分=20点、9月16日（月）分=15点、9月17日（火）分=15点。これら4回分の「まとめコメント」は学習支援システム-Hoppiiから早期提出できる対象となります。

2. 授業内活動への参加 = 30%

内訳は、クエスチョンを探そうor深めよう（各10点）×3回分。授業当日に教室にいる人のみが参加できます（早期提出不可）。

3. その他

上記1. と2. の合計100%の枠外で、授業への各種貢献に対し5～20%の加点をします。教員側の各種機器の設定ミスや誤字脱字の指摘などを最初にくれた学生1名に加点しています。

### 【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。  
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

### 【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。  
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。  
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】<https://docs.google.com/document/d/1i39NoO-bvtZI2bgXH21sEDtanXs42mNkVkrROqg25o/edit?usp=sharing>

### 【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

### 【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.

2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.

3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.

4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%

2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

ルルー 清野 ブレندان

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本(文化)はどう伝わったのか?」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語(と英語や他の言語)で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

## 【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本(文化)はどう伝わったのか?」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本(1)	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本(2)	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語、ポルトガル語、日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

## 【テキスト(教科書)】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等(授業内):25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅):20%
- ・発表(史料の紹介と説明):35%
- ・出席点:20%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等は特にありませんでした。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使用しますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

## 【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景(言語レベル等)、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

## 【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.



The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ルルー 清野 ブレندان

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金4/Fri.4

単位数: 2単位

定員制

その他属性: 〈他〉〈優〉〈ダ〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではヨーロッパの近現代史をただ単に通史的に勉強するのではなく、「〇〇人とは何(誰)か?」、「国民はどう創られたのか?」というような問いについて考えながら、近現代ヨーロッパにおけるアイデンティティの問題を探っていきます。特に、近現代ヨーロッパにおける国民国家と言語(「国語」との関係性に重点を置きたいと考えます。

## 【到達目標】

この授業では、学生達は近現代ヨーロッパにおける国民の創造に関する多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

- ①ヨーロッパについて基本的知識を獲得し、それらを説明できる。
- ②国民国家の概念を概ね理解できる。
- ③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
- (④ヨーロッパへの留学に備える。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な資料(歴史的文章、論文、新聞記事、図…)を読解し、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し、質問に答えることで、近現代ヨーロッパにおける国民(アイデンティティ)の創造というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や資料、特に近現代ヨーロッパにおける国民(アイデンティティ)の創造に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 ヨーロッパとは何か? どこか? (受講生に対するアンケート)
2	ヨーロッパとは何か?	ヨーロッパに対するイメージとステレオタイプ
3	ケーススタディ①	カタルーニヤ「問題」について
4	ケーススタディ②	カタルーニヤの形成過程

5	ケーススタディ①	カタルーニヤとスペインにおける言語
6	ケーススタディ①	カタルーニヤと「国民国家」/「国民国家」と「想像の共同体」
7	ケーススタディ②	18世紀「ドイツ」の状況/ヘルダーと「国民語」
8	「国民語」を求めて	ヨーロッパにおける言語状況
9	「国民一つに、言語一つ?」①	フランス語の成立過程①
10	「国民一つに、言語一つ?」②	フランス語の成立過程②
11	国語の普及①	フランス
12	国語の普及②	イギリス
13	国語の普及③	ドイツ
14	共通の祖先を求めて	「我々の祖先はガリア人なり」

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。

大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

## 【テキスト(教科書)】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

## 【参考書】

ティエス、アンヌ＝マリ著『国民アイデンティティの創造: 十八～十九世紀のヨーロッパ』(勁草書房, 2013) / 配架場所=市:1F, 請求記号=230/TH, 資料番号=21032000079280

それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・発表やリフレクションシート、小テスト(クイズ等): 約70%
- ・出席点: 約30%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

## 【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業内容なので、該当しない。)

## 【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

## 【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景(言語レベル等)、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

## 【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How national identities were forged in Europe".

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written in different languages.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "creation of the national identities in Europe".

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

The grading criteria shall be as follows:

- ・Presentations, reflection papers, short tests, etc: app.70%
- ・Attendance: app. 30%

LANF300LA (フランス語 / French language education 300)

**フランス語コミュニケーション(中・上級) A** 2017年度以降入学者

ルルー 清野 ブレندان

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水1/Wed.1

単位数: 2単位

定員制 (20)

その他属性: 〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業はA1レベルに達している学生 (つまり2, 3セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は, 日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に, 自然な発音及び独特な表現を勉強し, フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も, 勿論多く設けてあります。尚, この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者者の段階から, 特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は, 最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

**【到達目標】**

この授業では, 日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり, 正確なフランス語の発音を身に付けたり, 日常会話で使える言葉を覚えたりして, 積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて, A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準2級・2級) やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち, 以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

**【授業の進め方と方法】**

ODYSSÉE A2は, ライティングと文法の体系的な復習を含め, オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また, 付属の課題や練習問題等により, 授業外の自習も可能となっています。尚, 内容は非常にバラエティに富んでおり, 世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。この授業では, 作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので, そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが, Hoppiiを通じて行う場合もあります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 1 L1 Faire connaissance	感嘆文 誉める表現
2	Unité 1 L2 Mes meilleurs amis	否定形 友情/祭日
3	Unité 1 L3 Sorties entre amis	現在進行形 遊園地/コンサート
4	Unité 1 L4 Une situation imprévue	キャンセルする 予想外の状態に反応する
5	Unité 1 Bilan / Projet	まとめ フェスティバルへの招待

6	Unité 2 L1 1,2,3; prêts?	代名動詞 日常生活
7	Unité 2 L2 Partez!	複合過去 交通手段
8	Unité 2 L3 D'autres quotidiens	頻度 時間割と好み
9	Unité 2 L4 Respectez les règles	駐車 交通手段を使用する
10	Unité 2 Bilan / Projet	まとめ 好きな地域の紹介
11	Unité 3 L1 Que s'est-il passé?	半過去と複合過去 ありきたりの出来事
12	Unité 3 L2 Tout change avec le temps	時間のつながりの表現 過去の出来事を語る
13	Unité 3 L3 C'est leur histoire	直接目的語の代名詞 職業, キャリア
14	Unité 3 L4 C'était terrible!	健康と身体の部位 助けを求める

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

言語というものは, 他の科目と違い, 教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので, 欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し, 自分で口にし, はじめて身に付くものなので, 毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また, 予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

より安価なデジタル版も使用可能 :

ISBN : 978-2-09-034867-5

**【参考書】**

仏和・和仏辞書 (本でも, 電子辞書でも, アプリでも) を持参することが望ましい。

**【成績評価の方法と基準】**

・宿題, (小) テスト, ミニ発表等: 約40 %

・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %

・作文: 約20 %

・出席点: 約20%。尚, 出席点に関しては減点方式をとり, 4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり, 遅延証明は2回まで認めます。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の意見等は特にありませんでした。

**【その他の重要事項】**

授業中, 頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので, そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

**【Prerequisite】**

履修の条件として, フランス語A1レベルが必須。

**【Outline (in English)】**

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Attendance: app.20%。

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語コミュニケーション(中  
・上級) B 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 ブレندان

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水1/Wed.1

単位数: 2単位

定員制 (20)

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業はA1レベルに達している学生 (つまり2, 3セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

## 【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準2級・2級) やStudy Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Révisions: Unité 3 Bilan / Projet	オリエンテーション 復習: Unité 3まとめ/歴史クイズを作ろう
2	Unité 4 L1 Quel caractère!	性格について話す
3	Unité 4 L2 Qui suis-je?	身体の描写
4	Unité 4 L3 C'est ma vie!	伝記を作る
5	Unité 4 L4 Réussir un entretien	面接での自己紹介

6	Unité 1 Bilan / Projet	まとめ 流行りの歌手を調べよう
7	Unité 5 L1 Tendance wax	服装とアクセサリー
8	Unité 5 L2 Des vêtements bien chauds	素材, 服装とアクセサリー
9	Unité 5 L3 Tout s'achète en un clic!	服装とアクセサリー 感情について
10	Unité 5 L4 Dépenser sans compter?	買い物をする
11	Unités 4 et 5 Bilan / Projet	まとめ 服装に関するビデオを作ろう
12	Unité 6 L1 Des projets?	招待する, 承諾する, 拒否する
13	Unité 6 L2 On ira voir le match?	単純未来 スポーツと家族
14	Unité 6 L3 On part en week-end!	週末の計画を立てる

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

より安価なデジタル版も使用可能: ISBN : 978-2-09-034867-5

## 【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・宿題, (小) テスト, ミニ発表等: 約40 %
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
- ・作文: 約20 %

・出席点: 約20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等は特にありませんでした。

## 【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

## 【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

## 【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %
- ・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
- ・Essays: app.20 %

・ Attendance: app.20%。

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

## フランス語講読A

2017年度以降入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

0) 今年度より新しく始まる授業です。2024年4月8日月曜日4時限に教室にて対面で開講します。

1) フランス哲学の文献を講読します。

2) 今年度はシモーヌ・ヴェイユ (1909-1943) の遺稿断章集『重力と恩寵』をフランス語の原文で読みます (教科書用のダイジェスト版を使用します)。愛、不幸、暴力、美などがテーマです。1947年に実存主義作家アルベール・カミュによって出版され、大きな反響を呼びました。

3) ヴェイユは1930年代から40年代にかけて近代社会と戦う闘争的な文筆と活動に向かった女性の哲学者です。極左の政治サークルに属し、労働者の実態を知るために工場で働き、スペイン内戦では共和政側の義勇兵に志願し銃を持って前線に立ちました。1939年に第二次世界大戦が始まりナチスの軍勢がフランスを占領しだすと、ユダヤ系の彼女は逃避を余儀なくされますが、フランス国民との連帯を欲してロンドンの臨時フランス政権 (いわゆるフランス・レジスタンスの本部) の近くに住み、本土に向け女性だけのパラシュート部隊の編成を提言したほどです。しかし当時のフランス国民の厳しい食糧事情に合わせての節食がたまって病に沈み、34歳の若さで客死しました。

4) 今回読むテキストは彼女の最晩年の思索の跡です。あらゆるイデオロギーに絶望した後には到達した思想の境地、すなわち彼女独自のキリスト教神秘思想が断章で綴られています。

5) 「重力」とは人とその世の避けがたい欠点のこと、「恩寵」とはそこに差し込むわずかな希望の光のことです。

6) ヴェイユのフランス語は美しく、かつ難しくはありませんが、じっくり考えるのが好きな人、丁寧にフランス語を勉強したい人に最適な授業です。1年生のときのフランス語の成績がA以上であることが望ましいです。

7) 冒頭の文章を引用しておきます。選択の目安にしてください。

"Tous les mouvements naturels de l'âme sont régis par des lois analogues à celles de la pesanteur matérielle. La grâce seule fait exception."

▶この二つの文章はそれぞれ構文が異なります。能動態か受動態か。主語は何か。cellesはどの単語を受けているのか。自分の実力をチェックしてみてください。

## 【到達目標】

1) 1年生のときに学んだ文法の知識から出発して、フランス語の基本的な文章をしっかりと読めるようにしていきます。

2) イエス・キリストの時代から続くキリスト教神秘思想の歴史を理解します。

3) 哲学的なテーマ (実存、神、悪、偶然性など) について学んで哲学への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

1) 教室での対面授業を基本にします。初回は2024年4月8日月曜日4時限です。

2) 1回にテキストの1~2頁を読みます。しっかり予習してきてください。

3) 全員が訳読を発表します。

4) キリスト教思想および哲学の基本テーマに関して、授業内で調べてきたことを発表します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介。	授業の進め方およびシモーヌ・ヴェイユ、テキストについて紹介します。
第2回	『重力と恩寵』①	教科書2頁 (最初のページ)
第3回	『重力と恩寵』②	教科書3頁
第4回	『重力と恩寵』③	教科書4頁
第5回	『重力と恩寵』④	教科書5頁
第6回	『重力と恩寵』⑤	教科書6頁
第7回	『重力と恩寵』⑥	教科書7頁
第8回	『重力と恩寵』⑦	教科書8頁
第9回	『重力と恩寵』⑧	教科書9-10頁
第10回	『重力と恩寵』⑨	教科書11-12頁

第11回	『重力と恩寵』⑩	教科書13-14頁
第12回	『重力と恩寵』⑪	教科書15-16頁
第13回	『重力と恩寵』⑫	教科書17頁
第14回	期末試験	まとめの総合問題 (筆記試験)。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、下読み、復習等、あわせて2時間以上を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

授業内にコピーにて配布します。

## 【参考書】

- シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』田辺保訳、ちくま学芸文庫、1995年。
- シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』富原真弓訳、岩波文庫、2017年。
- シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』渡辺義愛訳、春秋社、2020年。
- シモーヌ・ヴェイユ『シモーヌ・ヴェイユ アンソロジー』今村純子訳、河出文庫、2018年。
- ミクロス・ヴェトール『シモーヌ・ヴェイユの哲学—その形而上学的転回』今村純子訳、慶應義塾大学出版会、2006年。
- シモーヌ・ペトルマン『評伝シモーヌ・ヴェイユ1および2』杉山毅訳、勁草書房、2002年。
- 酒井健「聖なるコミュニケーション—ヴェイユとバタイユの場合」、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。
- 酒井健『根源からの思索—フランシヨのヴェイユ論』、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。

## 【成績評価の方法と基準】

- 【到達目標】の上記3点を成績評価の基準にします。
- 毎回の授業での訳読 (30%)、授業内での発表 (30%)、期末のテスト (40%) を総合して全体の成績を出します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし (今年度新設科目)。

## 【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書 (紙媒体でも電子媒体でも可。『ディコ (Dico)』(白水社) を推奨)

## 【Outline (in English)】

0) This is a new class starting this year.

1) Read French philosophical literature.

2) This year, we will read Simone Weil's (1909-1943) posthumous manuscript collection "Gravity and Grace" in its original French.

3) Then your study time will be more than two hours for a class.

4) Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (40%) and in-class contribution (60%).

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

## フランス語講読 B

2017年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

0) 今年度より新しく始まる授業です。2024年9月23日月曜日4時限に教室にて対面で開講します。

1) フランス哲学の文献を講読します。

2) 今年度春学期からの継続です。シモーヌ・ヴェイユ (1909-1943) の遺稿断章集『重力と恩寵』をフランス語の原文で読みます (教科書用のダイジェスト版を使用します)。愛、不幸、暴力、美などがテーマです。1947年に実存主義作家アルベール・カミュによって出版され、大きな反響を呼びました。

3) ヴェイユは1930年代から40年代にかけて近代社会と戦う闘争的な文筆と活動に向かった女性の哲学者です。極左の政治サークルに属し、労働者の実態を知るために工場で働き、スペイン内戦では共和政側の義勇兵に志願し銃を持って前線に立ちました。1939年に第二次世界大戦が始まりナチスの軍勢がフランスを占領しだすと、ユダヤ系の彼女は逃避を余儀なくされますが、フランス国民との連帯を欲してロンドンの臨時フランス政権 (いわゆるフランス・レジスタンスの本部) の近くに住み、本土に向け女性だけのパラシュート部隊の編成を提言したほどです。しかし当時のフランス国民の厳しい食糧事情に合わせての節食がたまって病に沈み、34歳の若さで客死しました。

4) 今回読むテキストは彼女の最晩年の思索の跡です。あらゆるイデオロギーに絶望した後には到達した思想の境地、すなわち彼女独自のキリスト教神秘思想が断章で綴られています。

5) 「重力」とは人とその世の避けがたい欠点のこと、「恩寵」とはそこに差し込むわずかな希望の光のことです。

6) ヴェイユのフランス語は美しく、かつ難しくはありませんが、じっくり考えるのが好きな人、丁寧にフランス語を勉強したい人に最適の授業です。1年生のときのフランス語の成績がA以上であることが望ましいです。

7) 冒頭の文章を引用しておきます。選択の目安にしてください。

"Tous les mouvements naturels de l'âme sont régis par des lois analogues à celles de la pesanteur matérielle. La grâce seule fait exception."

▶この二つの文章はそれぞれ構文が異なります。能動態か受動態か。主語は何か。cellesはどの単語を受けているのか。自分の実力をチェックしてみてください。

### 【到達目標】

1) 1年生のときに学んだ文法の知識から出発して、フランス語の基本的な文章をしっかりと読めるようにしていきます。

2) イエス・キリストの時代から続くキリスト教神秘思想の歴史を理解します。

3) 哲学的なテーマ (実存、神、悪、偶然性など) について学んで哲学への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

1) 教室での対面授業を基本にします。初回は2024年4月8日月曜日4時限です。

2) 1回にテキストの1~2頁を読みます。しっかり予習してきてください。

3) 全員が訳読を発表します。

4) キリスト教思想および哲学の基本テーマに関して、授業内で調べてきたことを発表します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介。	授業の進め方およびシモーヌ・ヴェイユ、テキストについて紹介します。
第2回	『重力と恩寵』①	教科書18頁
第3回	『重力と恩寵』②	教科書19頁
第4回	『重力と恩寵』③	教科書20頁
第5回	『重力と恩寵』④	教科書21-22頁
第6回	『重力と恩寵』⑤	教科書23-24頁
第7回	『重力と恩寵』⑥	教科書25-26頁
第8回	『重力と恩寵』⑦	教科書27-28頁
第9回	『重力と恩寵』⑧	教科書29-30頁
第10回	『重力と恩寵』⑨	教科書31-32頁

第11回	『重力と恩寵』⑩	教科書33-34頁
第12回	『重力と恩寵』⑪	教科書35-36頁
第13回	『重力と恩寵』⑫	教科書36-37頁
第14回	期末試験	まとめの総合問題 (筆記試験)。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、下読み、復習等、あわせて2時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業内にコピーにて配布します。

### 【参考書】

- シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』田辺保訳、ちくま学芸文庫、1995年。
- シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』富原真弓訳、岩波文庫、2017年。
- シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』渡辺義愛訳、春秋社、2020年。
- シモーヌ・ヴェイユ『シモーヌ・ヴェイユ アンソロジー』今村純子訳、河出文庫、2018年。
- ミクロス・ヴェトー『シモーヌ・ヴェイユの哲学—その形而上学的転回』今村純子訳、慶應義塾大学出版会、2006年。
- シモーヌ・ペトルマン『評伝シモーヌ・ヴェイユ1および2』杉山毅訳、勁草書房、2002年。
- 酒井健「聖なるコミュニケーション—ヴェイユとバタイユの場合」、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。
- 酒井健「根源からの思索—フランシヨのヴェイユ論」、酒井健『バタイユ 聖性の探求者』人文書院、2001年。

### 【成績評価の方法と基準】

- 【到達目標】の上記3点を成績評価の基準にします。
- 毎回の授業での訳読 (30%)、授業内での発表 (30%)、期末のテスト (40%) を総合して全体の成績を出します。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし (今年度新設科目)。

### 【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書 (紙媒体でも電子媒体でも可)、『ディコ (Dico)』(白水社) を推奨

### 【Outline (in English)】

0) This is a new class starting this year.

1) Read French philosophical literature.

2) This year, we will read Simone Weil's (1909-1943) posthumous manuscript collection "Gravity and Grace" in its original French.

3) Then your study time will be more than two hours for a class.

4) Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (40%) and in-class contribution (60%).

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**第三外国語としてのロシア語 A** 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学ぶ。

ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにする。

**【到達目標】**

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語会話ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業では、主に以下の4点のポイントに分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

その他、学習支援システム上に課題や、授業時間内に小テストを行います。これらは平常点に入ります。答案用紙は授業内に返却し、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形 (人称変化)
第5回	「これは(誰々)の(何々)です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「(何々)を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形 (性・数変化)
第7回	動詞の未来形、「(どこどこ)で」	動詞の未来形 (人称変化)、名詞の前置格
第8回	「(どこどこ)へ行く」	移動の動詞 (定動詞/不定動詞)
第9回	「(何々)の」、 「(何々)を持っている/持っていない」	名詞の生格
第10回	「(何々)に・へ」、 「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、 無人称文
第11回	「(何々)で・によって」、 「～(何々)に取り組む」	名詞の造格、с я動詞、人称代 名詞・疑問詞の格変化

第12回 「している/しおえ 動詞の体 (完了体/完了体)る」

第13回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第14回 期末試験、まとめと 文法問題解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

**【テキスト (教科書)】**

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート (改訂版)』白水社、2005年、2,300円+税

**【参考書】**

佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版、2001年  
土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータムのロシア語《CD付》』白水社、2019年  
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ! シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (課題、小テスト) 40%、期末試験60%。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です (例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々)。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

**【学生の意見等からの気づき】**

担当教員が変わるため次年度以降に表記されます。

**【その他の重要事項】**

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

**【Outline (in English)】**

Elementary Russian Course for students who are starting to learn Russian as a third foreign language for the first time.

The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.



LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**第三外国語としてのロシア語B** 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学ぶ。

ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。「読む、書く、話す」学習を重ね、簡単な会話ができるようにする。

**【到達目標】**

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語会話ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業では、主に以下の4点のポイントに分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の不完了体と完了体。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

その他、学習支援システム上に課題や、授業時間内に小テストを行います。これらは平常点に入ります。答案用紙は授業内に返却し、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2、名詞、 形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形 (人称変化)
第5回	「(何々)を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「(どこどこ)へ行く」	移動の動詞 (定動詞/不定動詞)
第8回	「(何々、誰々)の」、 「(何々)を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形 (人称変化)
第10回	「(どこどこ)で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「(誰々)を」	動詞の過去形 (性・数変化)、活動体を表す名詞の対格
第12回	「(何々、誰々)へ」、 「(何々、誰々)と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体 (不完了体/完了体)

**第14回** 期末試験、まとめと 文法問題  
解説**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

**【テキスト (教科書)】**

朝妻恵理子・クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円+税。

**【参考書】**

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年  
土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年  
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (課題、小テスト) 40%、期末試験60%。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です (例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々)。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

**【学生の意見等からの気づき】**

担当教員が変わるため次年度以降に表記されます。

**【その他の重要事項】**

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

※春学期A/秋学期Bは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Aから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させていただきます。

**【Outline (in English)】**

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**第三外国語としてのロシア語中級 A** 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(TPKII)の基本レベル(CERF A2)のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

**【到達目標】**

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	「ロシア語の学習」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	「学校と大学」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	「大学と大学生」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	「留学生たち」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	「寮の住まい」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	「部屋」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	「一日の流れ」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	「週のスケジュール」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	「休暇の過ごし方」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	「好きなこと」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	「図書館に行く」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

**【参考書】**

『初級ロシア語』法政大学

**【成績評価の方法と基準】**

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

**【その他の重要事項】**

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することがあります。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**第三外国語としてのロシア語中級 B** 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

春学期に引き続きロシア語の読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(TPKII)の基本レベル(CERF A2)のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

**【到達目標】**

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳(露和・和露)ができること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

**【参考書】**

『初級ロシア語』法政大学

**【成績評価の方法と基準】**

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

学期末試験の範囲を明確にさせます。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

**【その他の重要事項】**

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することがあります。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

## 実用ロシア語A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月4/Mon.4

単位数: 2単位

定員制 (20)

その他属性: 〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

### 【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

### 【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。 会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、 <b>ч е м - т е м</b> 構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング

12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1~12の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

数回音声データを使った宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】

『大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト』沼野恭子他(著) 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。

期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは [elena.mikami.66@hosei.ac.jp](mailto:elena.mikami.66@hosei.ac.jp) までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**実用ロシア語 B**

2017年度以降入学者

エレーナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

**【到達目標】**

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備ができること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習

12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1~12の復習
14	期末試験	筆記試験と解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

数回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

**【参考書】**

教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。期末テストの範囲を明確にさせます。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

**【その他の重要事項】**

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

## ロシア語講読A

2017年度以降入学者

## 木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

## 【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習 (その1) 能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習 (その2) 受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習 (その3) 副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読 (その1) 回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読 (その2) ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴェ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読 (その3) ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読 (その4) おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読 (その5) 文学、芸術	短文「美 (『カラマーゾフの兄弟』より)」、「映画芸術」
9	テキスト講読 (その6) 文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読 (その7) 歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読 (その8) 文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読 (その9) 文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読 (その10) 文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」

14 期末試験

ロシア語テキストの日本語訳とその解説

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

## 【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (訳文提出など) 40%、期末試験60%。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳 (翻訳) を作成するよう促す。

## 【Outline (in English)】

## Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

## ロシア語講読 B

2017年度以降入学者

## 木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

## 【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読 (その1) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第1節)」
2	テキスト講読 (その2) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第2節)」
3	テキスト講読 (その3) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第3節)」
4	テキスト講読 (その4) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第1節)」
5	テキスト講読 (その5) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第2節)」
6	テキスト講読 (その6) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第3節)」
7	テキスト講読 (その7) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第4節)」
8	テキスト講読 (その8) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第1節)」
9	テキスト講読 (その9) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第2節)」

10	テキスト講読 (その10) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第3節)」
11	テキスト講読 (その11) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第1節)」
12	テキスト講読 (その12) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第2節)」
13	テキスト講読 (その13) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第3節)」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

## 【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (訳文提出など) 40%、期末試験60%。

## 【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳 (翻訳) を作成するよう促す。

## 【Outline (in English)】

Russian reading B.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**時事ロシア語A**

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための練習をする。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

**【到達目標】**

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

本授業は毎回対面形式で行う。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	宗教①	ロシア語の文章講読
7	宗教②	ロシア語の文章講読
8	文化①	ロシア語の文章講読
9	文化②	ロシア語の文章講読
10	ビジネス①	ロシア語の文章講読
11	ビジネス②	ロシア語の文章講読
12	テクノロジー①	ロシア語の文章講読
13	テクノロジー②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

**【参考書】**

特になし。テーマに応じて指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験：50%、授業への参加：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

**【その他の重要事項】**

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

**【Learning Objectives】**

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

**【Learning activities outside of classroom】**

The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.



LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

**時事ロシア語 B**

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

**【到達目標】**

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

本授業は毎回対面形式で行う。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	ロシア語の文章講読
3	社会②	ロシア語の文章講読
4	司法①	ロシア語の文章講読
5	司法②	ロシア語の文章講読
6	経済①	ロシア語の文章講読
7	経済②	ロシア語の文章講読
8	環境①	ロシア語の文章講読
9	環境②	ロシア語の文章講読
10	スポーツ①	ロシア語の文章講読
11	スポーツ②	ロシア語の文章講読
12	ナショナリズム①	ロシア語の文章講読
13	ナショナリズム②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

**【参考書】**

特になし。テーマに応じて指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験：50%、授業への参加：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

**【その他の重要事項】**

各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

**【Outline (in English)】****【Course outline】**

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.

**【Learning Objectives】**

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

**【Learning activities outside of classroom】**

The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

**第三外国語としての中国語A** 2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

**【到達目標】**

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」「発音3」	「発音の基本」ピンインの「発音3」
3	「発音3」「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第7課」「第8課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第9課」「第10課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」「第12課」	「補語」「動詞述語文1」
9	「第13課」「第14課」	「動詞述語文2」「動詞述語文3」
10	「第15課」「第16課」	「動詞述語文4」「動詞述語文5」
11	「第17課」「第18課」	「動詞述語文6」「動詞述語文7」
12	「第19課」「第20課」	「完了態」「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	まとめ	「第1課から第20課」までのまとめと試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

**【テキスト（教科書）】**

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

**【参考書】**

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂  
そのほか教場で適宜示します。

**【成績評価の方法と基準】**

①平常点（授業への参加度）：60%

②期末試験：40%

※e宿題（教科書準拠のイーラーニング教材）は加点対象とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用しますので、各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

**【Outline (in English)】**

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

**第三外国語としての中国語B** 2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

**【到達目標】**

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」「第22課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第23課」「第24課」	「形容詞述語文」
4	「第25課」「第26課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1課
5	「第27課」「第28課」	「名詞述語文」2課
6	「第29課」「第30課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第31課」「第32課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第33課」「第34課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第35課」「第36課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第37課」「第38課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第39課」「第40課」	「把構文」「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	まとめ	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

**【テキスト（教科書）】**

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

**【参考書】**

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂  
そのほか教場で適宜示します。

**【成績評価の方法と基準】**

①平常点（授業への参加度）：60%

②期末試験：40%

※e宿題（教科書準拠のイーラーニング教材）は加点対象とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

**【Outline (in English)】**

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

**中国語コミュニケーション中級A** 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

**【到達目標】**

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	日常会話 述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	口頭テストを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教員によるプリント配布

**【参考書】**

必要であればその都度に指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

**【学生の意見等からの気づき】**

自由会話の時間を増やす。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

**【Outline (in English)】**

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

**中国語コミュニケーション中級B** 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

**【到達目標】**

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話 (1)	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表 (1)	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話 (2)	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表 (2)	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話 (3)	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表 (3)	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング (1)	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング (2)	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答

第14回 まとめ

口頭テストと総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教員によるプリント配布

**【参考書】**

必要であればその都度指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テストの成績 (60%) と発表 (40%) で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

**【学生の意見等からの気づき】**

自由会話の時間を増やす。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

**【Outline (in English)】**

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

## 中国語翻訳・通訳 A

2017年度以降入学者

王安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期は**HSK3級～4級**レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

## 【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験**や中検試験の受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。 <b>HSK</b> に関する説明
第2回	中国語重要文型の復習 (その1)	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習 (その2)	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方 (その1)	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方 (その2)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了” (その1)
第6回	動作の状態の表し方 (その3)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了” (その2)
第7回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第8回	これまでの復習	総合復習 (1)、中間テスト
第9回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第10回	重要な前置詞（介詞、その1）	“在”“从”“到”“離”
第11回	重要な前置詞（介詞、その2）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など
第12回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方

第13回 連体修飾と連用修飾 連体修飾の作り方、連用修飾の作り方

第14回 期末まとめ これまでの復習と期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。
- ・当日授業で説明した重要ポイントを必ず整理し、復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

## 【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40% + 中間テスト（30%）+ 期末テスト（30%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にない。

## 【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は中間・期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

## 【Outline (in English)】

## Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire difficult grammar points for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

## Objectives

1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.

## Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

## Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

## 中国語翻訳・通訳 B

2017年度以降入学者

王安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK4級～5級**レベル（中国語検定試験3～2級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

## 【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に付ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その1）	使役文
第5回	特殊構文（その2）	受け身文
第6回	特殊構文（その3）	“是…的”構文
第7回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	特殊構文（その4）	”把”構文
第10回	中国語の補語（その1）	結果補語と方向補語
第11回	中国語の補語（その2）	可能補語、数量補語
第12回	中国語の補語（その3）	数量補語、様態補語
第13回	中国語の複文	並列関係、累加関係、選択関係、因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。
- ・当日の授業で紹介した重要ポイントを必ず復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

## 【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40% + 中間テスト（30%）+ 期末テスト（30%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

## 【Outline (in English)】

## Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate~advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

## Objectives

1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate~advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.

## Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

## 中国語講読 A

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期はHSK 3、4級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

## 【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）

そのほか、適宜教場で示します。

## 【成績評価の方法と基準】

①平常点50%

②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

## 【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.



LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

## 中国語講読 B

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期はHSK 4、5級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

## 【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

## 【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など  
そのほか、適宜教場で指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

- ①平常点50%
- ②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

## 【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

## 資格中国語中級A

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
- 過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

## ■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

## ■授業の進め方と方法

- 小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]
- リスニング問題の解説 [約50分]
- 各種練習問題を通じたトレーニング [約30分]

## 【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第二部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK3級リスニング対策④	HSK3級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK3級リスニング対策⑤	HSK3級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と練習問題

7	HSK3級リスニング対策⑥	HSK3級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK3級リスニング対策⑦	HSK3級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK3級リスニング対策⑧	HSK3級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK3級読解対策①	HSK3級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3級読解対策②	HSK3級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3級作文対策	HSK3級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3級模擬試験と解説	HSK3級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

## 【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学生社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCまたはスマートフォンとインターネット環境

## 【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

## 【Outline (in English)】

## 【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

## 【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**[Grading criteria]**

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

## 資格中国語中級B

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

## 【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

## ■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK4級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

## ■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]
- ②リスニング問題の解説 [約50分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約30分]

## 【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と練習問題

7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と練習問題
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

## 【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点が100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

PCまたはスマートフォンとインターネット環境

## 【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

## 【Outline (in English)】

## 【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

## 【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

## 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.

- Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**[Grading criteria]**

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

**資格中国語上級A**

2017年度以降入学者

**康 鴻音**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

**【到達目標】**

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、言葉の使い分け、翻訳する力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

プリントを配布し、事前に用意してもらい、授業中みなさんが用意した課題をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。そして作文の書き方も指導します。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	レベルチェック HSK合格の基準 HSK5・6級に到達する概要
第2回	HSK5級の練習	「的」の使い方のまとめ
第3回	HSK5級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第4回	作文の基礎	作文の練習（400字） 練習問題など
第5回	HSK5級の練習	作文の問題点など
	翻訳	結果補語など
第6回	HSK5級の練習	比較の表現
	翻訳	逆接の表現など
第7回	HSK5級の練習	二重目的語
	翻訳	動詞述語文のまとめ
第8回	HSK5級の練習	目的語になる動詞句と主述句 など 作文の練習（400字）
第9回	HSK5級の練習	作文の問題点など
	翻訳	練習問題
第10回	HSK5級の練習	連用修飾語
	翻訳	前置詞など
第11回	HSK5級の練習	主語になる動詞句
	翻訳	慣用形など
第12回	HSK5級の練習	絵を見て作文練習（400字）
第13回	HSK5級の練習	作文の問題点
	翻訳	翻訳の練習
第14回	総復習	補足説明・期末試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

プリント配布

**【参考書】**

辞書を用意すること。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

読解力、翻訳力、作文力を高めると同時に発音指導も続けます。

**【その他の重要事項】**

中国人の留学生や中国語を母国語にしている皆さんは選択しないでください

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

**資格中国語上級B**

2017年度以降入学者

**康 鴻音**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力と作文力の向上を図ります。

**【到達目標】**

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、作文能力、翻訳能力を高めて、HSK5、6級が取れるよう目標にします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

翻訳と作文の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。提出された課題をチェックして返却します。問題点を個人個人に説明する他に、共通な問題点を全員にも説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4回	作文など	作文練習（400字）
5回	作文など	作文指導など
6回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8回	作文など	作文練習（400字）
9回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11回	HSK 6級	HSK 6級の練習
12回	HSK 6級	HSK 6級の練習
13回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14回	総復習	総まとめ・期末試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回に文法を学習する資料や課題などを出します。その用意された課題を授業中確認しながら説明します。

本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

プリント添付。

**【参考書】**

辞書を用意すること。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

読解力と翻訳力を高めると共に発音も指導する方法を続けてやります。

**【その他の重要事項】**

中国人の留学生や中国語を母国語にしている皆さんは選択しないでください

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「担仔麵に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」(みすず書房HPより抜粋)を取める焦桐『味の台湾』(川浩二訳、みすず書房、2021年。原書『味道福爾摩莎』)をテキストのひとつとして使用します。内容を味わいながら中国語圏の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら外国語にも慣れ親しむ予定です。

※中国語の学習経験がなくても構いません。

## 【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の確認作業を通して、外国語の世界に慣れ親しむ。
- ・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
- ・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

・焦桐『味の台湾』(川浩二訳、みすず書房、2021年)をテキストとし、項目ごとに担当者を決める。担当者は内容の整理、調査結果をまとめてプレゼンし、それをもとに参加者はリアクションペーパーを書き、ディスカッションを行います。なお、進度によってはシラバス記載のすべての項目を完了できない/シラバス記載以上の項目を扱う場合もあります。

調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「台湾珈琲 (台湾コーヒー)」篇を例にプレゼンテーション
3	『味の台湾』から読み解く食文化①	「担仔麵 (エビと肉とそぼろ入り汁麵)」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み解く食文化②	「肉臊飯 (豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯)」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み解く食文化③	「米粉湯 (米めん入りスープ)」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み解く食文化④	「芒果牛奶冰 (マンゴーミルクかき氷)」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み解く食文化⑤	「蚵仔煎 (カキのオムレツ)」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み解く食文化⑥	「小籠包 (スープ入り小肉饅頭)」篇に関する調査と発表

9	『味の台湾』から読み解く食文化⑦	「川味紅焼牛肉麵 (四川風牛肉煮込み汁麵)」篇に関する調査と発表
10	『味の台湾』から読み解く食文化⑧	「永和豆浆 (永和豆乳)」篇に関する調査と発表
11	『味の台湾』から読み解く食文化⑨	「仏跳牆 (さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ)」篇に関する調査と発表
12	『味の台湾』から読み解く食文化⑩	「刈包 (豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン)」篇に関する調査と発表
13	『味の台湾』から読み解く食文化⑪	「豆花 (おぼろ豆腐)」篇に関する調査と発表
14	春学期のまとめ	『味の台湾』から読み解く食文化のふりかえり

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

焦桐『味の台湾』(川浩二訳、みすず書房、2021年)

## 【参考書】

焦桐『味道福爾摩莎』(二魚文化事業有限公司、2015年)

## 【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (授業への参加度・リアクションペーパー)：50%
- ・プレゼンテーション：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回はPC等から参加できる環境を整えてください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.



ARSe300LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 300)

**教養ゼミⅡ**

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「吃货 (くいしんぼう)」のための食エッセイを収める崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』(川浩二訳、2019年、みすず書房。原書『吃货辞典』2014年、商務印書館)をテキストのひとつとして使用します。内容を味わいながら中国語圏の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら外国語にも慣れ親しむ予定です。  
※中国語の学習経験がなくても構いません。

**【到達目標】**

- ・映像資料の鑑賞・文献の確認作業を通して、外国語の世界に慣れ親しむ。
- ・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
- ・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

・崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』(川浩二訳、2019年、みすず書房)をテキストとし、項目ごとに担当者を決める。担当者は内容の整理、調査結果をまとめてプレゼンし、それをもとに参加者はリアクションペーパーを書き、ディスカッションを行います。なお、進度によってはシラバス記載のすべての項目を完了できない/シラバス記載以上の項目を扱う場合もあります。  
調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「燙干絲 (湯通した細切り押し豆腐)」篇を例にプレゼンテーション
3	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化①	「紅焼肉 (豚の角煮)」篇に関する調査と発表
4	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化②	「炸醬麵 (煎りみそ和え麵)」篇に関する調査と発表
5	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化③	「包子 (まんじゅう)」篇に関する調査と発表
6	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化④	「涮羊肉 (羊のしゃぶしゃぶ)」篇に関する調査と発表
7	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑤	「粽子 (ちまき)」篇に関する調査と発表

8	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑥	「生煎 (焼き小籠包)」篇に関する調査と発表
9	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑦	「牛大碗 (手延べ牛肉麵)」篇に関する調査と発表
10	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑧	「過橋米麵 (各種の付け合わせを添えた汁米麵)」篇に関する調査と発表
11	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑨	「夫妻肺片 (薄切りにした牛肉と牛モツの辛み和え)」篇に関する調査と発表
12	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑩	「雲吞麵 (ワンタンメン)」篇に関する調査と発表
13	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑪	「龍井蝦仁 (龍井茶風味の川エビ炒め)」篇に関する調査と発表
14	春学期のまとめ	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化のふりかえり

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』(川浩二訳、2019年、みすず書房)

**【参考書】**

崔岱遠『吃货辞典』(2014年、商務印書館など)

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点 (授業への参加度・リアクションペーパー)：50%
- ・プレゼンテーション：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

とくになし。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインの回はPC等から参加できる環境を整えてください。

**【Outline (in English)】**

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

## 第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2  
 単位数：2単位  
 定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

## 【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。  
 自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。  
 スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。

教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第0課 イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第1課 スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞0~10、スペイン語圏の名前
3	第2課 慣用句を便利に使う	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第3課 感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞ser、国籍、数詞11~20
5	第3課 感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第4課 いろいろな動詞を使う	規則動詞、疑問詞1、数詞21~30
7	第4課 いろいろな動詞を使う	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	動詞estar、直接目的語と間接目的語、数詞31~100、
9	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	túとusted への肯定命令、グアテマラ
10	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞estar、hay、位置関係を表す語句
11	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞2、コスタリカ

12	第7課 しなければいけない、するつもり	1人称単数不規則動詞、天候表現
13	第7課 しなければいけない、するつもり	動詞tener, ir、キューバ
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。

復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声聴いて発音練習を繰り返す。

宿題：練習問題

標準学習時間：計4時間

## 【テキスト (教科書)】

柳田玲奈/吉野達也『ラテアメ！ スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

## 【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社  
 高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社  
 西川喬『わかるスペイン語文法』同学社  
 小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社  
 高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんどリル！ スペイン語文法目録』同学社  
 その他、授業中に適宜紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、小テスト (10%)、期末試験 (40%) から総合的に評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

テキストの音声聴くための機器 (パソコン、スマートフォンなど) とインターネット環境。

## 【その他の重要事項】

長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことが薦めます。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners. The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process;  
 in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

**第三外国語としてのスペイン語 B** 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2  
 単位数：2単位  
 定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

**【到達目標】**

現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。  
 簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。  
 スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。  
 教員が文法事項を説明し、履修生は音声聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。  
 アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第9課 好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第9課 好きなものを伝えよう	前置詞格人尿代名詞、動詞 gustar
5	第10課 日常生活について話そう	再帰動詞
6	第10課 日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第12課 過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第12課 過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第13課 過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第13課 主語のない文を使おう	無人称表現、muy と mucho

13	第14課 昔のことを語等	線過去、アルゼンチン
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。

復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声聴いて発音練習を繰り返す。

宿題：練習問題

標準学習時間：計4時間

**【テキスト (教科書)】**

柳田玲奈/吉野達也『ラテアメ！スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

**【参考書】**

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社

高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社

西川喬『わかるスペイン語文法』同人社

小川雅美『スペイン語ワークブック』同人社

高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんどリル！スペイン語文法項目別』同人社

その他、授業中に適宜紹介。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (50%)、小テスト (10%)、期末試験 (40%) から総合的に評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

テキストの音声聴くための機器 (パソコン、スマートフォンなど) とインターネット環境。

**【その他の重要事項】**

長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことを薦めます。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process;

in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

## スペイン語上級A

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化の理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

## 【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。

9	講読8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当番学生は、授業で扱う読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに教材を徹底的に読みこみ、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

なし

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

発表内容50%、ディスカッションへの参加姿勢25%、他の学生の発表の際の参加姿勢25%を目安として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

## 【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

**スペイン語上級B**

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (40)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

スペインS A修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

**【到達目標】**

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。テーマに関するディスカッション。
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。

9	講読8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

発表内容50%、ディスカッションへの参加姿勢25%、他の学生の発表の際の参加姿勢25%を目安として総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

なし

**【Outline (in English)】**

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

**スペイン語コミュニケーション中級A** 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

春学期はオンライン授業と対面授業のハイブリッド（半数以上の授業は対面で実施される）での開講となる。対面以外の授業はZOOMを使ってリアルタイムで行う。授業の形式はその都度 Hoppii を通じて発表する。ZOOMに滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

**【到達目標】**

スペインの文化習慣（結婚式に関する様々な話題）を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末試験として「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。それに対してHoppiiを通じてfeedbackを与える。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式の開催時刻の習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式会場	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式の披露宴の招待客	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式の披露宴の席順	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式の披露宴のダンス（前半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式の披露宴のダンス（後半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

7	スペインの結婚式の二次会のはじまり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式の二次会の終わり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペインの結婚式のお祝儀の渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式のお祝いプレゼントの渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式のカトリック儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの結婚式の非宗教儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの恋人たち	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	春学期の総復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通していただく必要がある。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

**【Outline (in English)】**

The spring semester will be a hybrid of online and face-to-face classes (more than half of the classes will be conducted face-to-face). Classes other than face-to-face will be conducted in real time using ZOOM. The format of the classes will be announced via Hoppii on a case-by-case basis. You need to prepare the equipment environment so that participation in ZOOM is possible without delay.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Each session begins with a 10-question exercise in Spanish with classmates. This is followed by a review of the previous lesson, listening to a new sample text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and training in translating from Japanese to Spanish.

There is no homework in this class. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "Japanese weddings" and make an oral presentation. They will be asked questions in Spanish about the written content.

Grading Criteria:

1. Score based on the students' responses when they are pointed out in class. Also, students' attitude and active participation in class → 60
2. Points based on report and oral examination at the end of the term → 40

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practice answering the 10 questions. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

**スペイン語コミュニケーション中級B** 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

秋学期はオンライン授業と対面授業のハイブリッド（半数以上の授業は対面で実施される）での開講となる。対面以外の授業はZOOMを使ってリアルタイムで行う。授業の形式はその都度 Hoppii を通じて発表する。ZOOMに滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

**【到達目標】**

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

スペインの文化習慣（クリスマスと新年に関する様々な話題）を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

**【授業の進め方と方法】**

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。それに対してHoppiiを通じてfeedbackを与える。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス宝くじの習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマスシーズンの始まり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマスイブの過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス飾り付け	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマスプレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの大晦日の過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

7	スペインの大晦日の年越しぶどうの起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの大晦日の年越しぶどうの食べ方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペインの元旦について	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの元旦の習慣の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの東方の三賢人のパレード	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの1月6日の祝日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマス休暇	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	秋学期の総合復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%

2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

**【Outline (in English)】**

The fall semester will be a hybrid of online and face-to-face classes (more than half of the classes will be conducted face-to-face). Classes other than face-to-face will be conducted in real time using ZOOM. The format of the classes will be announced via Hoppii on a case-by-case basis. You need to prepare the equipment environment so that participation in ZOOM is possible without delay.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Each session begins with a 10-question exercise in Spanish with classmates. This is followed by a review of the previous lesson, listening to a new sample text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and training in translating from Japanese to Spanish.

There is no homework in this class. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "Japanese Christmas and New Year" and make an oral presentation. They will be asked questions in Spanish about the written content.

Grading Criteria:



1. Score based on the students' responses when they are pointed out in class. Also, students' attitude and active participation in class → 60%
2. Points based on report and oral examination at the end of the term → 40%

To prepare for this lesson, you will need to memorize the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practice answering the 10 questions. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

## 教養ゼミ I

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木2/Thu.2

単位数: 2単位

定員制 (30)

その他属性: 〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペイン (およびスペイン国家形成以前のイベリア半島) の歴史をテーマとし、春学期は前近代 (古代～近世) の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

## 【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン (イベリア) 史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン (イベリア) 史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン (イベリア) 古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン (イベリア) 中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17世紀のスペイン史について学ぶ。

- |    |           |                           |
|----|-----------|---------------------------|
| 12 | 絶対王政と啓蒙   | 18世紀のスペイン史について学ぶ。         |
| 13 | スペインの世界遺産 | 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。 |
| 14 | 春学期のまとめ   | 今学期の学習内容を総括的に振り返る。        |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

## 【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN 9784750340326、本体価格5,800円。

## 【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い: 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

- スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

## 【Outline (in English)】

## 《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

## 《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion.

## 《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

## 教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペインの歴史をテーマとし、秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

## 【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18世紀末から19世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。

- |    |         |                             |
|----|---------|-----------------------------|
| 13 | スペインの憲法 | 歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。 |
| 14 | 秋学期のまとめ | 今学期の学習内容を総括的に振り返る。          |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

## 【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN 9784750340326、本体価格5,800円。

## 【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い：100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

- 履修予定者は、秋学期の初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

- スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

## 【Outline (in English)】

## 《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

## 《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion.

## 《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

## 《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

## スペイン語講読A

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

## 【到達目標】

初級・中級文法 (学期終了までに、およそ接続法現在まで) の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

## 【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課 文法復習	教科書第1課の文法復習 (直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など)
3	2課 文法復習	教科書第2課の文法復習 (再帰動詞など)
4	2課 読解	教科書第2課の本文読解
5	3課 文法復習	教科書第3課の文法復習 (直説法現在完了、直説法点過去など)
6	4課 文法復習	教科書第4課の文法復習 (直説法線過去など)
7	4課 読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課 文法復習	教科書第5課の文法復習 (直説法過去完了、受身表現など)
10	6課 文法復習	教科書第6課の文法復習 (直説法未来、直説法過去未来など)
11	6課 読解	教科書第6課の本文読解
12	7課 文法復習	教科書第7課の文法復習 (関係詞など)
13	8課 文法復習	教科書第8課の文法復習 (接続法現在など)
	8課 読解	教科書第8課の本文読解

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施  
まとめと振り返りを行う

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書各課の予習 (未知の単語を辞書で調べることなど) や宿題 (教科書の練習問題) に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

## 【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないほしい。

## 【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

## スペイン語講読 B

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

### 【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

### 【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル (Pedro Almodóvar) 監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』(原題: *Todo sobre mi madre*, 1999年) のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。

問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。

現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン 0～11	シーン 0 から 11 までの読解
3	シーン 12～23	シーン 12 から 23 までの読解
4	シーン 24～35	シーン 24 から 35 までの読解
5	シーン 36～47	シーン 36 から 47 までの読解
6	シーン 48～59	シーン 48 から 59 までの読解
7	シーン 60～71	シーン 60 から 71 までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン 72～83	シーン 72 から 83 までの読解
10	シーン 84～95	シーン 84 から 95 までの読解
11	シーン 96～107	シーン 96 から 107 までの読解
12	シーン 108～119	シーン 108 から 109 までの読解
13	シーン 120～122	シーン 120 から最後までの読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回読解する箇所の予習 (未知の単語を辞書で調べることなど) に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

### 【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read long conversation texts in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

